

ま ち の
再 発 見 運 動
記 録 集

平成15年度

生活復興県民ネット

平成15年度「まちの再発見運動活動記録集」の発刊に寄せて

阪神・淡路大震災は、それまで慣れ親しんできたまちの風景を一変させました。建物は新しくなりまちの復興は進む一方で、「これまでの歴史が失われてしまった」「高齢化の進展で伝統行事の担い手が少なくなってしまった」「利用されないままの空き地が増えた」「まちの緑が少なくなった」「子どもと老年寄りの交流も少なくなり、地域の結びつきも弱くなった」等々の声が聞かれます。

そうした中で、昔から住んでいる住民と震災後に新しく移り住んできた住民が一緒になって、新しくまちの歴史を創り出そうとする力強い取り組みも始まっています。

こうした状況に呼応して生活復興県民ネットでは、まちのにぎわいを取り戻してもらうことをねらいとして、平成14年度から「まちの再発見運動支援事業」に取り組んでいます。この支援事業では、自治会、婦人会、老人クラブあるいは子ども会といった地域の基盤的団体が中心になって、地域固有の自然や歴史あるいは地域住民の知恵や技術といったさまざまな地域資源を活用しながら「住んでいてよかった」「住みつづけたい」と思えるような事業を企画・実施していただくもので、生活復興県民ネットでは、その経費の一部を助成しています。

とりわけこの支援事業では、取り組みの成果物よりも取り組み過程を重視しています。地域に住む住民が一人でも多く参画し、老若男女の別なく各世代が一緒になって、その地域にしかない資源—例えば、まちの風景や文化、人情、歴史、産業、風土など—いわゆる「わがまち自慢」を見つけ出し、その資源を活用しながら地域をよりよくするための活動に取り組んでいただきます。

ひとり一人が住んでいる地域に関心を持ち、人と人、人と地域との関わりを深め、まちの困りごとにはみんなが主体的に関わり、互いに知恵を出しあって解決していくことによって、誰もが生き生きとして暮らしやすく、地域への愛着も深まっています。

この「まちの再発見運動支援事業」に取り組む団体も年々増えており、この事業を通じて地域組織の活性化や地域活動の広がりのほか、地域あげでの協働作業を通じて異世代交流や地域コミュニティづくりの促進にも寄与するなど、多くの成果が生まれています。

とりわけ、地域コミュニティの強さが復興過程でも大きな力を発揮しており、近い将来予測される東南海あるいは南海地震に対する備えとして、地域防災力を高める効果も期待されています。

このたび作成しました「平成15年度 まちの再発見運動活動記録集」は、平成15年度に被災各地でまちのにぎわいを取り戻そうと取り組んでこられた48事業のねらいや事業プロセス、その成果と今後の展望等をまとめたものです。いずれの事例も利用できる地域資源は異なりますが、それを活用する手法や取り組み過程には、今後の地域活動を考えるうえで数多くのヒントが含まれています。

この事例集が、今後の地域づくりやコミュニティづくりを考えておられる地域団体にとって学びの一助となり、参考事例集として積極的に活用していただければ幸いです。

最期になりましたが、当事業の推進にあたり、審査委員長として貴重なご意見やご指導をいただきました小西康生神戸大学教授をはじめ、この事業の推進にあたりご協力いただきました多くの方々に対しまして、改めて厚くお礼を申し上げます。

平成16年3月

生活復興県民ネット代表
新野 幸次郎

目 次

1 平成15年度事業概要	4
2 まちの再発見運動の実施地域	6
3 事業内容	
(1)ウエストコート9番街自治会／六甲アイランド美しい街再発見運動（神戸市東灘区）	8
(2)深江地区まちづくり協議会／深江地域再発見事業（神戸市東灘区）	10
(3)御影北ふれあいのまちづくり協議会／御影北ふるさとだんじり再発見（神戸市東灘区）	12
(4)KOBEEイーストクラブ／鳥取県日南町民ミュージカル「そばの花」公演（神戸市東灘区）	14
(5)在日本大韓国民団兵庫県阪神支部／東神戸在日コリアン形成史資料作成プロジェクト（神戸市東灘区）	16
(6)大石南町まちづくり協議会／大石の歴史掘り起こし隊（神戸市灘区）	18
(7)輝なだ／まちの再発見運動（神戸市灘区）	20
(8)灘中央地区まちづくり協議会／なつかしき心のまちかど再発見（神戸市灘区）	22
(9)フェニックスステーション福住／街のお宝発見－街の大きな掲示板－（神戸市灘区）	24
(10)サン・サン・クラブ／まちの再発見運動（神戸市中央区）	26
(11)脇の浜ふれあいのまちづくり協議会／第2回わがまちHAT絵画・写真コンテスト（神戸市中央区）	28
(12)大日通周辺地区まちづくりを考える会／大好き！！わたしのまち再発見写真コンテスト事業（神戸市中央区）	30
(13)平野ふるさとづくり親子の会／平野ふるさとづくりお地蔵さんマップづくり（神戸市兵庫区）	32
(14)平野の史跡を守る会／平野の町に史跡マップ（神戸市兵庫区）	34
(15)新開地周辺地区まちづくり協議会／第1回新開地映画祭（神戸市兵庫区）	36
(16)日西原神楽保存会／日西原地域生活と文化再発見（神戸市北区）	38
(17)御蔵通5・6・7丁目自治会／みんなで作ろう！百人百色彩るた（神戸市長田区）	40
(18)真陽子ども会／“真陽・まちのアーカイブ映像”づくり事業（神戸市長田区）	42
(19)駒ヶ林まちづくり協議会／駒ヶ林の歴史マップ「駒っぴ歴史編」の作成及び「駒ヶ林むかし写真展」の開催（神戸市長田区）	44
(20)稲葉公園安心コミュニティプラザふれあい協議会／西須磨昔話紙芝居づくりと昔遊びの集い（神戸市須磨区）	46
(21)須磨浦通6丁目自治会／「ケータイ」で歴史を携帯（神戸市須磨区）	48
(22)神和台ネット／神和台わくわくネットワーク（神戸市垂水区）	50
(23)東垂水地区まちづくり推進会／東垂水散歩道絵地図（神戸市垂水区）	52

(24)伊川を愛する会／ふるさとの川「伊川」の魅力アップ作戦（神戸市西区）	54
(25)西神ニュータウン研究会／西神ニュータウンの歴史の発掘（神戸市西区）	56
(26)中央三和出屋敷商業地区まちづくり協議会／尼崎名物の再発見運動「メイドインアマガサキ・コンペ」（尼崎市）	58
(27)神崎社会福祉協会／神崎川メイクアップ事業（尼崎市）	60
(28)大庄地区子ども会連絡協議会／子どもと老人の絵画展（わが町の自然）（尼崎市）	62
(29)自然と文化の森協会／自然と文化の森構想推進運動・事業（尼崎市）	64
(30)本庁地区青少年を育てる協議会／まちの音楽家を探そう（尼崎市）	66
(31)本庁南地区子ども会連絡協議会／ふるさとの今と昔（尼崎市）	68
(32)大庄西社会福祉連絡協議会／子ども“なんでだろう？”TV局（尼崎市）	70
(33)アミング・サウス福寿会／JR尼崎駅北周辺を尼崎市の花木でのイメージUP（尼崎市）	72
(34)尼崎市道意社会福祉連絡協議会／道意誕生350周年記念誌（わが町の歴史と文化）（尼崎市）	74
(35)うえがはらっこクラブ／はばたけ！うえがはらっこ2003（西宮市）	76
(36)上田西公園の環境を考える連絡会／よみがえれ上田西公園「くじらのいた町再発見」（西宮市）	78
(37)浜脇連合婦人会／クリエイトinふれあいネットワークづくり事業（西宮市）	80
(38)西宮市授産活動振興委員会／にしのみやふくし縁日2003（西宮市）	82
(39)東山台自治会連合会／西宮名塩ニュータウンの斜行エレベーターを活用したまちづくり（西宮市）	84
(40)天神川・天王寺川を守る会／天王寺川・天神川再発見事業（伊丹市）	86
(41)あしたの伊丹の「まち」を創りだす会／伊丹郷町イラスト・マップ案内板設置の取組み（伊丹市）	88
(42)JR伊丹駅周辺自治会／有岡城再発見（伊丹市）	90
(43)ゆずり葉コミュニティ／「まちづくり地域計画」の推進事業（宝塚市）	92
(44)宝塚市西山コミュニティ協議会／記憶に残そう昭和の西山（宝塚市）	94
(45)西谷地区まちづくり協議会／里山整備パートⅡ（宝塚市）	96
(46)多田東小学校区地域活動促進委員会／自慢出来るまち多田東（川西市）	98
(47)太寺4丁目まごの手会あじさいグループ／福祉コミュニティづくりと担い手再発見事業（明石市）	100
(48)東浦町老人クラブ連合会／伝承文化ガイド標識づくり事業（津名郡東浦町）	102

平成15年度「まちの再発見運動」支援事業概要

1 事業目的

被災地におけるまちのにぎわいづくりをねらいとして、自治会や婦人会をはじめとする地域団体が、住民の総意で地域固有の自然や歴史、地域の豊かな知恵や技術等の地域資源を活用しながら、誰もが「住んでいてよかった」「住みつづけたい」と思えるようなまちづくり等に取り組む場合に、その経費の一部を補助（1件あたり50万円以内）する。

2 応募対象団体

自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会等の地域組織による、住民主導の協働による事業。
（テーマ系組織との連携について）

テーマ系組織の支援により、地域組織が実施するなど、地域組織とテーマ系組織が連携・ネットワークを図りながら運動を進める場合も、応募は地域組織とする。

3 実施状況等

1次及び2次の募集で71件の応募があり、審査委員会で49件を採択した。

《1次募集の概要》

- ・募集期間 平成15年5月12日～平成15年5月30日
- ・事業期間 平成15年5月1日～平成15年12月31日
- ・申請件数 41件
- ・採択件数 28件（うち、事業中止が1件）

《2次募集の概要》

- ・募集期間 平成15年7月28日～平成15年8月8日
- ・事業期間 平成15年8月1日～平成15年12月31日
- ・申請件数 30件
- ・採択件数 21件

《審査委員会の開催状況》

- ・開催日 （1次募集分）平成15年6月23日
（2次募集分）平成15年8月28日
- ・審査委員長 神戸大学経済経営研究所教授 小西康生

《実施状況等》

昨年度に比べ、事業開始から2回目を迎えた今年度は、応募件数も59件から71件と着実に増加し、事業の周知とあいまって各地で活発な取り組みが展開されるようになった。当初は新たに始まった各県民局（こころ豊かな美しい地域推進会議）の地域団体活動パワーアップ事業や神戸市におけるパートナーシップ活動助成事業との競合が懸念されたが、各々の事業による広報や地域活動の掘り起こしによる相乗効果が出たものと推察される。

とりわけ、尼崎市では初年度3件から12件に、西宮市では2件から7件へと顕著に増加したが、地元市町が地域づくりの一貫として、積極的にこの制度を活用するよう地域団体に働きかけていただいた結果として、地域的偏在が顕著に表れている。さらに組織的な広報に加え、地域間の口コミによる広報効果が取り組み件数の増加につながったこともみのがせない。

また、今年度の取り組み内容でみると、地域資源を地図に落とし込んだタウンマップの作成が16件から10件に減少し、伝統文化の継承が7件から14件へと倍増しているのが目立つ。制度創設2年目には地域資源の発掘からさらに一歩踏み込み、再発見したものを活用しながら、住民参加の新しい事業へと発展させる積極的な取り組みが増えたことが特徴的であった。

また、住民参画の方法として「実行委員会」といった組織を作ることにより、地域組織のリーダー候補を育てる方法を採用する団体も増えつつある一方で、NPOが積極的に地域団体に働きかけて、協働の取り組みとして成果をあげる例が増えたことも今年度の特徴であった。

報告会では前年度の約2倍の参加者があり、熱心な発表に耳を傾けるとともに、活動成果を展示したコーナーでは食い入るように見たり、写真をとったりしている姿があり、関心の高さをうかがうことができた。

神戸市北区の取り組みが2年連続して大賞を受賞することになったが、いずれの取り組みも、地域固有の資源を地域の方が楽しみながら、次々と新しい企画に発展させていくなど、単に事業の広がりのみならず住民参画の裾野の広がりを意識しながら、次世代に伝える工夫が随所に凝らされており、他の取り組みの参考とするに相応しい取り組みであった。

《参考》

・地区別分類

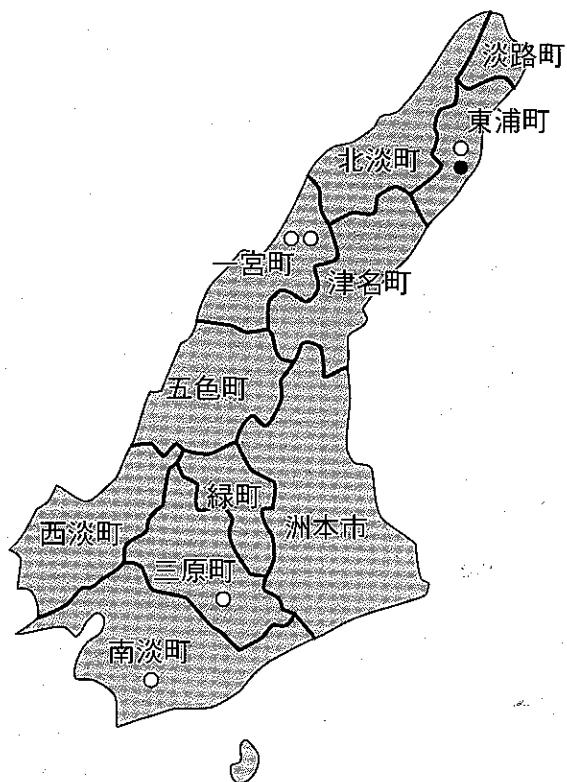
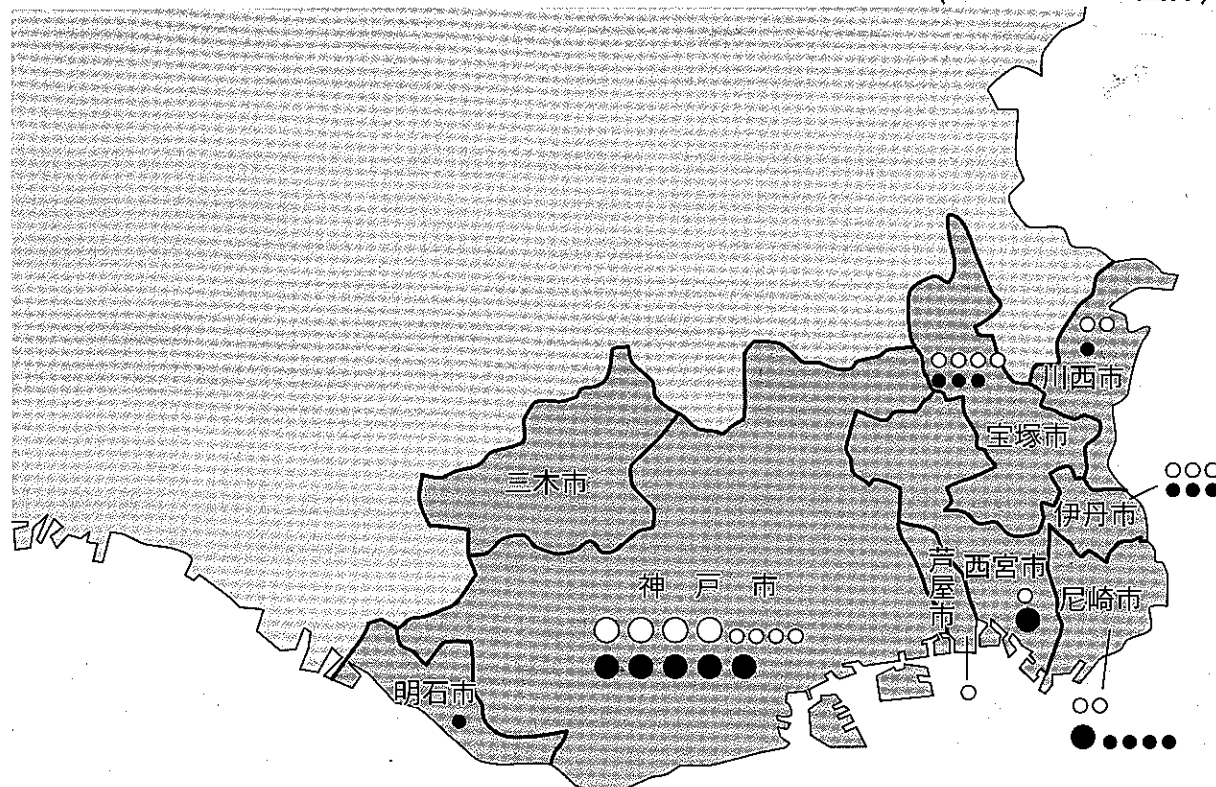
市町名	応募件数	実施件数
神戸市	35	25
尼崎市	12	9
西宮市	7	5
芦屋市	1	0
伊丹市	3	3
宝塚市	6	3
川西市	1	1
明石市	2	1
東浦町	1	1
西淡町	1	0
三原町	1	0
南淡町	1	0
計	71	48

・事業内容別分類

区 分	応募件数	実施件数
祭り、イベント	28	20
伝統文化継承	14	9
タウンマップ	12	10
地域シンボル	8	4
そ の 他	9	5
計	71	48

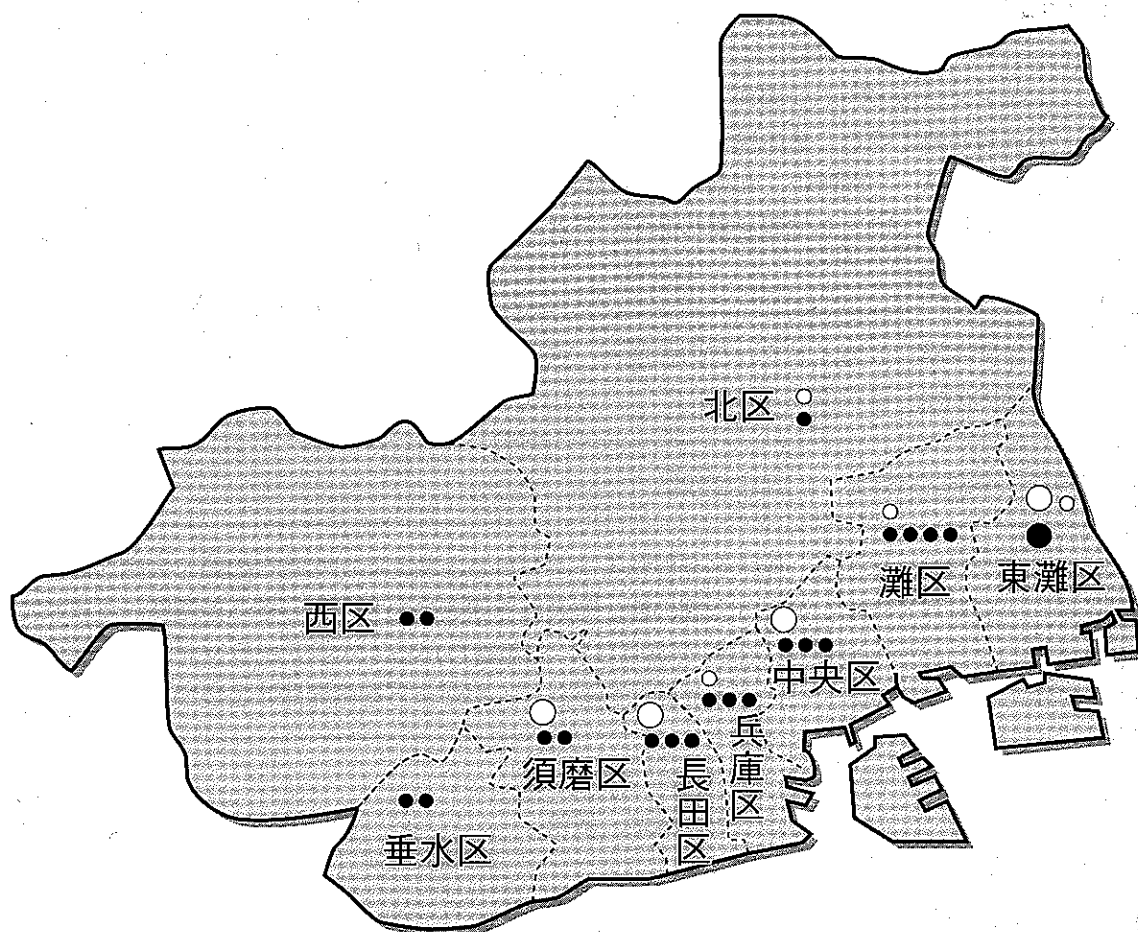
まちの再発見運動の実施地域

(凡例 ○ : 5 団体
● : 1 団体)



県民局	事業対象地域	平成14年度 実施団体数○	平成15年度 実施団体数●
神戸	神戸市	24	25
阪神南	尼崎市	2	9
	西宮市	1	5
	芦屋市	1	—
	計	4	14
阪神北	伊丹市	3	3
	宝塚市	4	3
	川西市	2	1
	計	9	7
東播磨	明石市	—	1
北播磨	三木市	—	—
淡路	洲本市	—	—
	津名郡津名町	—	—
	津名郡淡路町	—	—
	津名郡北淡町	—	—
	津名郡一宮町	2	—
	津名郡五色町	—	—
	津名郡東浦町	1	1
	三原郡緑町	—	—
	三原郡西淡町	—	—
	三原郡三原町	1	—
	三原郡南淡町	1	—
	計	5	1
合計		42	48

まちの再発見運動の実施地域（神戸市各区分）（凡例 ○：5団体 ●：1団体）



	事業対象地域	平成14年度	平成15年度
		実施団体数○	実施団体数●
神戸市	東 灘 区	6	5
	灘 区	1	4
	中 央 区	5	3
	兵 庫 区	1	3
	北 区	1	1
	長 田 区	5	3
	須 磨 区	5	2
	垂 水 区	—	2
	西 区	—	2
計		24	25

(1)六甲アイランド美しい街再発見運動

●＜ウエストコート9番街自治会＞

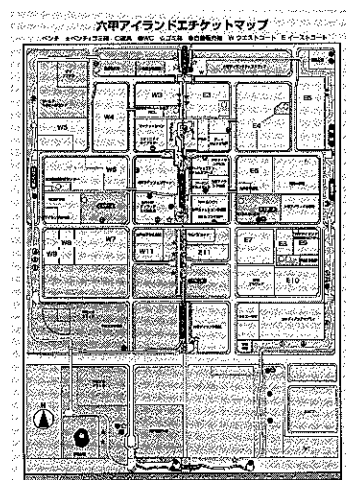
●神戸市東灘区向洋町中 代表：長谷川 鈴子

目的	六甲アイランド内の公園を子どもたちと散策しながら、ごみ箱、ベンチ、トイレ、遊具などの施設を見て回り、その情報をもり込んだマップを作成する。島内外の人々に施設を快適に使ってもらおうと同時に、利用マナーの向上をはかるのを目的としている。 公園の樹についても情報を集め冊子にまとめることで、子どもから大人まで地域に愛着をもってもらおう。	
内容	・六甲アイランドガイドマップの作成 ・公園内の樹の資料作成	
地域	神戸市東灘区向洋町 向洋中学校区	
事業の効果	公園を散策しながら、樹木名を尋ねる子どもたちと教えるお年寄りの間で会話がはずみ、楽しい交流ができた。後日「公園の樹」写真展で顔を合わせ、いっそう連帯感も生まれた。子どもたちから「今度この公園で遊ぼう」、お年寄りから「六甲アイランドはこんなに美しい街だったんだなあ」という声が聞かれるなど、わがまちを再発見する良い機会になった。	
事業経過	8月11日 連携団体と打ち合わせ 9月15日 シティヒル（周回緑地）散策 20日 宝島探検 実施 21～25日 樹木の写真撮影 9月30日～10月7日 「公園の樹」写真展 11～18日 写真の整理 10月21日～11月17日 ガイドマップ原案づくり 資料づくり 12月5日 ガイドマップ完成 7日 ガイドマップの配布（自治会、神戸新交通ほか） 8日 ガイドマップの配布（ウエストコート全戸） 14日 反省会	
連携団体	向洋ふれあいのまちづくり協議会	
成果物	・「六甲アイランドエチケットマップ」 10,000部 ・「六甲アイランドー公園の樹」 20部	

今後の展望

今回の公園散策は、広報不足と学校行事が重なったため参加者が少なかったもので、次回は行事予定を確認のうえ、広く参加を呼びかけたい。ガイドマップもわかりやすく、より正確な内容に充実させていきたいと考えている。

「公園の樹」についても写真撮影できていなかった樹があるので、さらにくわしく調べていきたいと協議している。



問合せ先

長谷川 鈴子 神戸市東灘区向洋町中 078-858-4211

コメント

六甲アイランドの復興住宅に自治会ができて6年。高齢の方々にもっと戸外に出ていただきたいとの思いで、初めての「まちの再発見運動」を企画しました。

事業終了後に公園を散歩する人が多くなってきたのが喜びの一つです。

＜ウエストコート9番街自治会 長谷川 鈴子＞

(2) 深江地域再発見事業

●＜深江地区まちづくり協議会＞

●神戸市東灘区本庄町 代表：佐野 末夫

目的	神戸市から借り受けた更地を「まちのシンボル花壇」として再生する。 この花壇は深江地域の中央に位置し、歴史的にも江戸時代に尼崎藩が高札を立てたと言われる札場筋にあたる。花壇づくりを通して、その歴史を地域のコミュニティづくりに役立てるとともに、心をいやす場として環境美化につなげたい。 また震災後、新住民が増えていることもあり、「深江地域にゆーす」を発行して地域の情報を共有したい。	
内容	・「まちのシンボル花壇」づくり ・情報誌づくり	
地域	神戸市東灘区本庄町、深江北・深江本・深江南・深江浜町 本庄中学校区	
事業の効果	「まちのシンボル花壇」として整備する前は雑草が生え、空き缶の捨て場となっていたが、花壇の整備によって町の環境がよくなり、通学の子もたちも毎朝ここを通過して学校へ行く途中、掲示板を話題にしてくれている。近隣の方も木や花を持ってきて植えるなど、地域に愛される公園となっている。 また「札場筋街道公園」と名前をつけたことで、地域の人たちにも名前の由来に興味をもってもらえることができ、高い評価を得ている。 公園の花植えでは学童保育の子もたちの参加があり、掲示板の設置では子ども会の保護者の協力を得るなど、地域住民間の交流と親睦が深まった。	
事業経過	7月15日 「深江地域にゆーす」編集委員会議 31日 「深江地域にゆーす」印刷物を区分け 9月13日 「深江地域にゆーす」編集委員会議 27日 「深江地域にゆーす」印刷物を区分け 11月15日 札場筋街道公園づくり 16日 札場筋街道公園づくり 23日 公園の掲示板立て（子ども会保護者協力） 12月14日 子どもたちと公園の花植え 花の写真掲示 16日 「深江地域にゆーす」編集委員会議 28日 「深江地域にゆーす」印刷物を区分け	
連携団体	なし	

- ・「札幌筋街道公園」
まちのシンボル花壇
掲示板
- ・「深江地域にゆーす」 10,000部

「まちのシンボル花壇」については、将来の阪神電鉄高架工事に伴って無くなる可能性が高いことから、今回の花壇づくりをきっかけに育ってきた地域住民の協力によって阪神深江駅の花壇公園の設置活動を推進していきたい。

また「深江地域にゆーす」は、地域内における人材発掘および情報提供者を増やすなど、地域活動における人材育成のために、資金の続くかぎり発行を続けていきたい。



深江地域にゆーす

東瀧小学校で南海大地震の津波対策訓練と合同
9/6(土) 東瀧区総合防災訓練が実施される



午後2時に、北浜車庫前でM8.4の強い地震発生した。東區区内では岐阜市街地等、強いところでは震度6強の地震が発生。木造家屋を中心に建物倒壊、火災などの被害が生じている。また、90分には神戸市役所前への潮流の到来が予想されている。との想定のもと、300人の参加を得て防災訓練が東區小中学校において実施されました。

【東武区総合防災訓練の風景（東武小）】

グランド・ツアーがますますなるほどアクティビティの中、
 有名人の教養やセクシュアリティにたどり着いた。そして南米船
 の使用も驚くべき知識が、地産の知識から交わるが、
 貴族の本音とながらに真面目に行われた。

また、制作者の下には「南米地区よりつくり組委員会」が、イ
 ベントのためにやってきた活動中に見られた活動員に
 に対する活動員による活動員、重宝に活動員に託した



●「東海消防署長に義援金を託す」

阪神深江駅前をきれいに緑化しました。

「瀬川地区まちづくり協議会」では、神戸市と協力して瀬川駅の北側に「瀬川駅前花苑」を増設することになりました。9月30日には地域の子どもたちや出陣の方々のご協力を得て、地域の人の心を癒す花づくりができました。

なお、歩道も広くりましたが、心優しい人の自転車乗で歩道が埋まっています。お互いになんげとあって、歩道を広く使えるようにして下さい。



●【花を植えるこどもたち】



【花苑のリンゴも採りました】



【自転車に乗った歩道】

問合せ先

佐野 末夫 神戸市東灘区本庄町 078-411-9335

コメント

阪神電鉄高架工事地域に伴って、神戸市が買収した土地に雑草が生え、空き缶などのゴミ捨て場と化すなど環境が著しく悪化してきたことから、神戸市と交渉し、目的外使用として公園を作りました。公園に保護力バー付きの掲示板を設置し、小学生の絵や写真を展示することで、道行く人たちの目にも触れ、地域住民に喜ばれています。

また、「深江地域にゆーす」についても、震災後に深江地域に住む人が急増し、地域の実情や環境・歴史を知らなかった方々から「とても良い情報だ」と評価していただいています。

＜深江地区まちづくり協議会 佐野 末夫＞

(3)御影北ふるさとだんじり再発見

●＜御影北ふれあいのまちづくり協議会＞

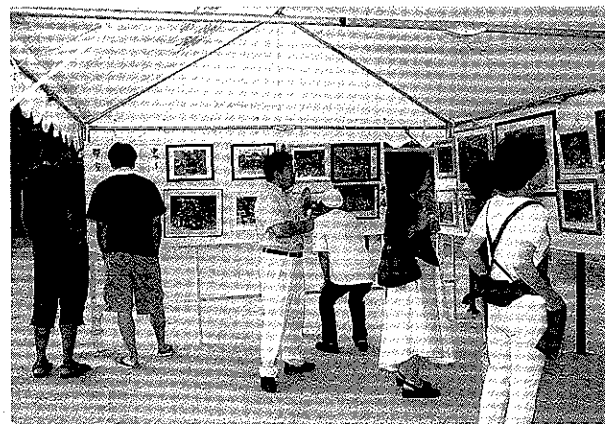
●神戸市東灘区御影町 代表：藤澤 福男

目 的	御影は神功皇后時代から拓けた歴史あるまちであり、数多くの歴史資源がある一方で山手には新しい町もあり、新旧住民の交流をより深めていく必要があると考える。 そこで改めて御影のまちを再発見し、地域への愛着とふるさと意識を高揚し、それをきっかけとする住民相互のコミュニケーションを図る原動力とするため「御影北ふるさとだんじり再発見」を開催する。	
内 容	・御影北夏祭り ・「だんじり囃子をたたこう会」	
地 域	神戸市東灘区御影町、御影中町の一部、御影山手、御影石町の一部 御影中学校区	
事 業 の 効 果	事業を進めていくうちに協力してくれる団体や個人が増え、参加者全員が深い満足感と充実感をあじわい、地域・異世代間の交流と地域のコミュニティの促進など、御影の活性化に大きく寄与した。 「だんじり囃子をたたこう会」では経験者が新住民や子どもたちに「だんじり」の歴史を伝え、「鳴り物」の鳴らし方を教えることにより、異世代交流および伝統行事の継承を図ることができた。またこのことにより地域が子育ての一端を担うきっかけづくりになった。	
事 業 経 過	5月29日 6月21日 7月16日 26,27日 8月2,3日 23日 9月20日 10月26日	「御影北ふるさとだんじり再発見」夏祭り実施を総会で承認 だんじり写真展示場・夜店の場所決定、照明・警備案の検討 夏祭り最終決定と確認 御影音頭の練習 御影北夏祭り 反省会と会計報告 「だんじり囃子たたこう会」実施内容の打ち合わせ 「だんじり囃子たたこう会」の実施
連 携 団 体	なし	
成 果 物	・御影北夏祭り だんじり写真展 ・「だんじり囃子をたたこう会」 だんじりの歴史学習 鳴り物体験教室	

今後の展望

今回の事業を今年だけで終わらせずに来年以降も継続して開催し、この地区の住民が御影をくわがふるさと>と思えるようにしていきたい。

また、次代を担う子どもたちの育成を地域で行えるように活動したい。



問合せ先

高橋 祐一 神戸市東灘区御影町 078-811-1992

コメント

御影のまちには、地車（だんじり）が11基あります。これを曳き廻すことは、新しく御影に居を構えた方々にとって、古めかしく誠に珍しい光景のようです。21世紀は文化・芸術の時代だと云われています。折角、昔から引き継がれてきた文化財ですから有効に活用して、次代に生きる子ども達に伝統を教え、継承してもらうことが私達の務めであると考えています。

<御影北ふれあいのまちづくり協議会 藤澤 福男>

(4)鳥取県日南町民ミュージカル「そばの花」公演

●＜K O B E イーストクラブ＞

●神戸市東灘区住吉宮町 代表：江藤 暢英

目 的	戦争の激化した昭和20年6月、御影第一・第二国民学校の児童約200名が鳥取県福栄村（現：日南町）へ学童疎開した。「そばの花」はこの実話を題材にした作品であり、この作品の上演を通じて自分たちのまちが震災と戦災に遭ったことを知り、家族や友達の大切さ、戦争の悲惨さを再認識する機会とする。 また、地域社会で育まれた異なった文化と伝統の交流によって、次世代の郷土文化を構築する「心」を創り出す。	
内 容	・ミュージカル「そばの花」公演	
地 域	神戸市東灘区御影町 御影・住吉中学校区	
事 業 の 効 果	「そばの花」は神戸ではなく鳥取で制作された作品で、鳥取と神戸の両地域の文化交流は地域における文化活動を活性化させ、地域がもつ活力とコミュニティの絆の強さを知る機会となった。これは今後、私たちの目指すコミュニティづくりへの良い指針になると考える。 公演には8歳から60歳まで幅広い観客が訪れ、公演後のアンケートでは「感激しました。もっとたくさんの人に見てもらいたい」「子どもたちの演技がすばらしかった」「一度、日南町を訪れてみたい」などの声が多数寄せられ、異世代交流と今後の日南町との文化交流が期待できる内容となった。	
事 業 経 過	7月15日	作業内容打ち合わせ
	21日	予算配分 パンフレット・日程打ち合わせ
	23日	チケット・パンフレットを地区代表に配布
	8月2日	ミュージカル公演練習
		舞台装置設置、参加スタッフとの交流会
	3日	午前・午後の2回公演（うはらホール）
	10月7日	来年度に向けての交流・打ち合わせ
連 携 団 体	「そばの花」実行委員会	
成 果 物	・鳥取県日南町民ミュージカル「そばの花」の公演 ・ミュージカル「そばの花」アンケート集計 ・公演に使用された楽譜・歌誌集（日南町から神戸へ寄贈） ・伝統芸能「かしら打ち獅子」ビデオ（神戸から日南町へ寄贈） ・「そばの花」公演ビデオ（日南町から神戸へ寄贈）	

今後の展望

今回の公演を足がかりに、日南町との人的・文化交流を今後も継続していきたい。

- ・子どもたち主体のミュージカルを実現させるための組織づくり
- ・伝統文化の交流として東灘の地車(だんじり)祭に日南町の子どもを招待

これからも積極的に文化交流・文化活動を支援することで地域を活性化していきたい。



問合せ先

江藤 暢英 神戸市東灘区住吉宮町 078-821-7551

コメント

私達の地域の歴史を再認識する最高の公演であったと感じます。風化しがけている歴史を時空間を超えて再体験できたことが、公演後のロビーで感涙に顔を濡らした観客から伝わり、感動的でした。熱演して下さった日南町の方々が、今後も東灘との交流の歴史の語り部となって下さることを信じ、東灘の若者との交流を通じて新たな文化と歴史を構築していける場を、今後も設けていきたいと考えています。

日南町の皆様、ありがとうございました。

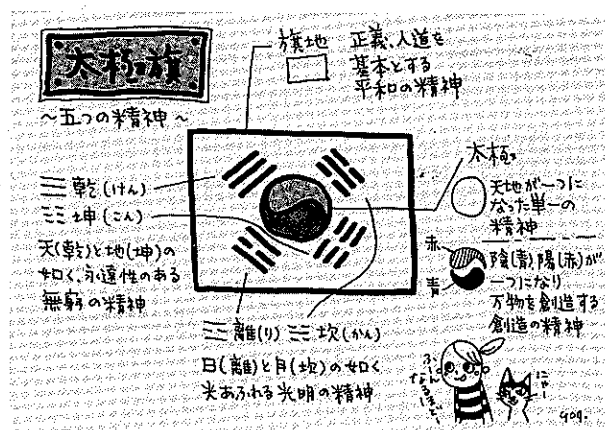
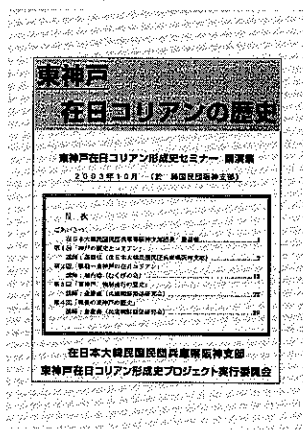
<K O B E イーストクラブ 江藤 暢英>

(5)東神戸在日コリアン形成史資料作成プロジェクト

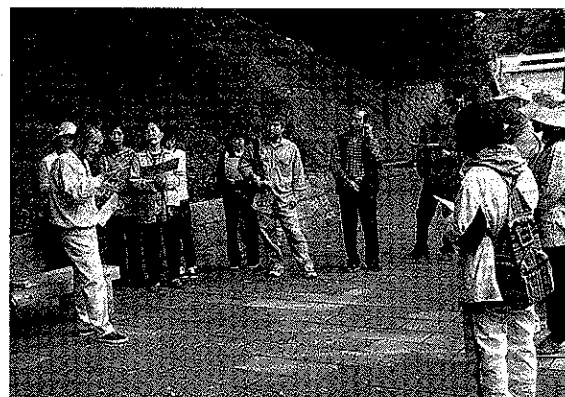
●＜在日本大韓民国民団兵庫県阪神支部＞

●神戸市灘区記田町 代表：金 淵采

目的	東神戸地域にはコリアンが多く居住している。なぜコリアンは神戸に住むようになったのか。この歴史を掘り起こし資料にまとめ、小中学校で進められている郷土の歴史の学習に役立つ教材をつくる。 神戸がコリアンだけでなく、欧米、中国、インドなどの人たちが関わって形成された「国際都市」であることを伝え、国際理解に役立てる。
内容	・セミナー 第1回 神戸の歴史とコリアン - 第2回 戦前－東神戸の在日コリアン - 第3回 東神戸 強制連行の歴史 - 第4回 戦後の東神戸の歴史 ・東神戸在日コリアン形成史セミナー「東神戸在日コリアンの歴史」講演集 ・「生田川在日コリアン形成史フィールドワーク」ビデオの作成
地域	神戸市灘区、東灘区（一部中央区－旧葺合区東部）
事業の効果	異世代・日韓交流 ・セミナーでは、日本人と韓国人の別を問わない異世代の交流の場を提供でき、活発な意見交換がなされた。 ・コリアン同士でも交流が深まり、会合の場では南北の壁が取り払われた。 ・日本人とともに事業を展開し、地域にとけこむ大きな契機となり、日韓の文化交流と地域交流の一端を担えた。 民団の活性化 ・セミナーとフィールドワークの開催を幅広く呼びかけるため多くの団体を訪ねた結果、協力関係が生まれた。 ・アンケートで「政治家の不謹慎な発言が続いているが、歴史を正しく理解するためにこのようなセミナーをもっと開催してほしい」「日韓の文化交流を深める事業を展開したい」などの熱心な声が多数寄せられ、関心の高さが伺えた。



事業経過	10月10日	第1回セミナー：神戸の歴史とコリアン
	17日	第2回セミナー：戦前－東神戸のコリアン
	24日	第3回セミナー：東神戸 強制連行の歴史
	31日	第4回セミナー：戦後の東神戸の歴史
	11月8日	フィールドワーク 布引・神戸海軍第11大隊地下壕司令部跡、旧川崎正蔵邸等
	9日	セミナーテープ起こし完成、編集作業
	12月5,9,10	ビデオ編集作業
	17,21,23日	ビデオ編集作業
	24日	ビデオ完成
	25日	反省会
連携団体	在日本大韓民国民団兵庫県地方本部 兵庫県韓国商工会議所 兵庫朝鮮関係研究会	
成果物	・セミナー4回 フィールドワーク1回 開催 ・東神戸在日コリアン形成史セミナー「東神戸 在日コリアンの歴史」講演集300部 ・生田川在日コリアン形成史フィールドワークビデオ（マスターDVD作成）	
今後の展望	アンケートの回答では、韓国会館を利用したセミナーや事業（歴史研究、文化交流、福祉等）の開催を望む声が多数寄せられたので、その実現に努める。 今回協力してもらった教育事業を推進している団体と連携をとって、学校現場における文化交流の橋渡しを進めていきたい。	



問合せ先	韓国民団阪神支部 神戸市灘区記田町 078-841-3800
------	--------------------------------

コメント

今回の事業は、何よりも「国際都市－神戸」の成り立ちを再発見するきっかけになったと思います。歴史、特に朝鮮半島と神戸の近代史にスポットをあてて、セミナー開催や小冊子の作成を行いました。今後はそれに留まらず両者の古代からの関係や他分野（文学、芸術、音楽、スポーツなど）にもテーマを広げて「再発見」していきたいと思います。今後ともよろしく願います。

＜韓国民団阪神支部 高 龍弘＞

(6)大石の歴史掘り起こし隊

●＜大石南町まちづくり協議会＞

●神戸市灘区大石南町 代表：大谷 守彦

目 的	地域に残る「旧西国浜街道」や「^{にしこう}西郷の酒蔵地域」などの歴史・文化遺産等を活かしたまちづくりを推進しており、若い人にもまちの歴史やまちに関心を持ってもらい、まちづくりに積極的に関わってもらいたいと考えている。 そこで、身近な地域の歴史を文献や地域の住民への聞き取り調査等によって掘り起こし、冊子やパンフレットに取りまとめ配布するとともに、イベント等により、幅広いエリアや世代の方々に関心をもってもらえるような事業を展開する。	
内 容	・「大石の歴史掘り起こし隊」パンフレットの作成 ・「大石南町史」冊子の作成	
地 域	神戸市灘区大石南町、大石東町、大石北町、新在家北町、新在家南町 烏帽子中学校区	
事 業 の 効 果	企画・調査・編集の過程でさまざまな人が冊子の制作に関わったことにより、地域住民間のコミュニティづくりへの関心を深めることができた。 また、地域内の子どもから高齢者まで幅広い世代の参加があり、異世代間の交流が促進され、地域への愛着が増した。 「まちに興味をもち、共通の話題が増えると、付き合いも密になる。これが、また、新しいお付き合いに、まちづくりにつながる」	
事 業 経 過	8月20,22日 29日 9月4日 20,26日 10月17,24日 11月3日 10,20,28日 12月12日 25日	基本構想・役割分担・スケジュールの検討 写真等資料の収集 パンフレット、冊子の内容およびイベント内容の検討 印刷物構成案の検討 編集会議 いもほり大会 編集会議 編集会議 成果物完成
連 携 団 体	西郷小学校 西灘小学校	
成 果 物	・「大石の歴史掘り起こし隊」パンフレット 1,000部 ・「大石南町史」冊子 500冊	

今後の展望

地域として「歴史・伝統を活かしたまちづくり」をテーマに取り組んでおり、これからも継続して取り組んで行く予定である。

今回作成したパンフレットを活用した子ども向けイベントの実施や小学校への出前授業などを実施したい。

今回掲載できなかった写真や今後収集する写真・資料を紹介するパンフレットやポスター等の作成を検討する。

また、旧西国浜街道など地域の歴史を紹介する碑の設置を検討する。



問合せ先

西村 良太 神戸市灘区大石南町 078-881-5681

コメント

「まちの再発見運動」に取り組んだことで、改めて地域にある様々な宝物（歴史・文化・人材など）を再認識する良いきっかけになった。今回作成したパンフレットを使って、次代を担う子どもたちや若い人にも自分達の住むまちに関心を持ってもらい、まちづくりに積極的に関わってもらえるよう働きかけていきたい。

わがまちに興味と誇りを持った人が増えることで、新しい付き合いの輪が広がることを期待しながら……。

<大石南町まちづくり協議会 大谷 守彦>

(7)まちの再発見運動

●＜輝なだ＞

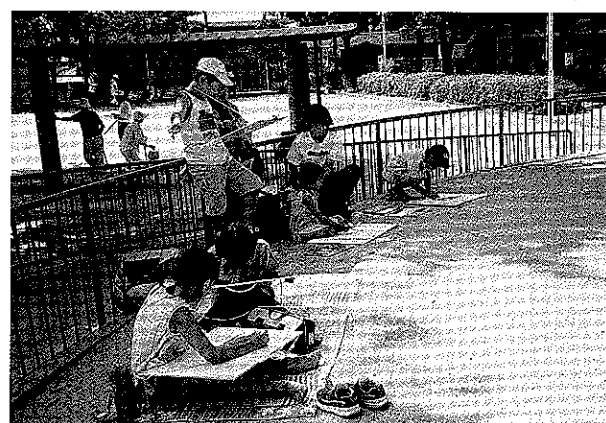
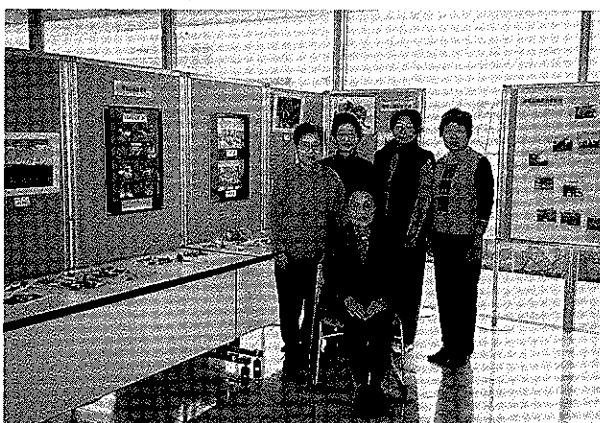
●神戸市灘区赤坂通 代表：伊藤 あや子

目的	灘百選にも選ばれた摩耶山が震災のため、あちこちくずれて山肌が露わになっている。摩耶ケーブルとロープウェイの再開を機に、緑化運動に取り組み植樹を行っているが、名札がついていないため樹木や草花の名前が分らない。 そこで樹木に名札をつけて、地域の人はもとより全国から登って来られる皆さんにも樹木の名前、そこに集まる小鳥や虫について知ってもらいたい。	
内容	・小中学生による写生大会 ・中学生といっしょに植物観察と樹木の名札つけ ・ドウダンつつじの植樹	
地域	神戸市灘区 上野中学校区	
事業の効果	地域の裏山である摩耶山に登ったことがない中学生も多く、山頂の^{きんせいだい}掬星台での写生大会によって地域の魅力を再発見してもらえた。 小学生対象の自然遊びでは、どんぐりや落ち葉を使って作品をつくる活動を通して異世代交流が図られた。	
事業経過	6月1日 企画・打ち合わせ 7月11日 参加依頼・日程調整 8月6日 写生大会 8月21日 写生大会 自然観察 8月27日 樹木名前しらべ 10月22日 樹木名札つけ 11月11日 自然遊び 11月12日～16日 展示会（原田の森ギャラリー） 11月26日 ドウダンつつじ植樹 樹木名札つけ 12月2,16,22日 樹木名札つけ	
連携団体	上野婦人会 上野中学校・福住小学校	
成果物	・樹木の名札つけ ・原田の森ギャラリーでの展示会（写真、写生大会、自然あそびの作品）	

今後の展望

小中学生との交流も、植樹から一歩踏み込んだ取り組みにしていきたいと考えている。

例えば、八重桜を植樹し、魅力ある街並みづくりに貢献するとともに、みんなで大切に守っていききたい。見守りに際しては婦人会、老人会や沿道の人たちと一緒にやって行い、桜並木を通じて住民間のコミュニティづくりや地域づくりを推進していきたい。



問合せ先

伊藤 あや子 神戸市灘区原田通 078-861-3419

コメント

これまで摩耶山に桜・あじさい・山もみじ・ドウダンつつじなどを植樹してきました。今回の“まちの再発見運動”の取り組みで、樹木の名札つけや小中学生と共に活動することで、異世代間の交流が図れたと思います。また、原田の森ギャラリーで展示会を開催し、今回の活動の成果をより多くの人たちに見ていただき、私たちの活動を知ってもらう良い機会になったと思います。

今後ともこれまで以上の活動に育てていきたいと考えています。 <輝なだ 多幡 育子>

(8)なつかしき心のまちかど再発見

●＜灘中央地区まちづくり協議会＞

●神戸市灘区水道筋 代表：小山 喜三

目 的	地域の各家庭や商店などに残る古いスナップ写真や記念写真などを集めて紹介し、まちの身近な歴史を学び、思い出に残る昔のまちの良さを見直すことで、地域に対する愛着を深め、これからのいろいろなまちづくり活動につなげることを目的とする。 また、この活動を通して、地域内の子どもや高齢者をはじめさまざまな世代の参加を促すことにより、異世代間の交流を促進するとともに地域住民間のコミュニティづくりを推進する。	
内 容	・「アーケード劇場」商店街に大スクリーンを設営し、スライドショーやなつかしの映画上映 ・「まちかどサロン」写真の展示・スライドショー・アンケート ・「まちづくりマーケット」 ・「なつかしき心のまちかど」vol.2 作成	
地 域	神戸市灘区 原田、上野中学校区（稗田小学校区）	
事 業 の 効 果	地域の歴史資源を収集する作業は、協議会はもとより多様な地域の団体、商店街、小学校、神社などに働きかけることで、約500枚におよぶ昔の写真や資料を収集することができ、地域活動団体の連携力も高まった。 「アーケード劇場」「まちかどサロン」などの事業に、子どもから大人、高齢者まで年齢性別を問わずに参加があり、異世代間交流を推進することができた。また地域資源を共有することができ、住民のまちに対する愛着が深まるきっかけになった。	
事 業 経 過	6月8日 まちづくりマーケット 22日 まちかどサロン 7月13日 第1回水道筋アーケード劇場 27日 第2回水道筋アーケード劇場 8月10日 第3回水道筋アーケード劇場 8月24日 第4回水道筋アーケード劇場 9月28日 まちかどサロン 10月19日 まちづくりマーケット 11月15日 まちかどサロン 12月12日 理事会 活動の報告および検討 25日 「なつかしき心のまちかど再発見」vol.2 完成	
連 携 団 体	水道筋商店街連合組合 中央筋商店街組合 他	

成果物

- ・「なつかしき心のまちかど再発見」 vol.2 4,000部
- ・絵はがきセット (5枚組) 20セット
- ・オリジナル缶バッジ 100個
- ・パネル 大 5枚 小 15枚
- ・心のまちかど写真集 10冊セット(掲載写真700枚)
- ・なつかしき心のまちかどホームページ(URL) <http://www11.plala.or.jp/NADAtyu/>

今後の展望

「アーケード劇場」「まちかどサロン」などの取り組みによって、商店街との連携がより強化されたので、来年度以降も引き続き「アーケード劇場」を開催し、夜店の賑わいを取りもどす事業へと発展させていきたいと協議している。

まちづくり協議会のホームページに「なつかしき心のまちかど」コンテンツを継続的に更新して充実させ、地域内及び地域外に情報発信するとともに意見交換などのツールとして活用していく予定である。



問合せ先

新・まちづくりハウス 神戸市灘区水道筋 078-882-3457

コメント

灘中央地区まちづくり協議会では、早くからその活動の機軸を「まちの再発見運動」にウェイトを置き、特に“人”にテーマを絞り、街に暮らす人々の心の再発見に努めてまいりました。

この「なつかしき心のまちかど再発見!」は、単に懐かしい昔の写真を集めるだけではなく、同時に人の思いを拾い集め、つなぎ止め、次の世代の人達に受け渡せるように励んでいます。

「まちの再発見運動」は、正に“心の再発見”に役立てさせていただきました。

＜灘中央地区まちづくり協議会 下村 明彦＞

(9)街のお宝発見 — 街の大きな掲示板 —

●＜フェニックスステーション福住＞

●神戸市灘区天城通 代表：伊澤 のり子

目 的	私たちが住む灘のまちには様々な宝物（歴史的遺産、自然、文化財等）があります。これらを愛でたり伝承したり出来るのは人間であり、そういう意味で本当の宝物は豊富な人材（お宝）です。この方達が発信できる知識や特技等と、このことを学ぶ・受信できる場を作ることにより、成熟したまちの地域交流を活発にする。 このために、各種の交流イベントを開催するとともに、お宝情報を気軽に交換できるホームページを作成する。	
内 容	＜交流イベント＞ ・地元の歴史研究（万葉集講読会・歴史散策） ・フライングディスクゴルフ大会 ・パソコン教室 ・X'masコンサート	＜街の大きな掲示板＞ 交流イベント情報や人材募集情報等を掲載するホームページ
地域	神戸市灘区 上野中学校区	
事業の 効果	この事業で開設したホームページ「街の大きな掲示板」には、1,000件のアクセスと携帯電話から50件の応募があるなど大きな反響があった。ポスター、チラシによる告知の効果もあり、豊富な人材を発掘することができた。 事業に関わった各団体・地域の方々が交流し共通理解を深めることで、地域活動への意識が高まった。今後の地域活動の広がり貢献できると確信している。 地域活動を活性化しようとしている団体が地元にあることを、地域の人々に広く知ってもらうことができた。 また、この事業を通じて灘区の助成金を受けることができ、平成16年3月末まで事業を継続することができた。	
事業 経過	8月5,8日 9月8日 10月14日 22日 11月3日 7日 18日 22日 29日 12月10日 24日	基本構想の検討・作成 お宝発見の事業計画・ホームページ立ち上げ 万葉集講読会にむけての最終打ち合わせ 万葉集講読会 フライングディスクゴルフ大会（上野中学校） 歴史散策・X'masコンサートにむけての準備 コンサート打ち合わせ、散策最終打ち合わせ 摩耶西部山麓の歴史散策 パソコン教室 X'masコンサートリハーサル打ち合わせ X'masコンサート

連携団体

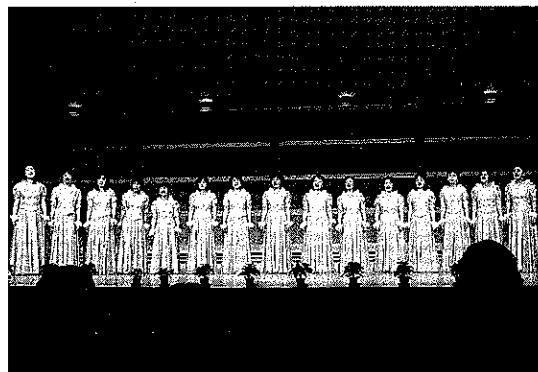
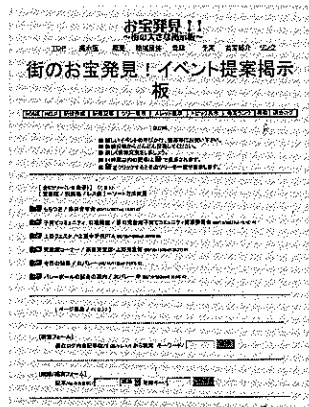
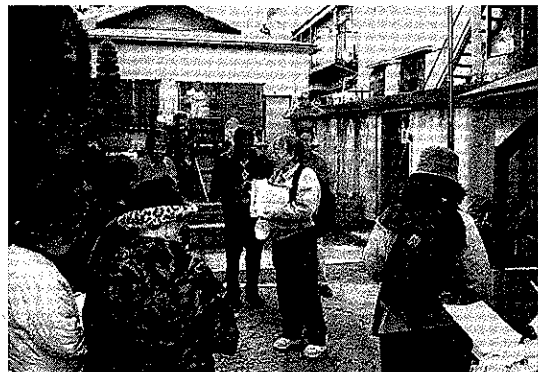
灘地区青少年育成協議会上野中学校支部
原田青年会
神戸市立福住小学校

成果物

- ・ ホームページ「街の大きな掲示板」 <http://www.machinokeijiban.com>
- ・ 文化講演会 ～万葉集を読む～
- ・ 摩耶西部山麓の歴史散策
- ・ パソコン教室 ～インターネットを使ってみよう～
- ・ X'masコンサート

今後の展望

学校行事への関わりや地域のコミュニケーションを深めるために、今後も引き続き事業を展開していく予定である。
今後は「灘百選の会」に加入し、この事業を継続して展開できるよう働きかけていきたい。



問合せ先

伊澤 のり子 神戸市灘区天城通 078-861-6559

コメント

まちについて考えるよい機会となった。街に住む我々は個別に住まいを構え、それぞれが独立した存在である。人権やプライバシーの尊重が声高に叫ばれる現代、その独立がふと孤立に思えることがある。

しかし、街に住む者は互に関係し合い、影響し合う宿命から逃れ得ない。活動を通して触れ合った人々の誠意が大なることと、力を存分に発揮できる場を得た人材（お宝）が輝いている様を見ることができたことが、何より嬉しく思われた。

<フェニックスステーション福住 山崎 真一郎>

(10)まちの再発見運動

●＜サン・サン・クラブ＞

●神戸市中央区港島中町 代表：三田 幸雄

目的	ポートアイランドが生まれてからまだ歴史が浅く、「住みよく、住みつづけたい」未来に向けて誇れるまちにするため、ポートアイランド内の施設めぐりや緑化運動を推進し、地域の活性化を図る。	
内容	・緑化運動 ・「ポートアイランドガイドブック」の作成 ・まちの再発見記念石塁モニュメント設置	
地域	神戸市中央区港島中町 港島中学校区	
事業の効果	ガイドブック作成のために行った施設めぐりは、改めてまちを見なおす良い機会になった。夏祭りや施設での昔遊びを通じて異世代交流ができ、世代の隔たりが縮まった。 事業に対する住民の理解が日増しに深まり、呼びかけにも気軽に応じてもらえるようになった。 また、記念モニュメントを設置できたことにより、この運動が次世代に継承できる事業として発展していく可能性が出てきた。	
事業経過	6月26日 7月20日 8月10日 31日 9月3,5日 7日 11月16日 28日 12月21日 25日	幼稚園児による整地ひまわり苗つけ ガイドブック編集会議 ガイドブック編集会議 ふれあいの夏祭り ガイドブック作成調査・撮影 ガイドブック編集・製本 石塁モニュメント 設置作業 チューリップの苗植えつけ作業 ふれあいの「もちつき」大会 反省会
連携団体	M.S.ガーデン花みなとボーアイ倶楽部 サン・コーポラス湊島 都市基盤整備公社賃貸住宅公団	
成果物	・「ポートアイランドガイドブック」 400部 ・石塁モニュメントの設置	

今後の展望

「ガイドブック」を有効利用するとともに、さらに情報を収集して改訂版を出したい。
アーチ（昨年度当該事業で作成）・記念碑の管理を十分に行い、「やすらぎ」の場として広く活用してもらうよう努め、住みやすく、訪ねて楽しい街づくりをめざす。

ポートアイランド
ガイドブック



みんなで、おいで楽しいよ
ファッションタウンや、
お花畑でゆっくりと



問合せ先

小林 正平

神戸市中央区港島中町

078-302-7437

コメント

今回の取り組みの舞台となった花畑は、阪神・淡路大震災復興記念事業から立ち上げた当時の会員と賛同して下さった方々の「継続は力なり」の強い信念で、当初一挙に2トン車30数台分による土ならしに腰痛も苦にせず励んだ苦節3年、ついに広さ3000㎡の花いっぱい「やすらぎ」の場が完成しました。行政の助成・企業の方々の力強い支援の賜物と感謝をしております。

せっかく出来たまちづくりの意志をさらに広げ、ますます美しく住み良いまちへと発展するよう努力していきます。

<サン・サン・クラブ 小林 正平>

(11)第2回わがまちHAT絵画・写真コンテスト

●＜協の浜ふれあいのまちづくり協議会＞

●神戸市中央区協浜海岸通 代表：竹内 猛矩

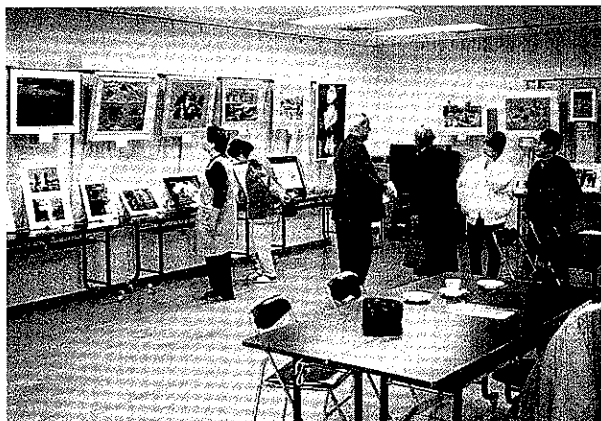
目 的	HAT神戸の各施設・建築物・景観などを再発見、再認識し、まちへの愛着を深めるとともに出展者同士・地域住民との交流を図る。 またHAT神戸の文化活動を活性化するため、昨年実施した「わがまちHAT絵画・写真コンテスト」の部門と地域を広げて、「第2回わがまちHAT絵画・写真コンテスト」を開催する。これにより地域住民の芸術に親しむ心を再発見する。	
内 容	「第2回わがまちHAT絵画・写真コンテスト」の開催 ・ 幼少の部 ・ 中高の部 ・ 一般の部 兵庫県立美術館にて表彰式を行う	
地 域	神戸市中央区協浜海岸通 渚中学校区	
事 業 の 効 果	昨年につづく連携団体として、兵庫県立美術館に加えて今回新たにJICA兵庫の協力を得ることができ、地域活動団体との交流が促進された。 地域住民の美術愛好家が積極的に参画し、親睦を深めるとともに住民のところにゆとりとるおいをもたらし、まちに明るさとにぎわいが生まれた。 コンテストには世代を越えた作品の応募があり、世代間の交流とともに関係団体役員の協働意識が高揚され、地域住民のコミュニティづくりに多大の効果が認められた。	
事 業 経 過	7月26日 事業計画の決定 28日 絵画・写真コンテスト打ち合わせ会議 後援依頼 8月1日～10月31日 作品募集 11月19,23日 表彰式打ち合わせ会議 25日 作品展覧会（協の浜地域福祉センター） 30日 作品展覧会（なぎさ地域福祉センター） 12月2～13日 作品展覧会（みなと銀行春日野道支店） 15～22日 作品展覧会（JICA兵庫） 1月6～13日 作品展覧会（中央区役所ペチュニアギャラリー） 16～23日 作品展覧会（灘区役所区民ホール）	
連 携 団 体	なぎさふれあいのまちづくり協議会 春日野道商店街振興組合 大安亭市場協同組合	
成 果 物	・「第2回わがまちHAT絵画・写真コンテスト」	

今後の展望

ふれあいまちづくり協議会の文化事業部の活動を活発にして、地域における文化教室、絵画クラブ、写真サークルなどの草の根運動をバックアップしていきたい。

今後カラオケ大会やコンサートなどの音楽分野、手芸や陶芸などの工芸分野を展開し、地域のミュージシャンやアーティストの発掘、育成と交流を図りたいと考えている。

これからも地域活動団体と積極的に連携し、行政、企業、住民の参画と協働で「HAT神戸」の発展に努めたい。



問合せ先

竹内 猛矩 神戸市中央区脇浜海岸通 078-272-0117

コメント

傲慢と卑屈を繰り返す物質文明の中で、こころの問題が大きく取り上げられている。こころ豊かな生活に文化は必須要件である。

文化の香り高いHAT神戸のまちづくりを進めるために、これからも文化活動の振興、活性化に努める所存である。

<脇の浜ふれあいのまちづくり協議会 竹内 猛矩>

(12)大好き!!わたしのまち再発見写真コンテスト事業

●＜大日通周辺地区まちづくりを考える会＞

●神戸市中央区大日通 代表：城戸 秀則

目 的	震災から8年が過ぎ、ハード(住宅)は整備されソフト(自治会立上げなど)も進んでいるが、ハート(ふれあい)がまだ十分ではないと考える。 そこでハートの部分の促進と充実のために、ひとつの手段として地域の再発見写真コンテストを企画し、幅広い年代の住民に写真を撮ってもらい、そのコンテストの開催を通して「わたしたちのまちの応援」のきっかけづくりをめざす。	
内 容	・わたしたちのまち再発見写真コンテスト	
地 域	神戸市中央区大日通 葺合中学校区	
事 業 の 効 果	今回の写真コンテストに参加することで、住民が地域のまちづくりに興味をもち、協働作業を通して心のふれあいを感じることができた。このことは地域活動の広がりや理解に大きな効果があった。 また、中学生による準備段階から一貫した協力は、地域の異世代交流を推進したことはもちろんであるが、さらに新しいかたちのコミュニティづくりのヒントを与えてくれた。 写真コンテストを縁に、留学生が地元の中学校を訪問し交流の輪が広がった。	
事 業 経 過	8月7日 参加者募集・審査員・選定作業 打ち合わせ 14日 準備作業 打ち合わせ 17日 準備作業手順 確認 9月5日 カメラマン募集開始 チラシ配布 18日 コンテスト全般の進捗状況説明 20日 写真審査 会場設営 9月20日～10月4日 写真コンテスト展覧会開催 10月6日 生徒の参加・運営協力について意見交換 8日 留学生会館にてウェルカムパーティー参加	
連 携 団 体	宮本婦人会	
成 果 物	・応募写真 約3,300枚(応募者数 135名) ・開催期間中の見学者 約2,500名	

今後の展望

写真展に2,500人の来場があり、次への気運が盛り上がっている。中学生に加えて世代を越えたボランティアを広く募り、さらに活動の輪を広げていきたいと考えている。

また、新聞各社から引き続き取材をしたいとの申し出があり、運営側としても励みとなり、継続・発展への追い風になってくれると考えている。



問合せ先

城戸 秀則 神戸市中央区大日通 078-221-6748

コタツト

今回の「大好き!!わたしのまち写真コンテスト」を開催できたのは、地域の小学校、中学校の皆さんの大きな協力、婦人会のサポート、毎回の朝会議に必ず出席して下さった行政の皆さんの応援のおかげです。そして、協力応援して下さる方々と事業の実施母体が地域と世代を越えて「仲間」となりました。楽しく運営できたのは、そのためであったと思います。

また、中学生が朝会議に出席することで、婦人会の皆さんが「お化粧をちゃんとして、若々しく発言しなくては」と満更冗談とも見えない発言が飛び出すなど、これが本当の世代を越えた交流の楽しさだと思いました。

＜大日通周辺地区まちづくりを考える会 城戸 秀則＞

(13)平野ふるさとづくりお地蔵さんマップづくり

●＜平野ふるさとづくり親子の会＞

●神戸市兵庫区馬場町 代表：小島 巴

目的	古い歴史をもつ平野のまちには、四季折々の伝統行事や庶民のまつりが引き継がれてきたが、都市化のなかですでに多くのものが失われてきている。 まちの姿が変化するなか、今でも昔の姿を伝えるものとして、地域の人々に守られてきている「地蔵尊」を中心にまちの再発見をする。 ・「お地蔵さんマップづくり」をきっかけに、点在するお地蔵さんを線でむすび、子育て支援のネットワークを広げる。 ・安心して子育てできる”平野のまちづくり”をすすめる。 ・失われた伝統行事などを発掘・再興し「まちを愛する心」を育み、地域文化の発展と継承を図る。	
内容	・お地蔵さんマップ作成 ・「平野のまち三世代ウォークラリー」開催 ・「お地蔵さんのお話」と大型紙芝居「かさじぞう」の上演	
地域	神戸市兵庫区平野地域 湊中学校区	
事業の効果	夏の風物詩「地蔵盆」を中心に、子どもの視点に立った地域活動のきっかけをつくることのできた。 地域の方々に、子どもを守り育てる活動について理解し、協力してもらえ、地域全体で取り組む子育て支援に一步近づいた。また、ウォークラリーなどで異世代交流の場を持つことができた。 子どもを取り巻く事件が多く、地域全体で子どもを守り育てる活動(子どもを守る110番の店・家)が展開できた。	
事業経過	7月16日 「お地蔵さんマップ」づくり検討 7～8月 地蔵尊の現地確認作業 歴史・いわれ調査 8月 簡易版マップ完成 盆踊り会場にてマップ配布 8月23,24日 マップを活用して地域巡回・再調査 11月4日 「平野地蔵子どもの会」結成 20日 「平野のまちお地蔵さんマップ」完成 1,500部 23日 「平野のまち三世代ウォークラリー」 アンケートの実施 12月7日 「お地蔵さんのお話」と大型紙芝居「かさじぞう」の上演 16日 「お地蔵さん調査報告書」の作成	
連携団体	平野婦人会 平野ふれあいのまちづくり協議会 青少年育成協議会平野支部	

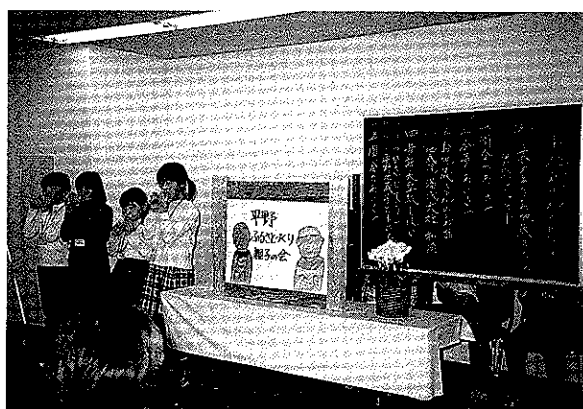
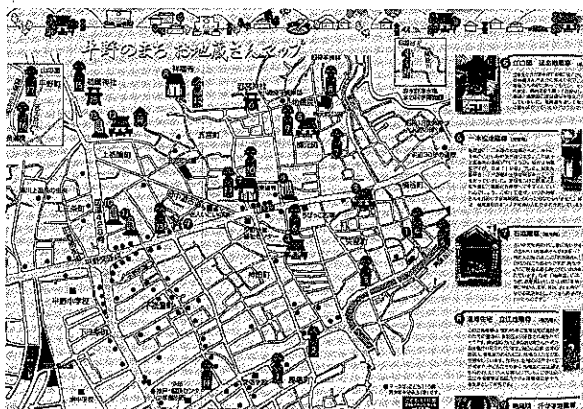
成果物

- ・「平野のまちお地蔵さんマップ」 1,500部
- ・平野地蔵子どもの会の結成
- ・お地蔵さん調査報告書 50部
- ・連携団体との共催行事の開催

今後の展望

「お地蔵さんマップ」を活用したウォークラリーを継続して行い、次回の地蔵盆当日にはニュータウンの親子を招待し地蔵盆の良さを伝え、ニュータウンとの地域交流を展開する計画を立てている。

今回の事業で組織された「平野地蔵子どもの会」を、平野のまちの伝統文化を子どもたちに継承することをねらいとして、異世代交流に発展させる予定である。



問合せ先

石澤 直美 神戸市兵庫区下祇園町 078-371-6167

コトワザ

一昔前、夏の楽しみであった地蔵盆は、子ども達には新鮮であり、保護者世代には懐かしく触れることができる伝統行事である。

毎年、お地蔵さんマップを頼りに、子ども達が地域内を駆け回ること、地域の歴史・習慣を学び、まちへの愛着が育まれていくであろう。

お地蔵さんを介して子ども達と多くの住民が交流することは、地域が一体となった子育てや高齢者・障害者に対する支援の「礎」になっていくと考えている。

<平野ふるさとづくり親子の会 石澤 直美>

(14)平野の史跡マップ

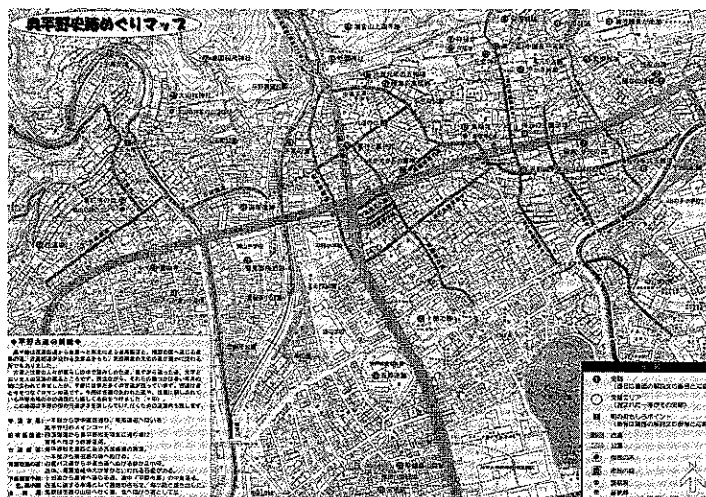
●＜平野の史跡を守る会＞

●神戸市兵庫区下祇園町 代表：前田 章賀

目的	平野のまちは古い歴史があり、史跡も数多くあるが、その多くが忘れられようとしている。先人たちが築いてきたまちの歴史を再発見し、周辺の人々や若い世代に伝えていくことは、まちを大切にしようと思う気持ちを生み出す。それはやがて自分たちのまちづくりへとつながるのではないかと考える。	
内容	・史跡散策 ・「奥平野史跡めぐりマップ」の作成	
地域	神戸市兵庫区 湊中学校区	
事業の効果	史跡マップをつくるために史跡にまつわる話を地元の人々やお年寄りから聞くことで、異世代の交流が図られた。 また、多くの人たちとコミュニケーションをとることができ、地域の方々に私たちの活動への理解を深めていただくなど、地域住民間のコミュニケーションづくりを推進することができた。	
事業経過	9月28日 史跡散策 「勝海舟の歩いた道」 11月8日 歴史散策 「福原京めぐり」 16日 事務局会議 地図の形式の決定 12月2日 仮刷り 7日 校正会議 文章・文字の訂正 15日 琵琶演奏会「沙羅双樹の花いろいろ」 17日 マップづくり 校正刷り 18日 再校正 29日 マップ完成	
連携団体	平野市場	
成果物	・奥平野史跡めぐりマップ 10,000部	

今後の展望

「奥平野史跡めぐりマップ」を全戸に配布する予定である。この地域のすべての人にまちの遺産を知ってもらい、自分の住むまちの歴史と良さを認識してもらいたい。マップの配布にあたって、各自治会や住民たちとより近しく話しができ、新しいつながりや発見が期待できそうである。



問合せ先

玉川 侑香 神戸市兵庫区下祇園町 078-361-5055



史跡めぐりのマップを作るという初めての経験を通して、地域の色々な人と出会いを持つことができた。歴史のみに留まらず文学、植物、生物、地質学などの専門家からの意見も、自分たちのまちの豊かさを発見する端緒となった。

制作上の苦労は、扱うものが古いだけに固有名詞や年号の読み方、古道や旧跡の位置、名称の特定など調査するほどに様々な説や意見と出会い、十分な合意に至らなかった。しかしながら、これをたたき台に次の研究に生かせたらと思う。

＜平野の史跡を守る会 玉川 侑香＞

(15)第1回新開地映画祭

●＜新開地周辺地区まちづくり協議会＞

●神戸市兵庫区新開地 代表：高 四代

目的	故淀川長治氏の出身地である「神戸・新開地」は、現在も1km周辺の商店街に4軒もの映画館・劇場の残る「映画のまち」である。平成3年に策定した「新開地アートビレッジ構想」に基づき、さまざまな取り組みが地域でなされているがまだ地域に根ざしたとはいえない状況である。 そこで「映画」という分かりやすい材料を活かし、これを中心として受け継がれてきた文化的資源を活用することで、このまちが多くの人に元気を与えることを実感してもらう。	
内容	・「第1回新開地映画祭」の開催	
地域	神戸市兵庫区新開地地区 湊、兵庫中学校区	
事業の効果	映画祭を開催したことにより、まちが持つ映画文化の歴史をまちの魅力として地域住民はもちろん、広域の参加者にアピールすることができた。 事業を進めるうえで、地元の映画館・劇場や映画関係団体などと協力し合う関係が築けたことは、今後につながる大きな成果だといえる。 今後も定期的に上映会を開催しようという気運が高まっており、これからも活動を継続していく下地ができた。	
事業経過	7月17日 基本構想の検討・確認 協力体制の確認 8月27日 基本構想の検討・確認 協力体制の確認 9月5日 基本構想に対する具体的な企画案の検討 12日 実施企画の担当決定 18日 実施企画の決定 予算振り分け 26日 企画別進捗状況の報告 意見交換・調整等 10月10,16,26日 企画別進捗状況の報告 意見交換・調整等 11月7日 企画別進捗状況の報告 意見交換・調整等 22~24日 淀川長治メモリアル（神戸100年映画祭共同企画） 22~30日 「第1回新開地映画祭」の開催 映画館企画上映 等 29日 女性限定のサタデーナイト・シアター 30日 親子で遊ぼう！アニメ劇場（～30日） 「新開地映画祭」開催記念特別上映 山村浩二監督講演&上映会 新開地本通りまちなか映画企画 12月17,18日 実施報告、今後の活動検討	
連携団体	特定非営利活動法人 新開地まちづくりエヌピーオー	

成
果
物

「第1回新開地映画祭」の開催

- ・パンフレット 45,000部
- ・チラシ 30,000部
- ・ポスター 500部
- ・総上映作品数 22本（「幕末太陽傳」「めぐりあう時間たち」ほか）
- ・総来場者数 約3,000人

今
後
の
展
望

今後も定期的に上映会を開催しようという気運が高まっており、このまちの魅力として根づくよう継続していきたい。

「映画」という媒体を活用しながら、より豊かな市民生活を提案できる取り組みを次年度以降も以下のように具体的に進めていきたい。

- ・映画祭までに年2回の上映会を実施
- ・新開地の映画情報をニュースレターとして年5回発行（5,000部／回）
- ・新開地映画祭ホームページを情報媒体として活用

今回映画祭を通して生まれたネットワーク・人脈とノウハウを地域内の活動へ活かしていきたい。



問 合 せ 先

財原 市子 神戸市兵庫区新開地 078-576-1218

コ
ン
テ
ン
ツ

前年度まで実施していた「新開地『ぶらっ』と映画会」が発展し、今回の「第1回新開地映画祭」を開催しましたが、一からつくりあげたと言ってもいい程、企画内容、会場が大幅に増え充実したお祭りとなりました。

1回目はやはり大変でしたが今後、まちの秋祭りとして毎年開催し、お祭りがまちのカラーとして認知されることを目標に活動を継続する第一歩を踏み出せたことが一番の成果となりました。

＜新開地まちづくりエヌピーオー 財原 市子＞

ひ さいはら
(16)日西原地域生活と文化再発見

●＜日西原神楽保存会＞

●神戸市北区大沢町 代表：石井 保行

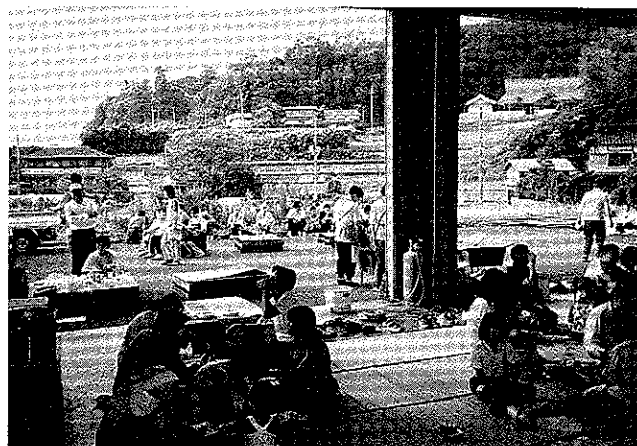
目的	日西原は鹿の子台、上津台など3,000世帯を超えるニュータウンに隣接している農村地域であるが、世帯数80戸あまりで核家族と少子化により高齢者の比率が年々増加しており、このままでは地域の活性化はもとより伝統文化の継承も困難になってきている。また、世代間コミュニケーションも不足しがちで地域に残る良いもの、守るべきものが忘れられようとしている。 そこで、わがまちの伝統や美しい風景や心を取り、地域紹介の冊子を作成することで地区住民には自分のまちの再発見をしてもらい、近隣地域には冊子の配布活動を通して農村とのふれあいの場を創出する。	
内容	・日西原住民の集いの実施 ・スライドショー、写真展の開催 ・おもちゃ箱フェスタに参加（神楽・あそび） ・地域情報冊子「日西原」の作成	
地域	神戸市北区大沢町 大沢中学校区	
事業の効果	地域内のお年寄り子どもが共通の話題で話し合う機会ができ、今までは運動会の単なる打ち上げ会だったものが「住民の集い」という形になって老若男女が一堂に集い親交をあたためる場となるなど、異世代交流が活性化され住民同士の親睦が深まった。 「おもちゃ箱フェスタ」で神楽を披露するなど、日西原の文化や生活を発信したことは大きな反響を呼び、若者たちの伝承文化への取り組み意欲が向上した。 景観保全の意識が高まり、多くの住民が棚田保全や竹林整備などの活動に参画してくれるようになった。	
事業経過	7月29日 8月21日 9月5日 14日 27日 10月10～13日 26日 11月22日 12月23日	講師と取材先の検討と視察 「住民の集い」開催企画と内容検討 周辺団地住民グループへの秋祭り参画企画と募集の話し合い 「ひさいはら住民の集い」開催 スライドショー・写真展の開催 秋祭り（練りこみ・神楽）の実施 冊子制作・編集会議 「おもちゃ箱フェスタ」参加 冊子の制作・次年度の検討
連携団体	日西原里づくり協議会	

成果物

- ・地域情報誌「日西原」 5,000部
- ・「ひさいはら住民の集い」の開催
- ・「おもちゃ箱フェスタ」への参加と周辺地域へ地域文化の発信
- ・「スライドショー」「写真展」の開催

今後の展望

- ・老若男女が参加できるイベントを定期的で開催（例：「住民の集い」）
- ・各種団体の活動を住民に知らせる定期刊行物の発行（例：「ひさいはら通信」）
- ・取材時に発見した古民具・古文書の保存活動
- ・景観保全など里山整備の継続・発展（ニュータウンの住民と協働で発展させたい）



問合せ先

石井 保行 神戸市北区大沢町 078-954-0555

コメント

自然の恵みの中で生活してきた農村地域にとって、華やかな世界を羨むことなく自らの足下を見つめ直す機会を創りたいと思い、今回の事業を実施しました。

自分達の暮している土地に誇りを持ち、これからの子ども達に何を伝えて行けば良いのかが少しだけ見えてきた様に感じます。土を耕し、種を蒔き、花が咲いて実をつけるまで、まだまだ多くの歳月が必要でしょう。これからも一步一步進んでいきたいと思ひます。

<日西原神楽保存会 石井 保行>

(17)みんなで作ろう！百人百色かるた

●＜御蔵通 5・6・7丁目自治会＞

●神戸市長田区御蔵通 代表：柴本 宏幸

目的	震災直後の火災により7割焼失という甚大な被害を受けた当地区では、震災前から御蔵で暮す住民と震災後に暮し始めた住民が混在しており、新旧住民とボランティアが、日頃から手を取り合いまちづくりを進めている。 今回「長田の魅力を見つけよう」をテーマに、カルタづくりを通して、老若男女問わず自分たちが暮すまちを見つめなおし、関わった全員で長田の魅力を共有する。	
内容	・御蔵カルタづくり ・原画展の開催	
地域	神戸市長田区御蔵通 西代、長田中学校区	
事業の効果	8月に「カルタ部会」を結成したが、メンバーは自治会、町づくり協議会やまちコミュニケーションのメンバーだけでなく、周辺地域住民や震災前に住んでいた方の参加もあって総勢27名に広がった。 カルタの作成については、最終的に小学校1年生から88歳の方まで133名が関わる地域全体をまきこんだ大きなプロジェクトになり、まちづくりについての共通意識、まちへの愛着が強まった。	
事業経過	7月25日 事業説明 カルタ部会参加の呼びかけ 8月半ば～ 読み札集めのチラシ配布・口コミ 9月15日 9月22,26,30日 読み札選び 絵札募集の状況報告 10月3日 読み札選び 絵札募集の状況報告 11月6日 絵札レイアウト お披露目会・カルタ大会・原画展打合わせ 14日 箱詰め作業・配布・原画展打合わせ 12月8～10日 カルタ箱詰め作業 12日～ カルタ原画展のための額縁作成 15日～ 作成者・協力者へのカルタ配付開始 18～23日 第1回カルタ原画展開催 20日～ 御蔵通5・6・7丁目住民へのカルタ配付開始 1月18日 御蔵カルタお披露目会（参加者 50名） 1月25日 第1回御蔵カルタ大会（参加者 22名）	
連携団体	御蔵通5・6・7丁目町づくり協議会 阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション	

成果物

- ・「御菅カルタ」 500セット
- ・会議「カルタ部会」の開催（12月末までに11回）
- ・カルタ原画展
こうべまちづくり会館で12月18～23日まで開催（来場者200名）

今後の展望

第1回御菅カルタ大会が好評だったので、第2回の開催を検討しており、参加者を広く集めたいと考えている。

また、お披露目会で使ったA3サイズの「B1Gカルタ」を使ったカルタ会も要望があるので開催を検討している。

カルタ原画展は1月から3月まで神戸市内4箇所で予定しているが、それ以降も継続して行い、御菅地区の魅力を広く伝えたい。

カルタや原画というツールを使って、地域以外の方への震災体験の伝承に積極的に役立てたいと考えている。



問合せ先

戸田 真由美 神戸市長田区御蔵通 078-578-1100



100人で地域カルタをつくるということが、私たちの当初の大きな目標でしたが、カルタ部会メンバーの思いが地域に広がり、133名もの作成者を集めることができました。

地域カルタづくりの輪がほかの町へも広がることを願っています。「皆さんの町でもカルタづくり」はいかがでしょうか？ノウハウをお伝えします。忘れられない取り組みになりますよ。

「人の輪の 美しき哉 御菅まち」ー御菅カルタより

<阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション 戸田 真由美>

(18) “真陽・まちのアーカイブ映像” づくり事業

●＜真陽子ども会＞

●神戸市長田区久保町 代表：山本 豊久

目 的	真陽の地域行事などをテーマにした子どもたちの制作する映像作品を通して、大人も子どもも自分たちの住む「真陽地域」を再発見する機会を創出する。 ＜再発見の機会＞ ・子どもたちが、まちをテーマに映像作品を制作する。 ・制作作品の鑑賞会を行い、子どもたちの作品を自分たちの意見として地域に発信する。	
内 容	・映像制作技術講習会（ボランティアスタッフ、子ども） ・映像作品制作 ・映像作品の上映会	
地 域	神戸市長田区真陽地域 長田中学校区	
事業の 効果	映像制作活動の過程を通して、子どもたちにはまちに対する理解と興味が芽生え、編集作業では、子どもたちのまちに対する思いや考えを確立し、熟成させる時間をつくりだせた。 また、子どもたちが地域行事に映像班として参画することで、異世代間の交流が図られるとともに、地域が一丸となって、まちの活性化に取り組むきっかけを創出することができた。特に子どもたちにとっては、自分たちが地域の一員であり、次世代のコミュニティを担っていく自覚が芽生えるいい機会になった。	
事業 経過	7月26日 映像制作技術講習会 8月8日 子どもたちを対象とした技術講習会 8月16日～12月7日 映像作品制作（企画・取材・撮影・編集） 11月9日 制作者、保護者対象の上映会 12月1日 上映会の広報活動（チラシ配布など） 14日 地域住民対象の上映会 20～27日 ホームページへの映像登録	
連携 団体	ツール・ド・コミュニケーション	
成 果 物	・映像作品4本 「真陽たんけん隊 地蔵7ヶ所参り」 「真陽の町のいろいろなアイス」 「なんで地蔵で盆やねん」 「瞬間移動？空中散歩！」 ・上記の作品及び過去の作品を収録したVHSテープ（90分） ・真陽たんけん隊WEBサイトの開設 ・作品上映会 11月9日、12月14日	

今後の展望

真陽地域の子どもたちの特徴的な活動として定着してきており、住民からも良い評価を受けている。

今後も継続して行い、地域で上映会を開催しWEBでの発信も行うことで、地域内外から活性化の気運を呼び込みたい。県内の他地域でも同じような活動が実施されつつあるので、合同上映会を開催するなど積極的に地域間交流へとつないでいきたいと考えている。

来年度は子どもたちの手でホームページをリニューアルし、WEBでの発信にもさらに力を注ぎ、異世代間交流の活性化を図りたい。



問合せ先

山本 豊久 神戸市長田区久保町 078-641-8128

コメント

映像制作のサポーターとして子どもたちと取材に回っていて、「まちのあたたかさ」を感じた。照れながらも「たんけん隊やね」「何話せばいい?」と積極的に撮影に応じてくれる真陽の人たち。発表会でも多くの人に参加し、感想を残してくれた。そういった関わりを経験することは、次に自分たちがまちづくりに関わる年齢に達した時に必ず生かされるものだと思っている。

<ツール・ド・コミュニケーション 大川 妙子>

(19)駒ヶ林の歴史マップ「駒っふ歴史編」の作成及び「駒ヶ林むかし写真展」の開催

●＜駒ヶ林まちづくり協議会＞

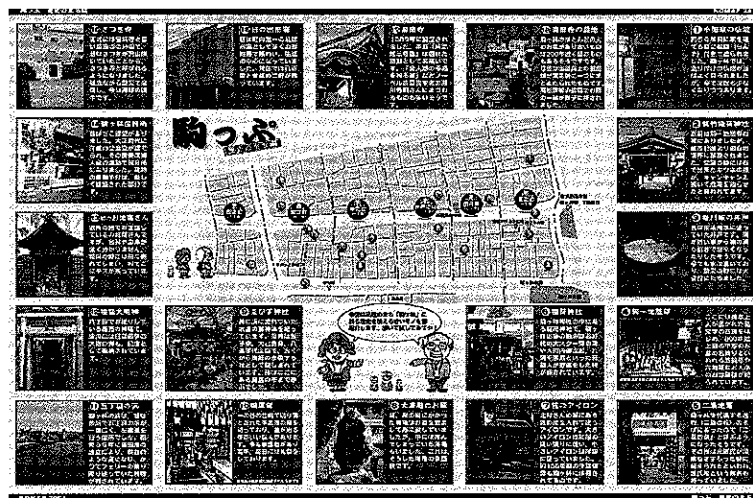
●神戸市長田区駒ヶ林町 代表：中本 正

目 的	神戸でも最も古い歴史をもつ漁港としての「まちの記憶」と、それが生活環境の中のさまざまなモノとして痕跡を残している状況を再発見し、これからの「まちづくり」の根拠を再確認しながら、まちの将来像づくりに取り組む。今年度には歴史マップづくりやイベントを通して、地域住民による発見と啓発を行う。	
内 容	・「駒っふ歴史編」の作成 ・「駒ヶ林むかし写真展」の実施	
地 域	神戸市長田区駒ヶ林町 駒ヶ林中学校区	
事業の効果	広く地域住民に写真の募集を呼びかけ、まちの古い写真が多数発掘され、その中には非常に貴重な資料となるものもあった。これらの写真や歴史マップを活用した「駒ヶ林むかし写真展」では、写真を前にお年寄りが子どもたちにまちの歴史を語り継ぐなど異世代交流が図られた。 また同時に開催した「スライドショー」では、他地域の人々にも駒ヶ林のまちの歴史を発信することができ、これらの取り組みは今後のまちづくり活動への指針となった。 今回の事業を通して、この地域の歴史性や伝統的生活習慣、まちの資産などが確認され、貴重な写真類を発掘することができた。	
事業経過	10月9日	「駒っふ歴史編」の企画・計画の検討
	11月7日	「駒っふ歴史編」のフォーマットの検討 写真展の企画検討
	16日	まち歩きの実施と「駒っふ歴史編」掲載事項の検討
	12月12日	「駒っふ歴史編」レイアウトの検討 むかし写真収集
		「駒ヶ林むかし写真展」の会場のレイアウトの検討
	16日	「駒ヶ林むかし写真展・スライドショー」の開催
連携団体	なし	
成果物	・「駒っふ歴史編」 3,000部 ・「駒ヶ林むかし写真展」の開催 写真21点 ・「駒ヶ林むかし写真・スライドショー」の開催	

今後の展望

昨年度から取り組んでいる地域の特徴をまとめた「駒っぶ歴史編」の作成は、今後も駒ヶ林地域ならではの事業として継続していきたい。

今回収集された写真を、今後行うイベントなどで積極的に活用するほか、地域の歴史を伝えるビデオや冊子づくりにも役立てるなど、継続的に発展させていこうと検討している。



問合せ先

中本 正 神戸市長田区駒ヶ林町 078-611-9313

コタツト

駒ヶ林地区は下町のぬくもりと人情の厚い「まち」を自慢しています。この駒ヶ林地区の人口の減少を防ぎ、「まち」の活性化を図る「まちづくり」手法のひとつとして、古い歴史の再発見を通して「まち」の魅力を感じてもらうため、駒ヶ林の歴史マップ作りや写真展を考えました。

会議の都度、活発な意見が多く出され、また古い写真の発掘にも皆で積極的に取り組み、苦労よりも喜びが多かったのが率直な感想です。 <駒ヶ林まちづくり協議会 中本 正>

(20)西須磨昔話紙芝居づくりと昔遊びの集い

●＜稲葉公園安心コミュニティプラザふれあい協議会＞

●神戸市須磨区南町 代表：里見 富男

目 的	「平家物語」「源氏物語」や和歌、俳句などに登場する文化的かつ歴史的に有名な西須磨の地域に伝えられる昔話や伝説を、子どもたちと一緒に再発見し、その話を紙芝居に作りあげることで、自分たちの住んでいる土地の魅力をより身近に感じとる機会とする。 また、その紙芝居を稲葉プラザまつりで上演することにより、より広く多くの人に西須磨のよさを知ってもらえる機会を生み出す。	
内 容	・紙芝居づくり ・「稲葉プラザまつり」の開催 ・「西須磨昔話地図」看板設置	
地 域	神戸市須磨区南町 鷹取、高倉中学校区	
事 業 の 効 果	子どもを中心とした企画を、大人やお年寄りが一緒に関われる内容としたことで、地域の方々の交流の広がりが見えた。特に稲葉プラザまつりは「昔あそび」を中心にしたことで、近隣の老人福祉施設「あいハート須磨」の方々の訪問があり、子どもたちと一緒に遊ぶほのぼのとした光景がみられた。 また、これまで別々に実施していた行事を自治会の子ども会と協働で行うことにより交流が広がった。	
事 業 経 過	8月14日 紙芝居についての準備 チラシ作成 22日 紙芝居作成 松風村雨堂見学 23日 子どもの紙芝居完成 28日 「松風村雨」紙芝居完成 30日 昔あそび名人に協力依頼 9月15日 稲葉プラザまつり 24日 まとめの会 10月2日 歴史地図・看板内容の検討 12月23日 「西須磨昔話地図」看板の除幕式 25日 ビデオテープ(記録用)作成	
連 携 団 体	月見山連合自治会子ども会 ハッピーサポート隊(稲葉公園に集う子どもたちの放課後のサポートを行う)	
成 果 物	・紙芝居「松風村雨」「いばのよたろうだぬき」「諏訪神社のきつね」「西須磨の蛇穴」 ・紙芝居舞台装置 ・稲葉プラザまつりの開催 ・「西須磨昔話地図」看板 ・地図看板除幕式のビデオテープ	

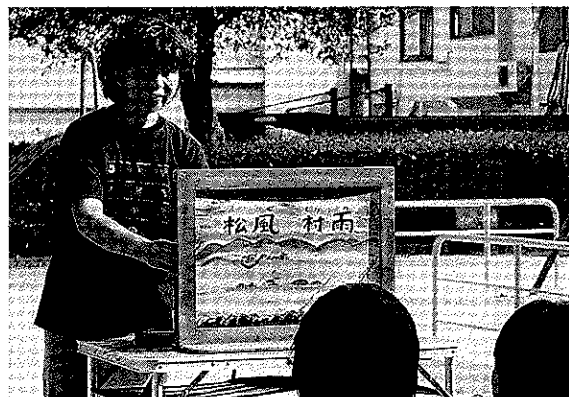
今後の展望

作成した紙芝居を地域の人たちに貸し出しをして、多くの人が西須磨の歴史に関心を寄せ、自分の住んでいるまちに愛着をもってもらう。

稲葉プラザまつりはたいへん好評で、来年度も稲葉プラザの中心行事として継続していくことを運営委員会で検討している。

昔話地図看板の地図に書かれている名所旧跡を訪ねるウォークラリーを5月に開催の予定である。

ハッピーサポート隊の活動と自治会の子ども会とのつながりが今回の事業で生まれ、今後いろいろな行事を共催できるように連携していきたい。



問合せ先

稲葉プラザ 神戸市須磨区南町 078-736-5321

コメント

以前から、自分達の住む西須磨のよさを子どもと一緒に感じ取ることのできる企画を立てていました。今回それにぴったりの助成を受けることができ、しかもこの事業で作成できた“昔話地図看板”が、今では稲葉プラザの名物になり、とても感謝しています。

“昔遊びのまつり”の準備では苦労しましたが、それだけに収穫も喜びも大きく、子どもからお年寄りまで和やかに集えたことをとても嬉しく思います。

<稲葉公園安心コミュニティプラザふれあい協議会 吉田 節子>

(21)「ケータイ」で歴史を携帯

●＜須磨浦通6丁目自治会＞

●神戸市須磨区須磨浦通 代表：蒲生 喜久三

目的	人には多少とも自分の住む地のいわれなどを知りたいという願望がある。幸いにも須磨には豊かな歴史が眠っており、この願望と豊かな歴史をバネとして各世代が協働して、地域の歴史を掘り起こしまとめたい。 その情報をすでに開設している携帯電話向けインターネット・ホームページ（iモード）から「誰もが持ち歩ける歴史」として、とくに須磨を散策される方々を意識して発信していきたい。	
内容	・「ケータイ」で歴史を携帯の勉強会（全10回） ・携帯iモード上に須磨の歴史マップサイトの立ち上げ ・講演会「須磨の歴史を学ぶ」の実施	
地域	神戸市須磨区須磨浦通 鷹取中学校区	
事業の効果	この事業への助成申請後、平成17年度のNHK大河ドラマが「義経」に決まったことから、期せずして自治会員の本テーマへの関心が高まり、この活動を通じて歴史を学ぼうとする人が増えた。 自分たちが先進の「ケータイ」を用いて市民活動を行っていることで、誇りと自信をもつことができ、他の活動にも積極的に参加する人が増えた。 今回の「ケータイ」について勉強会を実施したことで、「ケータイ」で自分の現在位置を家族に把握してもらえるなど、自分が徘徊老人になる恐れのある年代の人にとって、安心できる身近なツールであることを知る機会にもなった。	
事業経過	9月21日 26日 11月4日 7日 12日 17日 21日 26日 12月4日 7日 10日 15日	全体計画の立案 「ケータイ」の性能調査 勉強会 中高年世代と「ケータイ」 勉強会 「ケータイ」機器比較 勉強会 「ケータイ」メディアの制約 勉強会 電子地図の版權 勉強会 「ケータイ」画面精度 勉強会 GPS機能 勉強会 利用料金と通信速度 講演会 「須磨の歴史を学ぶ」 勉強会 iモードデジタル映像 勉強会 鳥瞰図（フリーソフト）
連携団体	なし	

成果物

- ・須磨浦公園「ケータイ」歴史マップ (<http://www.e-pk.net/suma/>)

須磨浦公園の電子マップにスゴロク的な要素を組み込み、「ケータイ」画面上の地図に歴史的モニュメント等の映像と案内図を映像で写し込み、その来歴などを、その場、その時に合わせ文字で表示させるソフトウェア。

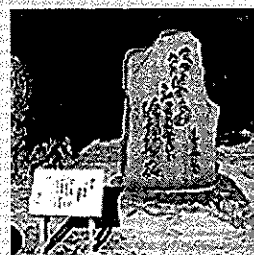
- ・講演会「須磨の歴史を学ぶ」の実施

今後の展望

今回活動に加わった非「ケータイ」世代の人たちから、今回の事例をヒントとして、「ケータイ」を使った仕事や遊びの方法が次々に提案された。このような状況から推察すれば、非「ケータイ」世代が「ケータイ」を持ってみよう、使ってみようと考えているところまで推進できれば、この活動が継続し発展していくものと考えている。



松尾芭蕉句碑



問合せ先

三島 秀介 神戸市須磨区須磨浦通 078-734-0180

コメント

この活動の主な枠組みは、GPS機能の付いたケータイをレンタル使用することと、通信費をプリペイドカードで支払うことで成り立つ計画でした。しかしGPSの精度不足等が判明し、これに替えて「スゴロク方式」で現在の成果を得ることを発想できるまでは苦しい思いをしました。

また、助成金の使途の公正さを証明するための諸々の手続きや取り決めが大きな負担（精神的にも）にもなりました。

<須磨浦通6丁目自治会 三島 秀介>

(22)神和台わくわくネットワーク

●＜神和台ネット＞

●神戸市垂水区神和台 代表：堀尾 正幸

目 的	神和台地域でも少子高齢化が進んでおり、高齢者にとって長い階段や坂の多い街並みは疲れやすく、団地内には商店、医療機関がほとんどなく買い物や医療にも不便を感じるなど、ますます暮らしにくい環境になっている。 こうした問題点を見直し、地域に活力を取り戻し、住み良いまちづくりをめざすため、地域の歴史や人的・文化的資源（自慢すること、ところ）の再発見を行い、ＩＴを活用した地域情報の受発信により、地域の交流とマンネリ化した地域組織の活性化を図る。	
内 容	・文化祭の開催 ・パソコン教室の実施 ・神和台ネット（ＩＴ）の活用 高齢者見守りシステム・ＨＰでの助け合い掲示板実施実験	
地 域	神戸市垂水区神和台 福田中学校区	
事 業 の 効 果	当事業の文化祭には約500名の幅広い年齢層の方が参加し、近隣の人たちの交流の場となり、住民のコミュニティ活動に対する意識向上が図れた。 また、人材面においても地域の著名人や多彩な趣味・能力をもった人たちを発見することができた。 地域団体との連携及び地域で活動する人たちのふれあいにより、いろいろな活動内容を知る機会となり、次のステップに活用できる。 インターネットを使った地域住民への情報発信やパソコン教室の実施により、住民のＩＴに関する意識が高まった。	
事 業 経 過	8月23日 夏祭りへの出展（ＨＰ紹介）、盆踊り映像放映の協力 31日 事業内容説明会 9月21日 パソコン教室 10月26日 パソコン教室 11月2日 文化祭１「文化人の講演会」 絵画コンテスト、アニメＩＴ教室、ロボット実演 16日 パソコン教室 23日 文化祭２「わくわく作品展」 はがき絵・ビーズづくりなどの体験教室 趣味の作品出展 24日 文化祭２ 詩吟・太極拳 クラブ発表会	

連携団体	神和台自治会 神和台子ども会 神和台有悠クラブ（老人会）
成果物	・文化祭1及び2の開催 ・パソコン教室（3回実施） 住民の知識向上 出前講座の相談員としての新たな人材発掘
今後の展望	文化祭で行った作品展と成果発表会は非常に好評で継続要望も多く、自治会を中心に実施していけるよう要請、協力していく。 再発見した人的資源、文化的資源はホームページで地域に公開していく。 発見したIT技術者、スキル保有者は今後もリーダーとして活躍してもらおうとともに、実践したシステムはシルバー層が活躍できるサービスとして今後の緊急通報システム及びエコマネーシステムの推進に役立てたい。 「高齢者見守りシステム」実験と「助け合い掲示板」でいろいろな課題や問題点を発見することができたので、引き続き解決策を検討していきたい。 ボランティア活動がさらに活発になるよう、住民が参加しやすい環境づくりへのNPO化を進め、電子自治体のコミュニティネットワークの手本となる地域拠点としていきたい。



問合せ先	嶺田 次夫 神戸市垂水区神和台 078-792-7357
------	-------------------------------------

コメント

神和台ネットから協力団体の依頼を受け、喜んで応援することとしました。「わくわくネットワーク」企画の文化祭は、講演会、発表会、展示会と多くの住民の参加で盛り上がりました。小規模な文化祭は今までも随時行われてきましたが、今回のように幅広く大規模に行われたのは初めてであり、大いに盛り上がりました。

文化行事は自治会の交流、親睦のため、今後も活発に実施していきたいものです。

＜神和台自治会 嶺田 次夫＞

(23)東垂水散歩道絵地図

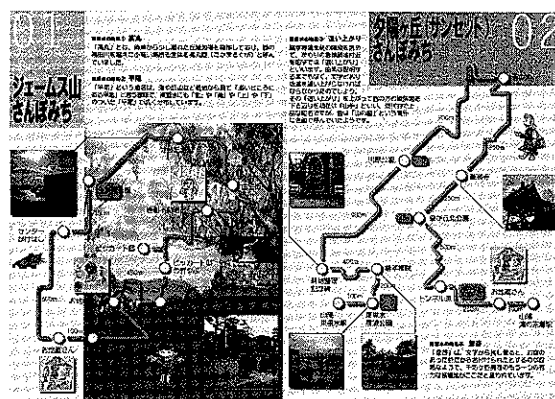
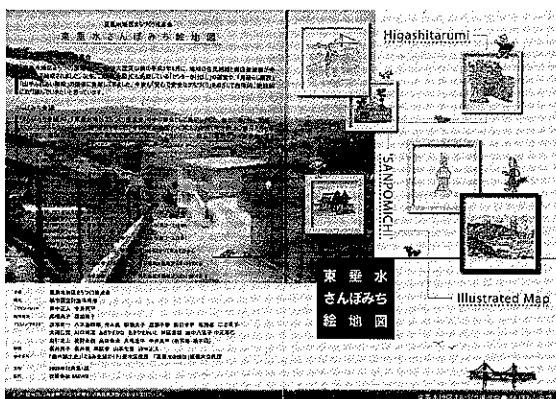
●＜東垂水地区まちづくり推進会＞

●神戸市垂水区城が山 代表：坂本 栄一

目 的	平成10年以来9回にわたって実施してきた「わがまちウォーク」で得た情報をまとめ、「絵地図」にする。さまざまな人々が、さまざまな角度から「再発見」したそれらの情報は、まちの「宝」であり、それを「絵地図」というカタチに残すことで地域の財産の共有を図る。	
内 容	・わがまちウォーク ・絵地図の作成	
地 域	神戸市垂水区東垂水地区 垂水東中学校区	
事業の 効果	ウォークにはベビーカーに乗った子どもから80歳代の高齢者まで参加し、引き続き地図作成にも多くの方が主体的に携わった。この作業過程を通じて異世代交流が行われ、地域活動の広がりや地域コミュニティの形成に役立った。 また、絵地図を東垂水の約6,500世帯に配布することで、まちの「宝」が広く流通し、まちへの知識と愛着を深めることが期待できる。	
事業 経過	9月27日 10月11日 25日 11月2日 14日 22日 12月7日	今までのわがまちウォークの情報の整理・絵地図イメージ ウォークのポスターづくり・絵地図のテーマ設定 第10回わがまちウォークの企画 第10回わがまちウォーク実施 「絵地図」に載せるイラストや解説文を募集 「絵地図」に載せる追加情報の検討・整理 「絵地図」のデザイン、レイアウトの話し合い
連携 団体	なし	
成果 物	・「東垂水さんぽみち絵地図」(A2カラー両面刷り A5仕上げ) 7,000部 ・第10回わがまちウォーク 「明石海峡大橋観望スポットをめぐる2」(参加者 57名) ・「東垂水さんぽみち絵地図」に関するアンケート 7,000部	

今後の展望

- ・ 次回のウォークを「絵地図完成の記念ウォーク」として開催する。
- ・ 絵地図の裏面右下にIDナンバーを貼っており、それを利用してイベントの際の抽選会などに活用したい。
- ・ 絵地図の配布に際してオリジナルコースや絵地図の活用法についてのアンケート用紙も配布しており、今後はアンケートの回答で寄せられた声を活かしていきたい。
- ・ 地域内の小学校にも配布しており、地域の子どもたちとも交流していけるようなイベントの企画も検討している。



問合せ先

川口 博清 神戸市垂水区泉が丘 078-751-5107

コメント

「東垂水さんぽみち絵地図」を垂水東中学校へ持参したところ、教頭先生からお褒めの言葉をいただき、「各学級で活用したいので出来るだけ多くほしい」との申し出があり大変嬉しく思った。

ただ残念なのは、この地図を追加でほしいと申し出られた方々に配る在庫がないことである。印刷会社に原稿を保存してもらっているのので、こうした声に応えて何とか第2版を作成したいと考えているが、印刷費用の捻出に苦慮している。

＜東垂水地区まちづくり推進会 川口 博清＞

(24)ふるさとの川「伊川」の魅力アップ作戦

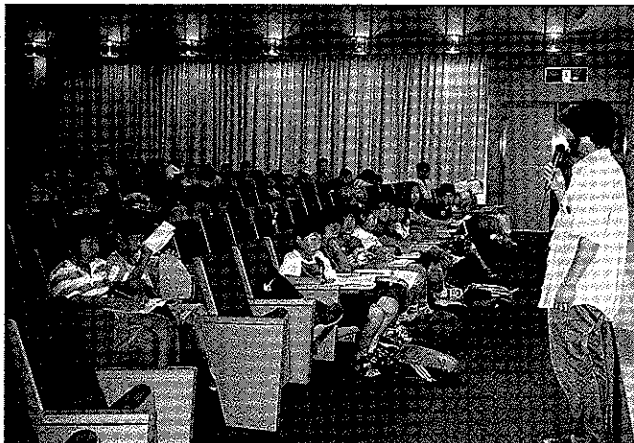
●＜伊川を愛する会＞

●神戸市西区池上 代表：久保 治

目 的	子どもたちがふるさとの川「伊川」のすばらしさと自然の大切さを学び、地域への理解を深めることをねらいとする。 また、ふるさとの川を通して、子どもたちが楽しみながら元気に屋外で活動できる参加の場を積極的に提供する。	
内 容	・缶バッジ制作 ・淡水魚教室 ・絵はがき作成 ・啓発用看板の設置	
地 域	神戸市西区伊川谷町 伊川谷中学校区	
事業の 効果	今回の事業について会合を重ね熱心に議論することで、地域に対する愛着とコミュニティの推進が図られた。 特に淡水魚教室では、小学校区を超えた親子の参加があり、淡水魚の生態から自然の大切さを学ぶとともに、若い人たちとの地域間交流を図ることができた。	
事業 経過	6月18日 事業内容の検討 7月7日 缶バッジの作成方法・淡水魚教室の実施内容の検討 16日 学校に協力要請と意見交換 31日 事業計画の説明と協力要請 8月26日 夏休みこども淡水魚教室 12月11日 「伊川を美しく」の啓発用の看板設置 18日 缶バッジ完成 22日 絵はがき完成	
連携 団体	なし	
成果 物	・缶バッジ 1,200個 ・絵はがき 4,000セット（5枚入り） ・淡水魚教室資料 ・「伊川を美しく」啓発用看板 2枚	

今後の展望

淡水魚教室は毎年継続して実施できるよう、学校へも協力を求めながら推進していきたい。
缶バッジ・絵はがきは有効に使っていくための一定のルールをつくり、息の長い事業を展開していきたい。地域通貨として活用できないか検討していきたいと考えている。(例：缶バッジ数個でTシャツと交換し、缶バッジのリサイクルを図る)



問合せ先

俵田 弘三 神戸市西区池上 078-974-0001

コメント

“伊川を愛する会”は、神戸市西区伊川谷地区住民6万人を母集団とする環境保全のための市民団体で、10年の歴史をもっています。

この10年のあゆみの中で試行錯誤もありましたが、運動の幅を広げていくため、地域の子どものために何ができるのかが課題となりました。平成15年度の取り組みは、その観点から、①缶バッジ(魚のマンガ)②エコカードとしての絵はがき③子どもTシャツ(①と同じ)④子ども淡水魚教室などに取り組みました。

都市近郊農村とニュータウン住民との交流も、この地区ではうまくいっているといわれています。これが、この会の活動を多様なスタイルにしているものと思われます。

<伊川を愛する会 門脇 正宏>

(25)西神ニュータウンの歴史の発掘

●＜西神ニュータウン研究会＞

●神戸市西区学園西町 代表：大海 一雄

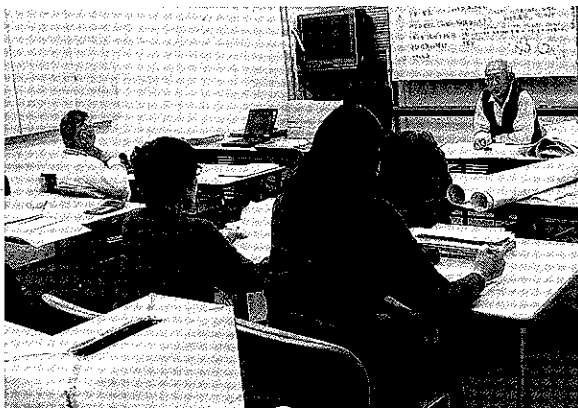
目 的	西神ニュータウンは入居開始から20年が経過し、現在では西区の人口の約40%を占めるまでに発展してきたが、どこの町にもある、ふるさとの歴史がこの町に住む人たちに知られていない。 そこで、手つかずになっている西神ニュータウンの歴史を掘り起こすとともに、住民自らが自慢できるところを選ぶなどの活動を通して、まちのアイデンティティを高めることを目的とする。	
内 容	・新ふるさと自慢アンケート ・秋・冬ウォーキング	
地 域	神戸市西区西神ニュータウン（西神中央住宅団地、西神南ニュータウン、学園都市）	
事業の 効果	今回の広報活動の過程で、学校、自治会、商業・事業者、交通局、区役所、まち育てサポーター、まちづくり協議会など多くの人と知り合い意見交換することができ、地域におけるコミュニティづくりが大いに推進された。 また、新ふるさと自慢アンケートの実施は、その結果のみならず住民に「ニュータウンをわがまちとして再認識」する一助になったと考える。	
事業 経 過	9月8日 秋のウォーキング準備 新ふるさと自慢アンケート企画 10月2日 アンケート内容 ポスター検討 11日 秋のウォーキング 狩場台と端谷城址 5～29日 アンケート用紙配布 募集箱設置 ～12月13日 アンケート用紙回収・整理 13日 冬のウォーキング 如意寺と西神南NT 8日 応募スポット写真撮影 20日 応募スポット写真撮影	
連携 団 体	小学校……狩場台、糺台、竹の台、榎野台、春日台、美賀多台、井吹東、井吹西、小寺、東町 中学校……櫛谷、平野、西神、井吹台、太山寺 (株)神戸ニュータウン開発センター	
成 果 物	・新ふるさと自慢 応募アンケート印刷 (児童・生徒用) 8,700部 (一般用) 12,000部 アンケート回答 510通 ・ニュータウンと周辺のウォーキング 秋のウォーキング 10月11日 狩場台と端谷城址 (参加者 30人) 冬のウォーキング 12月13日 如意寺と西神南NT (参加者 18人)	

今後の展望

今回の結果をもとに、例えば「(仮) 西神ニュータウン-新ふるさと30選」として早期に小冊子にまとめ配布したい。

3月の研究会例会では、今回の結果をふまえて広くアンケート協力者にも参加を呼びかけ、「ニュータウンはふるさとになるか」のテーマで検討を行う予定である。

今回の活動を契機に、ベッドタウンにおける生活の場としての「わがまち」意識を醸成、再認識し、地域コミュニティづくりの一助となるよう活動を続けていきたい。



問合せ先

石井 敬三 神戸市中央区八幡通 078-252-7401

コメント

「ニュータウンの住民は我がまち意識が希薄では」というのが、今回の新ふるさと自慢を行うに至った一因ですが、そうした事情はアンケートの回答数の少なさにも現れています。

しかし、ニュータウンで育つ子ども達は、身近な自分の生活の中で自慢できる所を持っており、それが彼らの“原風景=ふるさと”だと教えられました。ニュータウンもふるさとになり得る、またそうしなければとの思いを新たにしました。 <西神ニュータウン研究会 石井 敬三>

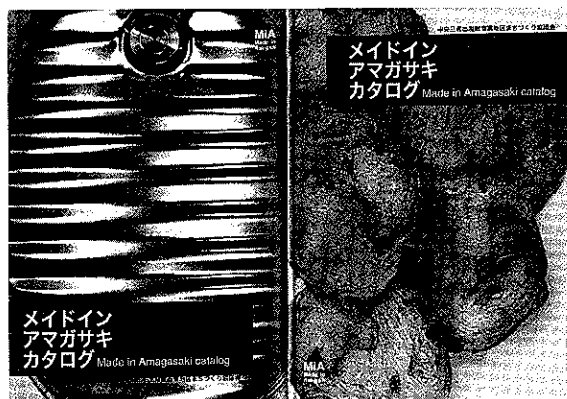
(26) 尼崎名物の再発見運動「メイドインアマガサキ・コンペ」

●＜中央三和出屋敷商業地区まちづくり協議会＞

●尼崎市神田中通 代表：吉田 昌弘

目 的	かつての城下町である尼崎は古くから栄え、その歴史の中でさまざまな製品や特産品を生み出した。 ・古い技術が息づく品 ・創業数十年の伝統ある商品 ・原材料のほとんどが尼崎産の特産品 ・尼崎だけでしか作られていない特産品 ・高い技術力を持った職人 など これら「尼崎製」「尼崎産」にこだわった「メイドインアマガサキ」と呼べる地域資源を市民で再発見し、スポットを当てる取り組みを通してまちへの誇りを回復し、地域の活性化につなげることを目的とする。																						
内 容	・「メイドインアマガサキ・コンペ」の実施・選考・表彰 ・「メイドインアマガサキショップ」開催 ・「メイドインアマガサキカタログ」の制作																						
地 域	尼崎市神田中通 育英中学校区																						
事 業 の 効 果	今回の事業では、当初予定していなかった多くの連携団体からの後援を得ることができ、一商店街にとどまらず地域と商店街のあり方を見直すきっかけとなった。 グランプリの選考は多くのマスコミで紹介され、再発見した名物を広く市民にPRすることができた。 空き店舗を活用した「メイドインアマガサキショップ」での商品の展示販売では2日間で約5,000人の方が集まり、商店街の活性化にもつながった。 イベント運営には大学生スタッフが参加し、地域のなかに新たな活力が芽生え始めてきた。																						
事 業 経 過	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>8月7日</td><td>事業の進め方の検討</td></tr> <tr> <td>20日</td><td>募集方法の検討</td></tr> <tr> <td>9月5日～10月9日</td><td>エントリー受付と独自調査</td></tr> <tr> <td>10月9日</td><td>イベント内容の検討</td></tr> <tr> <td>17日</td><td>審査会の実施 グランプリの選出</td></tr> <tr> <td>21日</td><td>理事会 進捗状況の確認</td></tr> <tr> <td>10月22日～</td><td>イベントへの出店交渉 出品物件の取材</td></tr> <tr> <td>26～28日</td><td>イベント会場の設営</td></tr> <tr> <td>11月29日</td><td>メイドインアマガサキショップの開店</td></tr> <tr> <td>30日</td><td>イベントの実施</td></tr> <tr> <td>12月3日</td><td>「メイドインアマガサキカタログ」編集会議</td></tr> </tbody> </table>	8月7日	事業の進め方の検討	20日	募集方法の検討	9月5日～10月9日	エントリー受付と独自調査	10月9日	イベント内容の検討	17日	審査会の実施 グランプリの選出	21日	理事会 進捗状況の確認	10月22日～	イベントへの出店交渉 出品物件の取材	26～28日	イベント会場の設営	11月29日	メイドインアマガサキショップの開店	30日	イベントの実施	12月3日	「メイドインアマガサキカタログ」編集会議
8月7日	事業の進め方の検討																						
20日	募集方法の検討																						
9月5日～10月9日	エントリー受付と独自調査																						
10月9日	イベント内容の検討																						
17日	審査会の実施 グランプリの選出																						
21日	理事会 進捗状況の確認																						
10月22日～	イベントへの出店交渉 出品物件の取材																						
26～28日	イベント会場の設営																						
11月29日	メイドインアマガサキショップの開店																						
30日	イベントの実施																						
12月3日	「メイドインアマガサキカタログ」編集会議																						

連携団体	尼崎南部再生研究室 尼崎市役所 兵庫県阪神南県民局 尼信地域振興財団	尼崎商工会議所 阪神シティーケーブル株式会社 株式会社エフエムあまがさき 尼崎青年会議所
成果物	・「メイドインアマガサキショップ」の開店（11月29～30日） ・「メイドインアマガサキカタログ」2,000部	
今後の展望	コンペにエントリーされたものには尼崎の歴史や風土を反映したものが多く、これらの情報をより広く発信していくために、お年寄りによる語り部の育成を進めるなど、異世代交流の充実へとつなげていきたい。 今後は再発見した地域資源を、どのように活用し、まちの活性化へつなげるかが課題となるが、販売経路の確保、新たな「メイドインアマガサキ」の発掘、企業との協力体制など、各連携団体においても次年度計画に組み入れることを検討している。	



問合せ先	吉岡 健一郎 尼崎市神田中通 06-6411-5511
------	-----------------------------------

コメント

尼崎を再発見することで地元の人間に誇りを取り戻すための「メイドインアマガサキ」。応募期間中は人手不足や告知の準備不足により、当初目論んでいたほどの反響はありませんでした。実験ショップの開店や「メイドインアマガサキ」カタログの発刊が新聞に取り上げられるに及んで、全市的な認知と大変な反響をいただきました。

まちづくりの過程は地味で、人々の無理解、無関心などにより苦労は多いですが、今回のようにうまく結果が出せた時の達成感は格別です。

＜中央三和出屋敷商業地区まちづくり協議会 吉岡 健一郎＞

(27)神崎川メイクアップ事業

●＜神崎社会福祉協会＞

●尼崎市神崎町 代表：田中 正三

目 的	神崎地区は、平安の昔から京都と西国をむすぶ川尻の湊（みなと）として栄え、有馬道と西国道の分岐点として人と物の行き交う町だった。 約40年前に神崎川に築かれ防潮堤は灰色で殺風景であったことから、昔の姿を彷彿とさせるようなメイクアップを施し、ふるさと再発見と心なごむ空間として再生する。	
内 容	・住民参画による神崎川の防潮堤の修景壁画	
地 域	尼崎市神崎町 小田北中学校区	
事 業 の 効 果	企画段階から広く地元及び周辺地域住民に参画を呼びかけたところ、多数の参加があり、活動していくなかで参加者同士の連帯感が生まれた。また、歴史や昔話をもとに図案のイメージを語り合うことで自分たちの住むまちへの愛着が深まった。 色塗り当日は、小中学校の協力も得られ幅広い年代の参加者（2～75歳）でにぎわい、異世代交流の場となった。 地元事業者（関西ペイント）がペンキ提供とペイント後の化学処理まで引き受けてくれ、企業を含めた地域の交流とコミュニティづくりに寄与した。 仕上がった壁画には「明るくなった」「神崎らしい絵だ」などの声が聞かれ、地域の人たちにたいへん好評である。	
事 業 経 過	9月20日 10月11日 20日 11月2日 8日 10日 10～15日 14日 21日 23日 24日 12月13日	事業の基本構想の検討 第1回研修会 神崎の歴史・地域の景観づくり 神崎のイメージ図のもちより・集約 講師への送付 第2回研修会 図案の検討 第3回研修会 図案8枚の決定 色の決定 手法の検討 関西ペイントに事業の説明・協力依頼 壁面補修・下塗り工事 手法の決定と作業(図案の拡大、写し取り) 現地実測 割り付け・色塗り試作 下絵作業 色塗り作業 第4回研修会 事業の成果・課題 今後の取り組み
連 携 団 体	なし	
成 果 物	・神崎川防潮堤（神崎バス停付近）への壁画43点（約200m）	

今後の展望

今回未実施の残り約400mについても、次年度以降にメイクアップしたいと考えている。
また、工場のコンクリート塀にもペインティングをするなど、まちの修景活動を広げたい。
神崎地区の歴史案内板を立てて住民の郷土愛を育てるとともに、他の地区からも人が訪れる魅力あるまちにしていきたい。



問合せ先

川本 ミハル 尼崎市潮江 06-6499-5486

コメント

短期間のうちに基本構想を練って実行に移せるのか、不安な思いでスタートしたが、社協、ボランティアを中心に地元小学校、中学校、企業の協力を得て見事な『大壁画』が完成し、文字どおり“協働のまちづくり”となった。

最終工程の色塗り作業も、当初の予想を大きく上回る80名以上の参加があり、私達を喜ばせた。図案の選定、色の決定などを皆で考え、皆で完成させたことは、将来のまちづくり、“ふるさとづくり”への弾みとなる。

＜神崎社会福祉協会 田中 正三＞

(28)子どもと老人の絵画展（わが町の自然）

●＜大庄地区子ども会連絡協議会＞

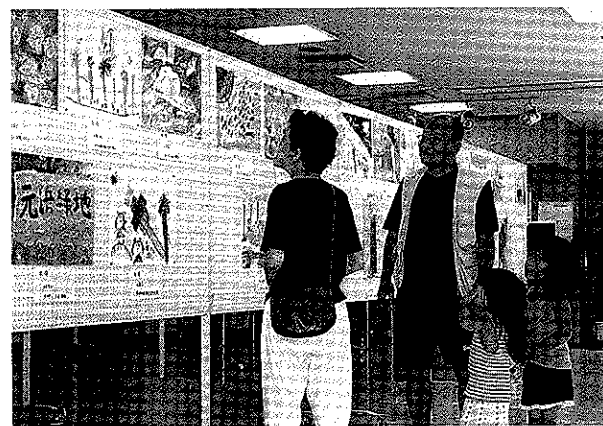
● 尼崎市大庄北 代表：芝原 敏雄

目的	公害問題で注目される尼崎大庄の地に、まだまだ自然が残されていることを住民に再認識してもらおうとともに、子どもたちによるまちの写生大会を通して自分のまちに愛着を深め、郷土愛を育むことをねらいとする。 また、ちぎり絵教室や絵画展を通して、地域内の子どもやお年寄りなど様々な世代の参加者が交流することで、地域のコミュニティづくりを推進する。	
内容	・ 写生大会、ちぎり絵教室 ・ 子どもと老人の絵画展	
地域	尼崎市大庄地区 大庄東、大庄西、大庄北中学校区	
事業の効果	写生大会では、子どもや保護者、地域のお年寄り約700名が参加し、親睦を深めることができた。ちぎり絵教室は、これまであまり交流のなかった老人クラブと共催できたことで相互理解の良い機会となり、各々の団体の活性化に役立った。 ふだんふれ合う機会が少ないお年寄り子どもたちが、この事業の中で相互の存在価値を自然に認め合う場を提供できた。 また、家庭や学校とともに地域が子どもたちの健全育成に関心をもち、取り組んで行く方向づけをするきっかけにもなった。	
事業経過	4月26日 写生大会の企画・検討 4月26日～5月10日 参加者募集呼びかけ 5月25日 写生大会 6月7日 写生大会作品 賞の選考 17日 第1回ちぎり絵教室 28日 第2回ちぎり絵教室 7月26日 第3回ちぎり絵教室 8月22日～24日 子どもと老人の絵画展 24日 絵画展表彰式 9月13日 反省会 9月28日 「大庄まつり」で受賞作品を展示	
連携団体	今北老人倶楽部	
成果物	・ 「子どもと老人の絵画展」の開催 応募作品640点 ・ 「子どもと老人の絵画展」の冊子 200部	

今後の展望

参加者から「これからもずっと継続していったほしい」という声が多数寄せられており、この絆を今後も広めていきたいと考えている。

企画・準備段階から子どもたち主体で絵画展を行えるように、リーダーの育成をしていきたい。



問合せ先

芝原 敏雄 尼崎市大庄北 06-6417-3358



子どもたちを巻き込んだ事件が多い昨今、心を痛めております。しかし、この事業を通して、わが子だけでなく地域の子どものお世話をしてくださる保護者の方や地域の温かい愛に子どもたちが見守られている現状を見て、本当にありがたい思いでいっぱいでした。多くの方々に支えられている子ども会なのだと痛感いたしました。

<大庄地区子ども会連絡協議会 西村 順子>

(29)自然と文化の森構想推進運動・事業

●＜自然と文化の森協会＞

●尼崎市田能 代表：畑 喜一郎

目 的	尼崎は工業都市として知られる一方で、古くは弥生時代の田能遺跡からはじまり、自然林や集落の歴史・文化に育まれた田園風景が現在でも残っている地域である。 そこで、これらの地域資源を活用しながら、地域の人々が自分たちの住んでいるまちに関心を持ち、地域の魅力や価値を再発見し、次世代へ伝えていく市民の協働によるまちづくりとして「自然と文化の森構想」を推進していく。	
内 容	＜まちのシンボル探し＞ ・わがまち歴史ウォッチング ・わがまち自然ウォーク ＜わがまち資源マップづくり＞ ・わがまちシンボル化計画 ・「自然と文化の森」資源マップづくり ＜わがまち再発見フォーラム＞ ・さといも収穫祭	
地 域	尼崎市園田地区	
事 業 の 効 果	この事業を通して、広く尼崎市広報による呼びかけや地域連絡協議会、地元子ども会などへの働きかけによって幅広い世代の参加が実現され、テーマ型のグループの活動と地元地縁組織との交流の糸口がつかめた。 また、「自然と文化の森」のC1計画を策定し、地域での事業化や連携の方向づけができた。地域の参加と協働による資源マップの作成と配布も、より広く地域住民のまちへの自覚と参画を促すとともに、地域コミュニティづくりの促進に寄与した。	
事 業 経 過	5月25日 7月27日 30日 9月7日 21日 10月8日 11月8日 16日 23日 12月13日	自然林で遊ぼう第1回オリエンテーリング 第1回メダカ探し隊 第1回歴史講座：猪名寺編 第2回メダカ探し隊 第1回冒険トレール まちのシンボル探し 猪名寺廃寺市民フォーラム 第1回わがまち再発見ウォッチング：猪名寺編 第2回歴史講座：戸ノ内編 第2回わがまち再発見ウォッチング：戸ノ内編 里芋収穫感謝 「鍬入れ感謝行事」 わがまち再発見フォーラム 「さといも収穫祭」 幹事会：反省会
連 携 団 体	なし	

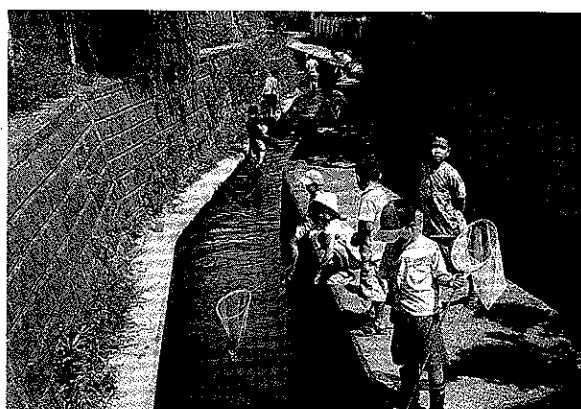
成果物

- ・かくれた歴史資源マップ「自然と文化の森」1,000部
- ・わがまち再発見フォーラム「さといも収穫祭」(参加者 2,000名)

今後の展望

今回の事業により「自然と文化の森構想」への理解が確実に広まり、今後の活動参加の意欲が伝わってきたと実感する。この成果をふまえて「自然と文化の森協会」の活動の継続と地域との協働の取り組みを広げていく。

また、さまざまな市民活動グループが集まり話し合う場として市が取り組む「プラットフォーム」づくりなどに協力することにより、テーマ型コミュニティと地域コミュニティとの連携に努め、「自然と文化の森構想」の早期実現に向けた活動を今後も継続して進める。



問合せ先

畑 喜一郎 尼崎市田能 06-6491-1907

コメント

今回、さまざまな活動を展開しましたが、いずれの活動にも共通した苦労は、いかにして多くの方に参加していただくしかけづくりをするかでした。そのため、ただ単に広報等でアナウンスするだけでなく、地域の団体や個人に直接アプローチし、活動の意義を伝えました。また、興味を喚起するテーマづくりや楽しさの演出も工夫しました。

今年度参加された方々からさらに活動の輪が広がって、より多くの方々に参加していただける地域づくりへと広がっていくことを願っています。

＜自然と文化の森協会 佐藤 亮＞

(30) まちの音楽家を探そう

● <本庁地区青少年を育てる協議会>

● 尼崎市東難波町 代表：澤井 正和

目的	住民から公募した「まちの音楽家探検隊」が、尼崎中央地区において音楽活動をしているグループ・団体を発掘し、心がふれあう場として「中央地区ふれあいコンサート」を開催する。その取り組みを通して、発掘された音楽家と参加者がともに楽しみ、地域住民相互の交流に貢献する。	
内容	・ 探検隊による地域在住音楽家の発掘 ・ 探検隊活動報告写真展示 ・ 「中央地区ふれあいコンサート」の開催	
地域	尼崎市中央地区	
事業の効果	広く住民から公募した探検隊員が、まちの音楽家を発掘する方法をとったので、いっそう地域内での異世代交流が深まった。さらに発掘された9グループ141人が出演するコンサートでは、演奏されるさまざまな楽曲に出演者と観客が一体となって楽しみ、大きな盛り上がりを見せた。ボランティア出演にもかかわらず、出演者からは「たくさんの観客に聴いてもらって感動した。またこのような機会があればぜひ参加したい」という声が寄せられるなど、住民のわがまち意識の醸成に大いに寄与した。	
事業経過	7月18日 実施方法、探検隊員募集について打ち合わせ 8月6日 事業の進め方について打ち合わせ 8～31日 出場者の調査・探検・情報交換 9月2日 音楽活動家一覧表作成 3日 コンサート開催チラシ作成・配布 5日 市広報紙に掲載 12～26日 パネル展示「探検隊からの報告」・プログラム作成 9月26～28日 「FMあまがさき」による開催告知 28日 「中央地区ふれあいコンサート」開催	
連携団体	なし	
成果物	・ まちの音楽家（9グループ：141人）の発掘 ・ 「探検隊からの報告」写真パネル展 ・ 「中央地区ふれあいコンサート」の開催	

今後の展望

今回の事業を通じてつながりのできた地域のコミュニティや団体と連携して、今後も住民を主体として各種のイベントに取り組み、地域で青少年の健全育成のための活動を進めていきたい。



問合せ先

水本 千恵 尼崎市東難波町 06-6483-4069



各事業実施にあたり、ボランティアとして参加したたくさんの人々と多くの出会いが生まれ、地域住民の「わがまち意識」も高まった。特にまちの再発見で発掘した「まちの音楽家」に対して、地域の子もたちの事業への演奏依頼があるなど、確実に交流の輪が広がっています。

今後また、地域住民を主体とした事業を企画していきたいと思います。

＜本庁地区青少年を育てる協議会 澤井 正和＞

(31)ふるさとの今と昔

●＜本庁南地区子ども会連絡協議会＞

● 尼崎市東大物町 代表：廣政 義信

目的	「ギネスウォーキング」と題したまち歩きを実施し、地域の一番を探してギネスブックを作成することを通して、まちの魅力の再発見とまちへの愛着を深める。 また、多世代交流会（年5回）を実施し、高齢者をはじめとする地域の方とのふれあいの場を創出する。
内容	「阪神大震災から今」 ・ 空き地で釜飯体験 ・ 体験談井戸端会議 ・ 記念植樹 ・ 地震から残った名所発見 「大字習字大会」 ・ 大きな字を書こう大会 ・ ゴム印作成 ・ 多世代井戸端会議 「100年前のふるさと」 ・ 地域の100年前講義 ・ 昔の子どもが作ったもの ・ 記念植樹 「開明小130年のあゆみ」 ・ 多世代井戸端会議 ・ もちつき大会 ・ 今と昔のゲーム大会 ・ 記念植樹 「クリスマス会」 ・ クリスマス ・ 井戸端会議 当初、ギネスブックを作成するために地域の一番の情報を集めたが、情報量が少なく、急きょ地域の自慢できるものに編集方針を改めて、冊子「ふるさと再発見」を作成した。
地域	尼崎市本庁南地区 城内中学校区
事業の効果	今回の事業で約900名が参加し、子どもから高齢者まで異世代交流が図られ、その結果、各地区でコミュニティ活性化が促進された。 特に冊子「ふるさと再発見」の印刷ではコストが高く断念しようとしたが、中学・高校生が中心になってカラーコピーやパソコンを活用した自主制作を検討してくれた結果、何とか予算内で冊子を完成することができた。こうした知恵やアイデアを出しながら皆で取り組むことで充実感を共有し、地域への愛着が深まるとともに、これからの活動にもつながっていくと確信している。

事業経過	7月12日	事業計画
	21日	100年前のふるさと 事前会議
	27日	「阪神大震災から今」実施 記念植樹
	8月20～23日	「大字習字大会」展示会
	21日	あとかたづけ
	24日	ギネスウォーキング
	12月14日	「100年前のふるさと」実施 記念植樹
	21日	「開明小130年のあゆみ」実施
		「クリスマス会」実施 記念植樹
	下旬	冊子「ふるさと再発見」の完成・配付
連携団体	本庁地区老人・婦人クラブ 本庁北地区子ども会連絡協議会	
成果物	・「ふるさと再発見」冊子 250部 ・記念樹 3本	
今後の展望	「異世代交流を基本としたコミュニティ活動」を地域に根づかせるためにも今回のみで終わらずに、継続性のある事業として地域に残したいと考えている。 今後も子どもたちに冊子作成などの場を与えて、地域活動に参画できる機会をつくっていききたい。	



問合せ先	廣政 義信 尼崎市東大物町 06-6481-0752
------	----------------------------


 本庁南地区内111の町会のギネスブック作成に挑戦し、各事業参加者の好評を博したが、全ての町会で地域の一番情報を集めることができなかった。今後、地域情報を集めるためには、地域の人を継続的に集められるようなコミュニティ活動を考えていかなければと反省している。
 これからは結果を急がず、地域内の豊かな歴史と自然を利用して、地域ウォークを定着できる方法で進めて、住民参加の事業の中で地域自慢や人自慢を発掘したい。
 <本庁南地区子ども会連絡協議会 廣政 義信>

(32)子ども“なんでだろう？”TV局

●＜大庄西社会福祉連絡協議会＞

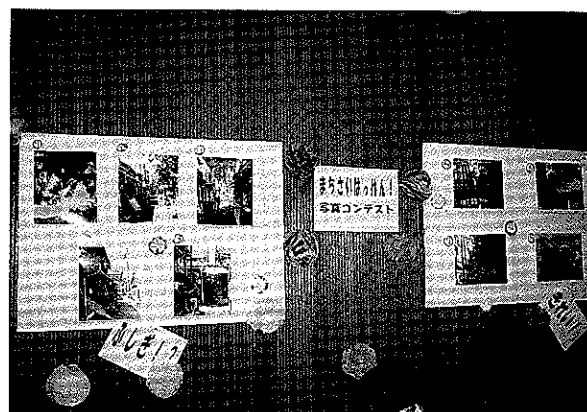
●尼崎市大庄西町 代表：荒木 伸子

目 的	日常に埋もれ、見落としがちな地域の行事を、問題意識をもってみることで子どもに探求心が芽生えるのではないかと。そうした思いから、季節の行事の歴史・由来・語源などを掘り起こしながら、今までとは違った視点でものとをとらえ、“生活に根ざした問題解決力”のある子どもの育成をめざす。 そこで、身近で親しみやすい行事を題材に、「非日常的な遊びの世界」としてのTV番組に似せたビデオ制作を通して子どもの知的好奇心を高め、地域のなかの問題に意欲的に取り組む姿勢を育てる。	
内 容	・「子ども“なんでだろう？”TV局」ビデオ制作、上映会 ・写真コンテストによる大庄地区再発見	
地 域	尼崎市大庄西町 大庄西中学校区	
事 業 の 効 果	婦人部・子ども会が中心となり日頃の疑問を引き出し、形として残すことで住民の地域活動への関心を深めることができた。またお年寄りから古い資料を提供してもらい「地域に残る逸話」を老若ともに学習することができ、異世代間の交流を図ることができた。 また、事業を通して地縁団体とNPOの連携が進み、地域活性化に貢献できるという手応えを得た。 この事業には多くのボランティアが関わっているが、特に地元の定時制高校の生徒が進行に携わってくれたことにより、生徒たちのボランティア活動への関心も高まった。その高校生を核に他地域へも活動を広めていこうという意欲も芽生えてきている。	
事 業 経 過	7月21日	写真コンテストも併せて実施することを決定
	27日	事業の全体説明会（趣旨説明と参加申込）
	8月19日	阪神武庫川駅取材
	9月24日	地域保育園に参加依頼
	10月12日	だんじり取材
	19日	ビデオ編集会
	11月30日	子ども“なんでだろう？”TV局 上映会
連 携 団 体	NPO法人シンフォニー	
成 果 物	・「子ども“なんでだろう？”TV局」のビデオ 50本 ・写真コンテストによる大庄地区再発見 約80作品	

今後の展望

今後とも、こどもたちの地域活動への積極的な参加を進めるために、今回の事業連携団体とビデオ制作に協力していただいた企業と一緒に、新しい題材でビデオを作成しようという案が出ている。その場合の課題として、ビデオ撮影等の技術を学ぶ講座・講習の必要性を感じており、その実施等を検討中である。

成果物であるビデオ作品を他地域にも配付し、子どもたちの取り組みを広めていきたい。



問合せ先

荒木 伸子 尼崎市大庄西町 06-6416-1955

コメント

本活動の最大の収穫は、大庄の語り継いでいくべき地域資産を改めて再認識できたことです。地域内のさまざまな年齢層の方々の参加により、新たな関係づくりもでき、たいへん有意義でした。

また、ボランティア活動への関心が高まったことで、地域の「場づくり」にも貢献し、今後の地域活性化の糸口になったのではないかと思います。 <NPO法人シンフォニー 東 朋子>

(33) JR尼崎駅北周辺を尼崎市の花木でイメージUP

●＜アミング・サウス福寿会＞

●尼崎市潮江 代表：根木 良一

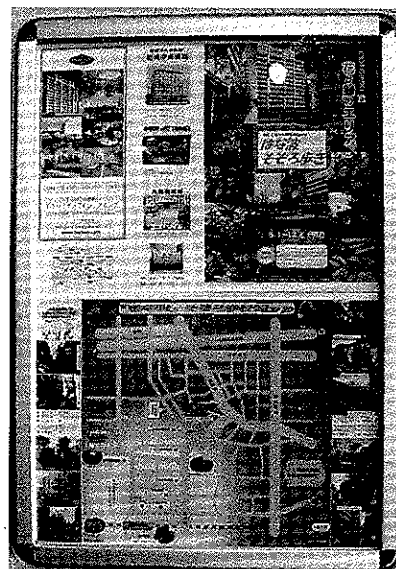
目的	尼崎市は物価が安いなど良い面もある一方で、公害などのイメージが強く、まちのよさに対して消極的な意見が多く、人口も減少しつつある。 こうしたまちのマイナスイメージに対する危機感が行政や市民レベルでもたいへん希薄であることから、このイメージを打破するため新しい街づくりへの第一歩としてJR尼崎駅北周辺の緑化事業に取り組む。	
内容	・はな波計画（JR尼崎駅周辺に尼崎市樹はなみずきを植栽し整備する） ・ベゴニアロード計画（JR尼崎駅北側の道路沿いに尼崎の市花であるベゴニアを植え整備し、市民の憩いの場を提供する） ・緑化および遺跡案内マップ作成	
地域	尼崎市潮江 若草中学校区	
事業の効果	ベゴニアロード計画については関係機関との調整がうまくいかず、今年度は見送りとなった。しかし、今回の活動をきっかけに尼崎市の歴史や文化を再発見しようとする機運が住民に広がった。その結果、いくつかの郷土を考える活動団体が発足し、地域のコミュニティの活性化が図られた。	
事業経過	5月27日 事業実施の協力依頼 8月19日 連携団体への経過説明 25,29日 事業実施の中身再検討 9月20日 マップ作成のための現地調査 10月15日 マップ作成のための現地調査 17日 マップ作成のための現地調査 12月15日 シンポジウム最終打ち合わせ 18日 シンポジウムの開催	
連携団体	あま21街づくり協議会	
成果物	・緑化および遺跡案内マップ 500部 ・はなみずき通信 500部 ・「シンポジウム開催資料 はな波計画」構想報告書	

尼崎市にはＪＲ尼崎駅周辺を緑遊新都心として整備する計画があり、「はな波計画」は市の整備計画にも採用されることになっている。これが実施されれば市民活動が町おこしの起爆剤となり、さらにまちに活気を与えることになると思う。

「ベゴニアロード」計画は関係団体との調整などに時間を要するが、時間をかけて理解と協力を求めている。

両計画が実施されれば、イベントの開催など、市民の交流や憩いの場として活用できる。

また、尼崎市内で「尼崎学」を開設している学校が増え、小学校では郷土学習の教科もある。今後この活動を通して学校とも交流を深めていきたい。



問合せ先

根木 良一 尼崎市潮江 06-6498-8858

コタツト

「緑遊新都心」と名づけられたＪＲ尼崎駅前再開発地域を、身近に感じている新しいマンションの住民組織「アミング・サウス福寿会」と、このマンションに隣接するグループが、市の花木の植栽計画を通して、新しい街のコミュニティづくりの一翼を担えたことは、言葉に表わせないほどの喜びがありました。今後とも花と緑で地域コミュニティの輪を広げたく思います。

<アミング・サウス福寿会 北 和子>

(34)道意誕生350周年記念誌(わが町の歴史と文化)

●<尼崎市道意社会福祉連絡協議会>

●尼崎市道意町 代表：筒嶋一美

目的	尼崎市史や大庄村誌は昭和初期に出版されているが、道意町の歴史をまとめた資料は今までなかった。そこで道意町350年のあゆみ(歴史)と文化について地元の知られざる一面を再発見して冊子を作成し、地域に配布して住民に紹介する。 ・阪神・淡路大震災では、人々は助け合い、力強く復興した。過去の歴史の中にも、津波や大雨、台風などの自然災害から、人々が助け合い生きぬいてきた姿があったことを再発見する。 ・地元の郷土愛と文化を再発見する。																				
内容	・「道意誕生三百五十年の軌跡－昔懐かし展」の開催 ・「350年の昔探しウォーク」の実施 ・「温故知新－道意誕生三百五十周年記念誌」の作成																				
地域	尼崎市道意町 啓明中学校区																				
事業の効果	「道意誕生三百五十年の軌跡－昔懐かし展」は3日間という短期間の展示あったが、他地域から足を運ばれる方も多く約350人の来場があり、昔を振り返るよい機会になった。過去の災害と阪神・淡路大震災とを重ね合わせ、改めて人の生きる力の大切さや助け合いの心を再認識することができた。 「350年の昔探しウォーク」はお年寄りから小学生まで37名が参加し、異世代交流が深まった。 事業を進めるなかで、連携団体以外の団体とも交流が生まれ、地域のコミュニティの活性化が図られた。																				
事業経過	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>8月4日</td><td>事業の基本構想の検討</td></tr> <tr> <td>30日</td><td>350周年秋祭りの基本方針検討</td></tr> <tr> <td>9月7日</td><td>展示会・歴史探求会への協力依頼</td></tr> <tr> <td>10月10日</td><td>展示設営 目録づくり</td></tr> <tr> <td>11～13日</td><td>「道意誕生三百五十年の軌跡－昔懐かし展」開催</td></tr> <tr> <td>10月19日～11月16日</td><td>原稿依頼と取材・校正 ウォーク内容検討</td></tr> <tr> <td>11月8日</td><td>「350年の昔探しウォーク」実施</td></tr> <tr> <td>20,24日</td><td>記念誌の配付先検討</td></tr> <tr> <td>12月21日</td><td>「温故知新－道意誕生三百五十周年記念誌」地域に配付</td></tr> <tr> <td>24日</td><td>公共施設へ配付</td></tr> </tbody> </table>	8月4日	事業の基本構想の検討	30日	350周年秋祭りの基本方針検討	9月7日	展示会・歴史探求会への協力依頼	10月10日	展示設営 目録づくり	11～13日	「道意誕生三百五十年の軌跡－昔懐かし展」開催	10月19日～11月16日	原稿依頼と取材・校正 ウォーク内容検討	11月8日	「350年の昔探しウォーク」実施	20,24日	記念誌の配付先検討	12月21日	「温故知新－道意誕生三百五十周年記念誌」地域に配付	24日	公共施設へ配付
8月4日	事業の基本構想の検討																				
30日	350周年秋祭りの基本方針検討																				
9月7日	展示会・歴史探求会への協力依頼																				
10月10日	展示設営 目録づくり																				
11～13日	「道意誕生三百五十年の軌跡－昔懐かし展」開催																				
10月19日～11月16日	原稿依頼と取材・校正 ウォーク内容検討																				
11月8日	「350年の昔探しウォーク」実施																				
20,24日	記念誌の配付先検討																				
12月21日	「温故知新－道意誕生三百五十周年記念誌」地域に配付																				
24日	公共施設へ配付																				
連携団体	道意神社秋祭り運営委員会 大庄地区子ども会連絡協議会																				

成果物

- ・「道意誕生三百五十年の軌跡―昔懐かし展」開催
- ・「350年の昔探しウォーク」の実施
- ・「温故知新―道意誕生三百五十周年記念誌」の作成 500部

今後の展望

今回できた協力団体との絆を大切に、今後も活動を継続させていきたい。
50年後にも道意のまちを思い、心より愛せる地にするために、次世代を担う子どもたちの健全育成にこれからも努めていきたい。



問合せ先

筒嶋 一美 尼崎市道意町 06-6411-6790

コメント

この度「温故知新―道意誕生三百五十周年記念誌」を作成し、予想以上の部数が発行でき、多くの地域住民、公的機関に配布できたことを嬉しく思っています。

わが町は地名辞典にも取り上げられ、人名にちなんで名づけられた町です。その町が誕生350年を迎える大きな節目にあたり、記念事業として記念誌を発行することになりました。

編集の過程で先輩たちが村づくりのために水害等の天災を乗り越え、農作物の栽培に取り組んだことを垣間見ることが出来ました。京都・大阪に「尼いも」の存在を知らしめ、湿地田で村内で上位を争う良質の米を収穫していたとは夢想的にしませんでした。

まだまだ隠された新しい発見があるだろうと思いますが、その発見は次世代を担う子ども達に託し、この記念誌がより充実するのを期待しています。

＜尼崎市道意社会福祉連絡協議会 西村 高＞

(35)はばたけ！うえがはらっこ2003

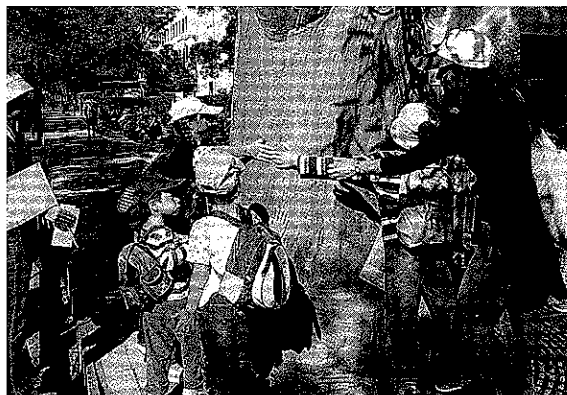
●<うえがはらっこクラブ>

●西宮市上ヶ原 代表：鈴木 多佳史

目 的	上ヶ原小学校校区に残る貴重な自然の「生態系」「姿・形」「時間の流れ・リズム」を、ウォークラリーを通して実体験することで、わがまちのすばらしさを再発見する。 また、これに関連して仁川・甲山の自然環境の学習会、ビオトープづくりを行い、継続して環境学習に取り組んでいく。	
内 容	・仁川・上ヶ原探険隊ウォークラリー2003 ・ビオトープの整備	
地 域	西宮市上ヶ原二番町、三番町、四番町、上甲東園、仁川町ほか 上ヶ原小学校区	
事 業 の 効 果	ウォークラリーを連携団体の恒例行事である「ワンデーハイク」との統合で開催した。企画・準備・当日の運営を協働で行うことにより、一層の相互理解が深まった。また、自分たちだけでは知り得なかった地域の魅力を再発見することができた。 ビオトープのメンテナンス作業を通じて、自然環境に配慮した工事方法について地域のボランティアの方々の意見を伺ったり、協力していただくなかで、幅広い世代間の交流をすることができた。	
事 業 経 過	5月11日 ウォークラリー日程調整・内容検討 31日 ビオトープメンテナンスについて検討 6月14日 ウォークラリー内容検討 7月19日 仁川・甲山自然環境についての学習 9月14日 ウォークラリー検討会 歴史学習 11月1日 仁川・上ヶ原探険隊ウォークラリー2003 8日 ウォークラリー反省会 12月14,21 冊子編集委員会 23,25日 10月15日~12月24日 ビオトープ整備作業 水生植物学習打ち合わせ	
連 携 団 体	上ヶ原地区青少年愛護協議会 上ヶ原地区体育振興会	
成 果 物	・「仁川・上ヶ原探険隊 ウォークラリー2003」開催 ウォークラリーMAPの作成（ポプラ及びユーカリの各コース 50部） ウォークラリーパスポートの作成（ポプラ及びユーカリの各コース 150部） ・「仁川・上ヶ原を楽しく歩こう1」冊子 500部 ・ビオトープ整備	

今後の展望

- ・ウォークラリーは次年度以降も今回の連携団体と協力して開催する。
- ・冊子の編集・配布、ビオトープづくりとそのメンテナンスを行うことにより地域環境学習を継続していき、地域連携団体やボランティアとさらに密接な交流を図っていく。
- ・2月開催の「上ヶ原まつり」で展示発表と冊子の配布を予定している。
自分たちのまちを見つめ直し、歴史や自然を知る一助にしてほしいと考えている。
- ・2月末に講師を招き「甲東梅林から上ヶ原分水樋までの散策会」を企画している。より深くまちを理解し、まちの魅力にふれる機会としたい。



問合せ先

田中 佳代子 西宮市上甲東園 0798-52-6801

コメント

今回の事業を通して、様々な世代の方々との交流を図れたことが、一番の成果であったように思います。小学生の視点から自分たちの住むまちの歴史や自然にふれて、もっともっとまちを好きになろうと、事業終了後も散策会やパネル展示を行いました。

今後も継続して、地域のふれあいを通したまちの魅力を発見していきたいと考えています。

＜うえがはらっこクラブ 田中 佳代子＞

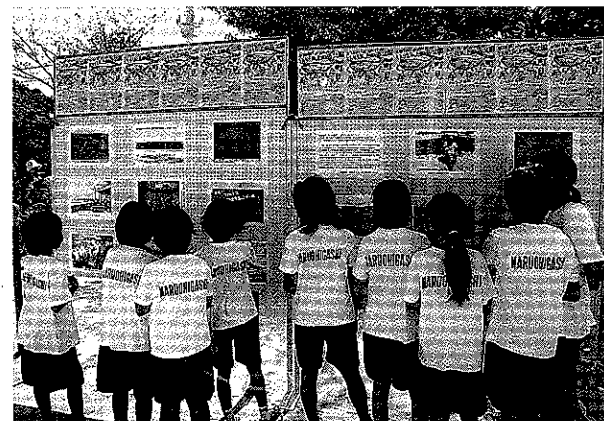
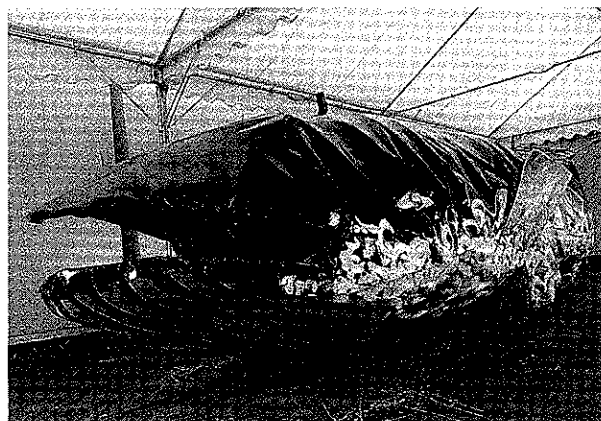
(36)よみがえれ上田西公園「くじらのいたまち再発見」

●＜上田西公園の環境を考える連絡会＞

●西宮市上田中町 代表：室屋 俊一

目的	鳴尾地区は甲子園球場に代表されるように、スポーツとレクリエーションの中心地である。かつてこの地にあった阪神パークには、水族館があって鯨が泳いでいた。 また、22年前に整備された上田西公園（西宮初の水の流れる公園）も現在では水が止められ、ホームレスが住みつくようになってしまっている。 そこで、イベントを通じて公園機能を回復するとともに「くじらのいたまち」を再発見し、地域の活性化を図る。	
内容	＜鳴尾東ふるさと祭り＞ ・くじらのいたまちパネル展 ・くじらみこしの練り歩き ＜くじらのいたまち再発見＞ ・くじらのいたまちパネル展 ・消防・防災コーナー ・ふれあいホエールステージ	
地域	西宮市上田中町 浜甲子園、鳴尾南、高須中学校区	
事業の効果	中学校にイベントの応援要請をしたところ、約80名の子どもたちの参画があり、その姿が随所にみられた。また、子どもたちの手による「くじらのいたまちパネル展」でも、お年寄りができ映えに感心される姿が見られるなど、世代を越えた交流と相互理解の機会になった。 今回の企画の実施にあたって協力した5つの団体との連携が深まり、地域コミュニティの活性化が図られた。 今回の事業の取り組みを通して、将来的に災害が発生した際の困難に立ち向かっていく地域の力となると確信している。	
事業経過	6月27日 7月9日～8月10日 7月21日～26日 7月22日～8月1日 8月13～22日 23～24日 24日 8月25日～9月15日 8月30日 31日 9月23日 28日	事業の素案作成 くじら関係のパネル制作 舞台看板の製作 ピンクのくじらの看板制作 くじらみこしの制作 「鳴尾東ふるさと祭り」（鳴尾東小学校） 「くじらのいたまちパネル展」（阪神タイガース応援縁日） 「くじらのいたまちパネル展」（ショッピングセンター「メルカード」） 「くじらのいたまち再発見」の会場設営（上田西公園） 「くじらのいたまち再発見」の開催 高須中学校体育大会に「くじらみこし」出演 反省会

連携団体	鳴尾東コミュニティ協議会 高須自治協議会 甲子園浜地区青少年愛護協議会 鳴尾東地区青少年愛護協議会 高須地区青少年愛護協議会
成果物	・「くじらのいたまち歴史パネル」 ・よみがえれ上田西公園「くじらのいたまち再発見」ビデオ制作 ・くじらみこし ・くじらの絵（甲子園の防波堤）～武庫川学院生徒制作
今後の展望	上田西公園の公園機能を回復するために、今後も定期的（5月と8月）にイベントを実施していこうと協議している。このような取り組みを通して校区を越えた地域間コミュニティが形成されていくと考えており、今後も継続していきたい。 また、このような活動を続けていくことにより、ホームレスの自発的退去を促すことにつながる大切な事業であると認識している。 成果物は今回のイベントで終わらせることなく、これからも大いに活用していく予定である。



問合せ先

久保 等 西宮市高須町 0798-47-5699

コタツト

「水の流れる公園」として子ども達の遊び場となっていた上田西公園は、震災以降に長期間にわたって閉鎖されていたので、その回復に取り組みました。その結果、この公園に住みついていたホームレスも減り、公園には子ども達の笑い声も戻り、以前より安心して遊べるようになりました。この事業を通して、中学生と先生の積極的な協力や、行政と地域の協働で地域を越えた連携が深まり、人と人との心のふれあいや交流を深めることができました。今後の地域づくりの原動力になると確信しています。

今も「くじらみこし」は学校、地域で元気に泳いでいます。

＜上田西公園の環境を考える連絡会 坪倉 勝＞

(37) クリエイトinふれあいネットワークづくり事業

●＜浜脇連合婦人会＞

●西宮市建石町 代表：二見 治子

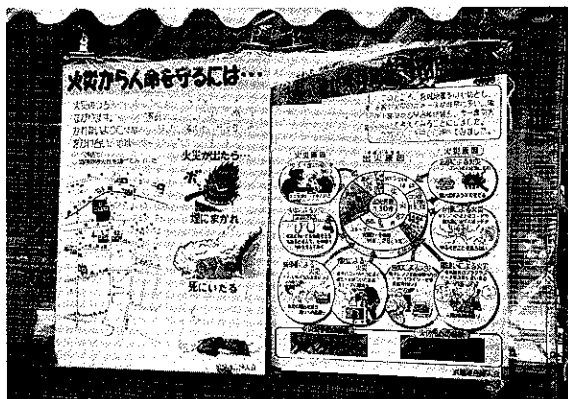
目 的	阪神・淡路大震災から9年が過ぎ、新しいマンションが建設されて新住民が増えてきている。そのため、新住民には消火栓をはじめとする街の安全ポイントへの理解とこの街になじんでもらうことを目的に、また従来の住民には薄れてきている防災意識を取り戻してもらうため、防火、防災関係を中心としたまちの再発見（再認識）を行う。	
内 容	＜再発見！安心して住める街づくりを＞ ・防火・防災のPRと意識調査パネル展 ・消火栓のウォッチング ・バザー出展（手作り品、こだわり食品、寄せ植えなど） ＜子どもでもできるサバイバル料理！＞	
地 域	西宮市浜脇地区 浜脇中学校区	
事業の 効果	企画が進むにつれて活動の輪が広がり、協働団体が増えていった。 異種活動団体が世代を越えて目的をひとつに協働作業をしたことで、相互の理解が深まり地域活動の活性化が図られた。	
事業 経 過	9月1日 事業内容の検討 関係団体への呼びかけ 24日 講習会（防犯を考えキーホルダーを制作） 10月6日 消火栓点検・写真撮影 マップづくり 11月13日 サバイバル料理参加者への案内作成・発送 18日 防火意識調査原稿作成と印刷 24日 アンケートの印刷 26日 チャリティーバザー寄付品の受付・値づけ 28日 バザー参加・パネル展 子どもサバイバル料理 12月18日 消火器の点検 防災意識のアンケート調査実施 反省会	
連 携 団 体	西宮市民共済生活協同組合 西宮市中央商店街振興組合 西宮消防署 浜脇小・中学校PTA 浜脇幼稚園PTA	虹の会 オリーブの会 西宮市共同購入活動連絡会 人生80年時代を模索する会 ひまわりの会

成
果
物

- ・ クリエイトinふれあいネットワーク記録集 500部
- ・ 防災パネル
- ・ 子どもでもできるサバイバル料理 小学校低学年 49名の参加（浜脇小学校）
- ・ 地区内消火器設置場所の写真集

今
後
の
展
望

今後も引き続き、新旧住民の交流の場を創出するために、連携団体と協力していきたい。
小学校とのつながりを活かして、地域で協力しながら子どもを対象にした食育に取り組んでいきたい。



問
合
せ
先

二見 治子 西宮市建石町 0798-35-0943

コ
メ
ン
ト

わが街は新しいマンションが多く建ち、若い世代の住民が増え、幼・小・中学校では学級増が続く状態となっています。その中で今回の事業で多くの団体の連携が実り感動しております。特にPTAとの交流で世代を越え理解を深めることができました。

現在オリーブガーデンを小学校に移し、校内防犯パトロールも兼ねて、朝夕手入れをしながら地域の環境美化に貢献しております。

今回の取り組みを通して、様々な団体と連携しながら地域活動の広がりのおかげになったことに感謝しながら、さらなる飛躍を求めてステップアップ！ <浜脇連合婦人会 二見 治子>

(38)にしのみやふくし縁日2003

●＜西宮市授産活動振興委員会＞

●西宮市染殿町 代表：東根 史郎

目的	私たちの地域には、十分に認知されていないために活用されていない社会資源がたくさんある。独居老人、障害者を対象とする制度でありながら利用方法が分らなかったり、定年後ボランティアで社会参加を望んでも申し出る先が分からないなど、有効に使われていない制度やマンパワーがある。 そのため、高齢者や障害者及び子ども等の社会的弱者を中心に情報を交換し、相互理解と扶助の関係を発展させ、地域の社会資源を再発見し、地域ニーズに対する受け皿を創出する。	
内容	＜ふくし縁日の開催＞ ・市内作業所等による出店 ・フリーペインティング（ロール紙に自由に絵を描く） ・リサイクル楽器の演奏 ・韓国の楽器の演奏体験 ・プロ・アマバンドによるステージ	
地域	西宮市六湛寺町	
事業の効果	今回の活動で高齢者、障害者、子どもが集い、交流することで親睦が深まった。地元自治会や高齢者とのつながりができ、地域住民のコミュニティづくりに大いに役立ち、来年度からも連携をとって交流事業を進めていく下地ができた。 また、ふくし縁日で行った楽器演奏の体験は、環境学習や国際交流のよい機会にもなった。	
事業経過	9月1日 19日 26日 10月19日 24日 25日 11月8日 14日 12月7日	ふくし縁日打ち合わせ ふくし縁日宣伝、交流会 ふくし縁日企画打ち合わせ アジア元気まつり（西宮市職員中心の有志の団体）参加 ふくし縁日準備 ふくし縁日 オープニング企画参加 総括会 「輪い和いフェスタ」（障害者週間のイベント）に参加
連携団体	NPO法人はらっぱ保育所 西宮市染殿町自治会	

成
果
物

<ふくし縁日>

- ・学童、父兄、高齢者、障害者の交流ができた。
- ・フリーペインティングで障害者と子どもたちの交流ができた。
- ・リサイクル楽器の演奏を通して環境学習ができた。
- ・韓国楽器の体験で国際交流ができた。

今
後
の
展
望

参加各団体や出店団体と協議し、「ふくし縁日」は今後毎年10月の第4土曜日の定例行事として定着させることとなった。特に今回は準備不足から高齢者の出店がかなわなかったの
で、次回への課題として実現をめざす。

地域自治会、老人会とは4月を目途に交流事業（文化サークル・料理講習会など）を定期的に行っていくことで基本的な合意が得られたので、調整のうえ具体的な作業に取り組んでいく予定である。



問 合 せ 先

水谷 安良 西宮市染殿町 0798-34-0356

コ
メ
ン
ト

広場にテーブルとイスを準備したことで、高齢者や障害のある方も含め、ゆっくりと過ごしていただくことができました。今回は地元の小学校で運営されている学童保育の皆さんも多数参加していただき、大盛況のうちに終了することができました。

次回は地域自治会の出店参加も実現しそうで、ますます地域の中で拡大していきたいと思えます。また、地域の高齢者の方の指導で、様々な講座もできそうな雰囲気となってきました。“まちの再発見運動”効果は絶大です!!

<西宮市授産活動振興委員会 水谷 安良>

(39)西宮名塩ニュータウンの斜行エレベーターを活用したまちづくり

●＜東山台自治会連合会＞

●西宮市東山台 代表：本村 春一

目的	西宮名塩ニュータウンの斜行エレベーターは、まちを強烈に印象づける景観上のシンボルであった。ところがまち開きから12年が経過して、住民にとってはこのような意識も薄らいでいるのが実情である。 そのため斜行エレベーターが本地域のアイデンティティを形成するかけがえのない「シンボル」であり、地域の魅力を高める「まちづくりの資源」であることを再発見するために、地域にふさわしいエレベーター上部ステーションの活用方法を住民で考える。	
内容	・ まちの再発見ワークショップ ・ シンポジウムの開催	
地域	西宮市東山台1～4丁目、塩瀬町名塩 東山台小学校区、塩瀬中学校区	
事業の効果	住民の意識を地域に向けることで、それぞれが地域の将来について考え、その果たすべき役割について考えるきっかけとなり、わがまち意識が向上した。またリーフレットでまちの情報や現在の地域活動の様子を知ることにより、まちへの愛着を深め、まちの成り行きに対する関心と呼び起こすことができた。 幼児から高齢者まで幅広い年代の住民が広く参加することにより、住民間のコミュニケーションが活発になった。 当地域の団体が協働でこの事業を行うことにより、プロジェクトの立ち上げ、運営・発想・企画の手法、ワークショップの進め方などまちづくりのスキルアップに寄与した。	
事業経過	8月3日 今後の運営体制について 9日 「まちかどワークにしのみや～まちづくり工房」の説明 28日 第1回ワークショップ開催 10月20日 第1回ニュースレター発行 26日 第2回ワークショップ開催 11月16日 第2回ニュースレター発行 24日 第3回ワークショップ開催 12月7日 第3回ニュースレター発行 21日 まちの再発見シンポジウム開催 28日 リーフレット原稿編集	
連携団体	東山台に保育所を実現する会 西宮市東山台小学校保護者会 東山台小学校区青少年愛護協議会	

成果物	・ワークショップ まちの再発見 3回 保育所学習会 3回 ・まちの再発見シンポジウム ・ニュースレター 3回発行 各2,000部 ・リーフレット 2,500部
今後の展望	エレベーターのステーションホール1階部分については、保育所を開設する合意が得られたが、まだ課題が多く残されている。東山台としての意見を集約して今後もワークショップや討論会を開催し、子育て支援の拠点として保育所の開設を求めている。 2階部分については、将来にわたる住民のための施設・場として考えていきたい。そのためにより多くの住民参加を求めて、住民の意見が反映できる「まちづくり工房」へ発展させたい。



問合せ先	東野 弘美 西宮市東山台 0797-63-2030
------	---------------------------

コメント 最大の成果は、地域の人材の再発見でした。「まちづくり」などという面白くない？テーマにもかかわらず、ワークショップやシンポジウムに集まってくれたのは、まちの将来を真面目に考える人達でした。また一方で、参加しないまでも、ニュースレターを欠かさずに読んでくれた人達がいたことも知りました。「いつも向こうにいる人達を意識する」、個人的ですが、これももう一つの成果として報告します。 ＜東山台自治会連合会 東野 弘美＞
--

(40)天王寺川・天神川再発見事業

●＜天神川・天王寺川を守る会＞

●伊丹市西野 代表：朝山 吉治

目 的	天神川と天王寺川の自然を守り、将来、蛭が乱舞する河川に蘇らせる運動を展開するために、地域の多くの人たち、特に子どもたちを中心に環境マップの作成と河川に親しむ「リバーサイド・フェスタ」を開催し、豊かな河川環境づくりをめざした河川美化運動に取り組む。 「守ろう私たちの自然を」「育てよう未来を担う子どもたちを」「広げよう地域活動の輪を」を合言葉に、これらの事業の推進を図る。	
内 容	＜リバーサイド・フェスタ＞ ・セルビンで魚を捕る ・水のお話 ・この流域の植物、魚、川のお話 ・子鯉のつかみどり ・スーパーボールすくい ＜環境マップの作成＞ ＜自然と天神川・天王寺川の歴史をまとめた冊子の作成＞	
地 域	伊丹市立桜台小学校区	
事 業 の 効 果	リバーサイド・フェスタは夏休みに開催したので、広く地域の子どもたちや保護者、お年寄り、中・高校生を含む幅広い年代層の市民約350人が参加することとなり、コミュニティの活性化が図られた。 参加した子どもたちは遊びながら楽しく環境学習に参加し、お年寄りから昔の河川の様子などを聞くことができた。冊子を作成する過程でも、小学生を中心に、保護者・PTA・自治会の役員が資料の整理をしながら話もはすむなど、異世代交流と親睦が深まった。 この事業は伊丹市内の小学校で注目されており、天神川と天王寺川流域でのイベントが、伊丹市内の小学校の子どもたちの交流機会を創り出すとともに、これからも継続、発展していく気運が高まってきた。	
事 業 経 過	4月5日 新年度事業検討 5月12日 環境マップの作成 7月15日 PTA役員に実行委員会への参加要請 8月21日 伊丹市広報掲載の取材 23日 リバーサイド・フェスタの実施計画検討 29日 リバーサイド・フェスタ リハーサル 30日 リバーサイド・フェスタ 11月4～14日 リバーサイド・フェスタパネル展（市役所ロビー） 12月1～27日 リバーサイド・フェスタパネル展 （市立情報サービスセンターハートフルプラザ）	

連携団体	桜台地区社会福祉協議会 桜台地区「自治会」ブロック 伊丹市桜台小学校PTA
成果物	・リバーサイド・フェスタ（約350人が参加） ・環境マップ 150部 ・冊子「天王寺川・天神川探訪」 20部
今後の展望	今回のリバーサイド・フェスタは、子どもたちだけでなく、大人も童心にかえって子どもと一緒に水に親しみ交流を深められたことによって、三世代交流とコミュニティの輪を広げるイベントとして大きな期待が寄せられるようになった。 今後も継続して行うのはもちろんのこと、さらに内容を充実して伊丹市全体の事業として展開されることを視野に入れながら、多くの人たちが参加できる環境を整えていきたい。



問合せ先

米谷 智 伊丹市千僧 072-780-3533

コメント

初めて川に入った子、初めて魚を自分の手で触った子、川の水が飲み水になることを知った子、魚も蟹も昆虫もこの川に住んでいることを知り驚いた子、子どもの目が輝き、皆が川の色や匂いが気になりました。

身近な河川で毎日目にする景色であったため、かえって大人も子どもも豊かな川の恵みを忘れていたが、イベントを通して再発見した1日でした。子どもが捕った魚は、それぞれの家で名前をもらい、家族の一員になっています。

＜伊丹市立桜台小学校 滝内 秀昭＞

(41)伊丹郷町イラスト・マップ案内板設置の取組み

●＜あしたの伊丹の「まち」を創りだす会＞

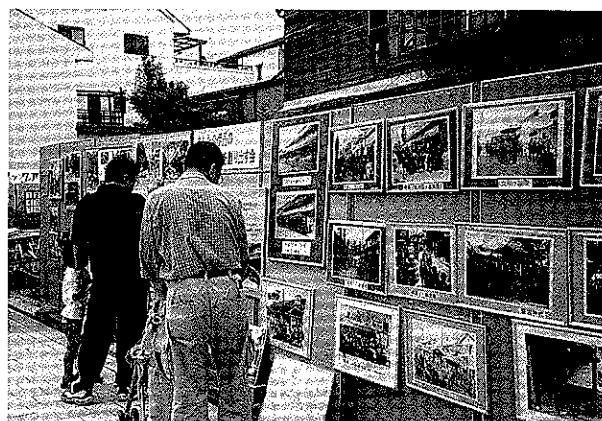
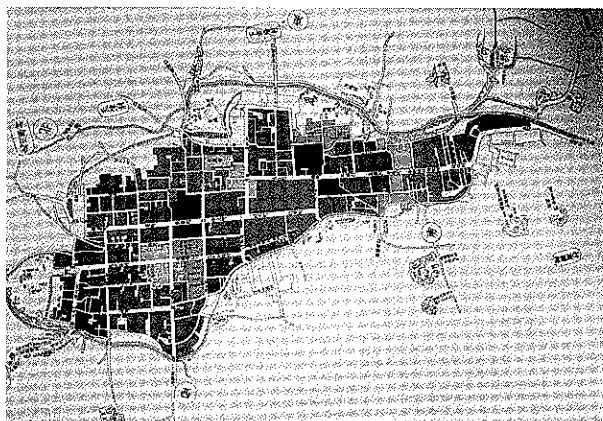
●伊丹市中央 代表：鈴木 嘉藏

目的	伊丹郷町は古の昔から伊丹の中心地として、また摂津の「へそ」として文化・教育のまちとして栄え、多くの史跡や史実が残されている。 この先達の足跡を、写真パネル展やまちの新旧が対比できるイラスト・マップ案内板等を作成してまとめ、次世代を担う若者が地域の歴史や文化への理解を深める。	
内容	・伊丹郷町の写真パネル展 ・イラスト・マップ案内板の作成・設置 旧町名の入った陶板作成・取り付け	
地域	伊丹市中央2丁目 北中学校区、伊丹小学校区	
事業の効果	伊丹郷町写真パネル展は、地域の文化や歴史を伝える役割を果たしていることから楽しみにする人が多く、古い写真の提供者も増え、パネル展を継続しようとする気運が住民の間で高まってきている。 子どもたちが旧町名を書いた陶板を取り付ける作業から、それを地図に落とすことになり、さらにイラスト・マップ案内掲示板の作成へと事業が発展した。その経過の中で、祖父母、父母、子どもたちとの三世代の交流と住民のまちへの愛着が深まった。	
事業経過	6月9日 全体会議 7月21日 調整会議 26日 子ども会による陶板取り付け作業 8月4日 実施計画決定 6日 立地場所について意見交換 9月1日 イメージ設計作成 10月11,12日 写真パネル展 アンケート(案内板の設置場所) 11月22日 伊丹郷町写真パネル展とフリーマーケット 12月2日 事業経過についてワークショップ	
連携団体	伊丹小地区社会福祉協議会 伊丹小ブロック自治会	
成果物	・伊丹郷町写真パネル展 ・旧町名の陶板の取り付け ・伊丹郷町イラスト・マップ案内板の設置	

今後の展望

平成10年に発足した当会は、伊丹郷町の活性化を行政に委ねるのではなく、市民力で地域を活気づける事業として写真パネル展やフリーマーケットなどの開催を通して、地域外の市民との交流の場を提供してきたが、今後も継続発展させていきたい。

写真パネル展は「出前の博物館」として、イラスト・マップ案内板は「まちの案内役」として、中心市街地の活性化に大きく貢献すると期待している。



問合せ先

森脇 義和 伊丹市千僧 072-780-3533



イラスト案内板の制作・設置を通して、この地域に住んでいる人々には、さらにまちへの愛着を深めてもらうことができました。また、伊丹を訪ねて来られた方々には、江戸期に栄えた往時と現在の街の様子を地図で見比べながら案内することで、伊丹をアピールできるきっかけになればと思っています。

＜あしたの伊丹の「まち」を創りだす会 鈴木 嘉藏＞

(42)有岡城再発見

●＜ＪＲ伊丹駅周辺自治会＞

●伊丹市東有岡 代表：辻 時夫

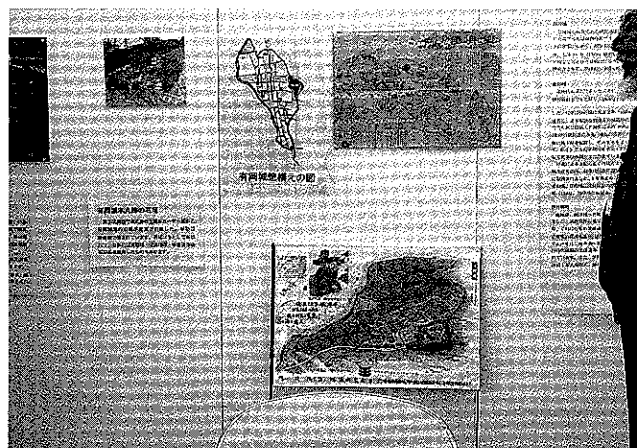
目的	当地域では、戦国時代の武将荒木村重が惣構えの城として大改築した名城有岡城を偲ぶ城跡が残っている。 その本丸のあったＪＲ伊丹駅周辺の城跡と隣接の広場を活用し、ふるさと意識の醸成を図る歴史や文化に触れる事業を開催することによって、ふるさとの再発見を行う。	
内容	・有岡城跡での野点 ・有岡城の変遷と歴史の講話 ・紙芝居（伊丹の民話）	
地域	伊丹市東有岡 北中学校区	
事業の効果	本事業は有岡城跡という歴史資源を活用したまちづくりであることから、市民活動団体との連携が必須であったが、企画運営会議のなかで意見交換し、お互いの役割を認識することにより連携を図ることができた。 歴史資源を活用した地域のまちづくり活動を通して、自らが住むまちへの誇りと愛着が育まれ、コミュニティ意識が向上し、より強い連帯感が醸成できた。	
事業経過	9月20日 10月4日 11月4日 23日 25日 12月26日	事業の詳細計画の検討・経費の見なおし 当日の準備・役割分担 広報と招待状の発送 看板の作成 茶券の準備 関係団体との連携協議 役割分担・事業展開の確認 有岡城の変遷と歴史の講話 城址での野点・紙芝居の開催 事業経費の清算 反省会 事業収支決算報告
連携団体	伊丹市文化財ボランティアの会 伊丹市茶道協会	
成果物	・有岡城跡での野点 ・有岡城の変遷と歴史の講話 ・紙芝居	

今後の展望

荒木村重が千利休の高弟として「利休七哲」の一人に数えられる茶人であったことにちなみ、地域の歴史資源を活かしたまちづくりの一環として、有岡城跡での野点は今後も継続したい。小学生高学年を対象としたお茶に親しむ教室の開催や野点への参加などにより、異世代交流と市民交流の場として提供していきたい。

また、野点の広報活動についても市の広報だけでなく、ＪＲや阪急電鉄と連携を図り、機関誌への掲載や主要駅でのポスター掲示など広くＰＲできる手法を取り入れる。

さらに、伊丹の歴史をテーマとする市民活動団体とのネットワークを形成し、本事業の充実を図りたいと考える。



問合せ先

阪上 聡樹 伊丹市千僧 072-780-3533

コメント

ＪＲ伊丹駅周辺を本丸とする有岡城跡と周辺の広場を活用した再発見事業を通して、市民がふるさと伊丹の歴史や文化に触れ、自ら住むまちへの誇りと愛着を育むとともに、コミュニティ意識の向上と強い連帯感が醸成できたと思っています。

今後もこうした歴史資源を活用して、内外に広く伊丹のまちの素晴らしさをアピールしていきたいと思います。

＜ＪＲ伊丹駅周辺自治会 辻 時夫＞

(43)「まちづくり地域計画」の推進事業

●<ゆずり葉コミュニティ>

●宝塚市逆瀬台 代表：中村 一雄

目的	地域住民のだれもが「楽しく住みつづけたいまちづくり」を目標に、地域住民の総意として「まちづくり地域計画」を策定し、ガイドマップにして地域に広く情報発信をする。 また、シンボル標識を設置するほか、自然を大切にしながら四季折々に楽しめるハイキングコースを整備して住民の健康づくりに役立てるなど、21世紀の健康長寿のまちづくりを推進する。	
内容	・「まちづくり地域計画」ガイドマップの作成 ・シンボルモニュメントを5箇所設置 ・広報紙「ゆずり葉だより」の発行	
地域	宝塚市逆瀬台 光ガ丘中学校区	
事業の効果	「まちづくり地域計画の策定」にあたっては、全住民に情報発信してアンケート調査を行った。またワークショップや身近なブロック会、まとめをする役員会など、延べ82回の会議を通して住民合意を図っていった。このことは組織への信頼を高め、強化することにつながり、コミュニティづくりをステップアップすることができた。 また眺望の優れた展望台2箇所を公募で命名して地図に名前を記載し、その場所の有効活用を促すことで地域活動が活性化された。 整備された地域の情報をガイドマップにまとめて全戸に配布したので、住民が地域の恵まれた自然を再認識し、地域への愛着をもつことができた。	
事業経過	5月(3回) 校区探検 地区巡り 6月3日 校区探検 地区巡り 7月6日 白瀬川にホタルをふやそう勉強会 8月10日 登山記録箱を設置 9月12日 裏山の眺望の良い展望台2箇所に命名 11月13日 記念植樹3箇所にシンボルモニュメントの設置 22日 「わくわくワークショップ」(小学生中心)を開催 21~23日 まちづくりに関するパネル展示 12月9日 「まちづくり地域計画提案書」提出 17日 第1回ふれあい植樹祭(県立宝塚高校生とボランティア)	
連携団体	なし	

成
果
物

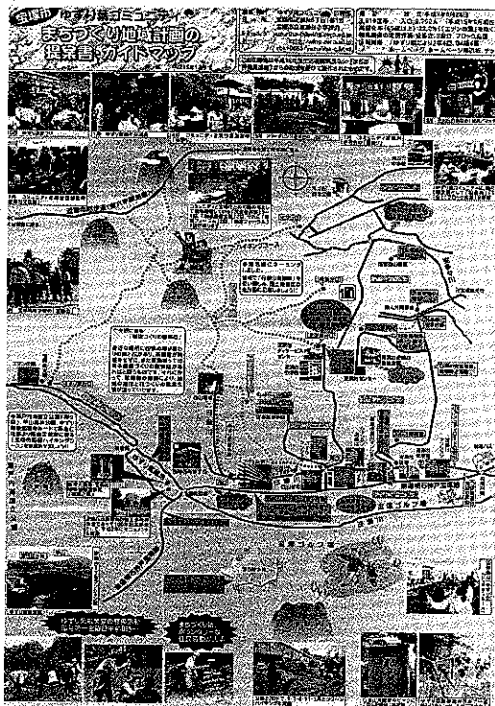
- ・「まちづくり地域計画」ガイドマップ 5,000部
- ・「まちづくり地域計画」の提案書 250部
- ・シンボルモニュメント 5箇所
- ・事業写真集とチラシ
- ・記念植樹 4箇所

今
後
の
展
望

「まちづくり地域計画」を活用し、今後はまちづくりのガイドラインとして各種の事業を展開していきたい。

市民参加による森づくりを進めるために、「六甲山麓フェニックスの森づくり実施要領」を作成中である。

「スポーツクラブ21ゆすり葉」として、ハイキングや散策を通して子どもたちの健やかな成長をめざすとともに、地域全住民の健康増進を図っていく。



問 合 せ 先

中村 一雄 宝塚市逆瀬台 0797-72-5644

コ
ミ
ュ
ニ
ティ

私たちのコミュニティは、4千世帯、人口1万人の「健康で・明るく・楽しく・いつまでも住み続けたいまちづくり」をめざしています。高齢化率は25%を超えましたが、介護を必要としない地域ぐるみの健康づくりを実践しています。

今回の事業で、自前の「住宅街にある森の散策路の整備」「まちづくり地域計画ガイドマップ」に取り組み、まさに私たちの願望をかなえることができました。これからも市民参加のまちづくり・森づくり事業に取り組んでいきます。

＜ゆすり葉コミュニティ 中村 一雄＞

(44)記憶に残そう昭和の西山

●＜宝塚市西山コミュニティ協議会＞

●宝塚市野上 代表：大崎 裕子

目的	宝塚市南西部に位置する西山地区はかつての里山で、逆瀬川沿いに松林が連なり、扇状地には果樹園が広がっていたが、現在では住宅地として開発されたために当時のおもかげもなくなり、このような地域の歴史を知らない人が多い。 昨年度の「まちの再発見運動」の取り組みで作成した記録集に昔の写真を掲載したところ大きな反響があり、歴史をまとめようという気運が高まった。開発の歴史を知り、住民同士のつながりを強めて地域の新たなアイデンティティの形成と今後のまちづくりや住民主体のまちづくりへの関心を高める資料として活用する。	
内容	・「記憶に残そう昭和の西山記録集」の作成 ・ふれあい西山まつり 「クイズでポン」アンケートの実施	
地域	宝塚市宝梅2丁目、3丁目、野上3～6丁目、千種1～3丁目、塔の町の一部、社町の一部 光ガ丘、宝梅中学校区、西山小学校区全域	
事業の効果	限定された範囲での歴史だが、高齢者や地域に長く関わっている方々へのインタビューを重ねることで、その情報を地域で共有することができた。また地域内の企業が地域に貢献していることを知る機会にもなった。 過去の歴史を振り返ることで、今後のまちづくりへどのようにつないでいくか、情勢変化にどう対応していくべきか判断する貴重な資料となった。 ふれあい西山まつりで実施した「クイズでポン」はクイズ方式で地域の昔を学習する企画だったが、歴史を通して子どもから大人まで異世代交流が進み、地域に興味をもち、もっと知ろうという意欲を育んだ。	
事業経過	6月11日 7月9日 18日 8月30日 9月4日 10月15,17日 18日 31日 11月17日 19日 12月6,10,17日	役員会 事業への呼びかけ 住民への呼びかけ・まとめ方法の検討 宝塚ゴルフ倶楽部訪問、聞き取り調査 進捗状況の確認 小林聖心女子学院訪問、聞き取り調査 ふれあい西山まつり準備 ふれあい西山まつり 「クイズでポン」実施 宝梅地区面接聞き取り (株)松田ポンプ製作所(地元企業) 訪問、聞き取り調査 資料取りまとめ、確認作業 資料取りまとめ、確認作業
連携団体	なし	

成果物

- ・「記憶に残そう昭和の西山記録集」250部
- ・ふれあい西山まつり「クイズでポン」アンケート結果（記録集に記載）

今後の展望

今回の取り組みを踏まえ、市民参加による「協働のまちづくり」を行うための地域ごとのまちづくり計画策定を進め、完成させたい。

これからも、他人任せではなく一人一人の参加が何よりも大切であり、今後のまちづくりの発展へ継続的に取り組んで行くことを強く訴えていきたい。



問合せ先

久保田 洋一 宝塚市野上 0797-74-6958

コ・マ・ニ・ティ

近くの住民に知り合いが増えました。地域に存在する神社仏閣、ゴルフ場、学校、企業などのいろいろな施設が、実は地域に様々な貢献をしていることへの理解が深まり、人と人とのつながりの大切さを知ることができました。

一方で高齢化が進むなど、原稿依頼がむずかしい状況もあり、きめ細かいコミュニティ活動が必要と思われます。しかし、貴重な第一歩は踏み出せたと考えています。

<宝塚市西山コミュニティ協議会（コミュニティ西山） 久保田 洋一>

(45)里山整備パートⅡ

●<西谷地区まちづくり協議会>

●宝塚市大原野 代表：清水 勲

目的	地域のお年寄りや若年世代と子どもが、交流を深めながら地域の里山への理解と多くの動植物など豊かな生態系を再発見することで、里山の環境を守っていくことの大切さや人と人のつながりを大切にする意識を高めていくことをねらいとする。	
内容	<自然教室（小中学生対象）> ・ 6月の境野の山 ・ 大原野ため池めぐり ・ 山行き道に咲く秋の花の観察 <里山整備（若年世代対象）> ・ ハイキング道の整備－倒木処理・ロープ柵 ・ 広場のベンチづくり	
地域	宝塚市大原野、境野 西谷中学校区	
事業の効果	「自然教室」に参加した小中学生は、自然に詳しい中高年者のガイドの案内で山を歩きながら自然観察を行い、異世代交流が深まった。 果実苗の植樹では、参加した小中学生が苗木の植え方をお年寄りに教わるだけでなく、みんなで実のなるのを楽しみに世話をしていくことになり、地域への愛着と参加者同士の連帯感を育む良いきっかけとなった。 里山整備では、参加した若い人たちが山の作業と木工作業のベテランの人たちから技術を学ぶ中で、会話ははずみ地域活動の広がりが見られた。	
事業経過	5月17日 6月21日 8月23日 10月25日 11月1日 22日	活動スケジュール検討 第1回自然教室「6月の境野の山」開催 第2回自然教室「大原野ため池めぐり」開催 第3回自然教室「山行き道に咲く秋の花の観察」 果実苗の植樹 11/22参加者募集ちらし新聞折り込み 里山整備と広場のベンチづくり開催 反省会
連携団体	宝塚市西谷地区自治会連合会	

成
果
物

<果実苗の植樹>

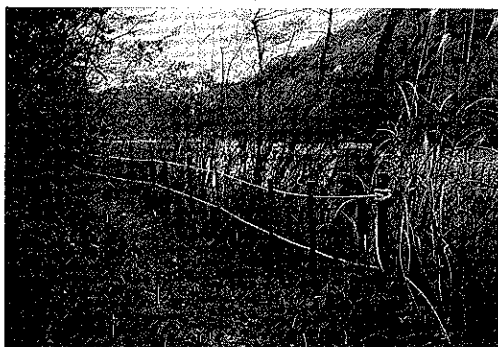
- ・ざくろ苗木 5本
- ・かき苗木 6本
- ・すもも苗木 5本

<里山整備と広場のベンチづくり>

- ・倒木処理 0.1ha
- ・危険箇所のロープ柵 約80m
- ・ベンチ 5基

今
後
の
展
望

希少植物の保護についてはその植生場所への立ち入りを制限して育成を図るだけでなく、観察できる場所をつくるべきではないかとの声があり、来年度の事業に反映していきたい。今後も引き続き「環境部会」を中心に、地域全体の環境整備に取り組んでいきたいと考えている。



問 合 せ 先

嶋田 広美 宝塚市大原野 0797-91-0001

コ
メ
ン
ト

ぼくは自然がいっぱいの西谷に住んでいる。だからわざわざ「自然観察をしよう」とか考えないで、図鑑を見て楽しむぐらいだった。でも、自然教室に参加するといろいろなことを教えてくれるから、おもしろいし興味がわいてくる。

丸山湿原ではヒメタイコウチの話を聞いたとたんに足元で見つけた。保与谷の山行き道でササユリとササの見分け方を教えてもらい、初めはなかなか見つけれなかったのに目に付くようになっていっぱい数えられた。同じ「目」なのに不思議だ。これからも行けるときには参加したいと思う。

<宝塚市立西谷中学校 辰巳 聡一郎>

(46) 自慢出来るまち多田東

●＜多田東小学校区地域活動促進委員会＞

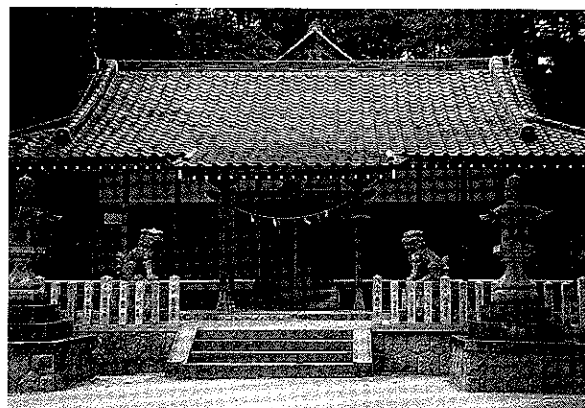
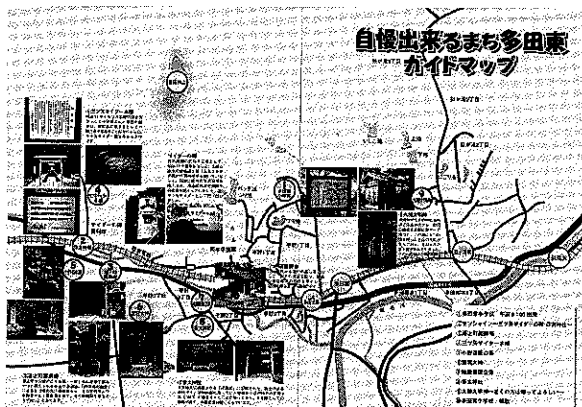
●川西市平野 代表：橋本 政治

目 的	多田東地区では、先住民よりも新住民の方が増えてきており、多田東小学校区内にある名所旧跡があまり知られていないのが現状である。 そこで、地区内の歴史の知識を子どもたちや新住民に広めるため、まずは名所旧跡をガイドマップ「自慢できる多田東」にまとめる。 また、地域住民の協力によって開催している含羅林まつり、昔遊び、しめ縄づくり、モチつき大会などを「自慢できる多田東」の取り組みとして発展させる。	
内 容	・多田東探究隊（ウォークラリー） ・ガイドマップ「自慢出来るまち多田東」の作成	
地 域	川西市多田 多田東小学校区	
事 業 の 効 果	ウォークラリーでは、名所旧跡の由来について親子の参加者がお年寄りの話に耳を傾けるなど、楽しく異世代交流を深めることができた。 ガイドマップを配布したところ「こんな名所が近くにあったのか」「ぜひマップを見ながら、まわってみたい」という声が多数寄せられ、まちへの興味、愛着をもってもらうきっかけになり喜んでいる。 地域のコミュニティ広報紙にもガイドマップが掲載され、広く知ってもらうことができた。	
事 業 経 過	9月28日 10月19日 11月9日 12月13日 21日	実行委員会 運営方法・日時決定 ウォークラリーのコース確認 多田東探究隊によるウォークラリー しめ縄づくり・モチつき・連風あげ 反省会
連 携 団 体	多田地区青少年育成市民活動 川西市防犯協会	
成 果 物	・「自慢できる多田東」ガイドマップ 300部	

今後の展望

今回の多田東探求隊（ウォークラリー）は、あいにくの天候で参加者が少なかった。これからは当委員会のメイン行事として、活発にPRし盛大に実施していきたい。また異世代交流の場として、地域に根ざした取り組みにしたいと考えている。

これからも地域の人たちとともに「わたしたちのまち」づくりに努め、協力し合える楽しいまちにしていきたい。



問合せ先

橋本 政治 川西市平野 072-793-0135

コメント

高齢者がだんだんと多くなり、若い人達は職域中心の生活の中でふれあいの場が少なくなってきました。このような時に『まちの再発見』のきっかけを作っていただき、お陰でもう一度まちを見直す機会に恵まれました。そして念願の名所旧跡のガイドマップもできあがりました。

これからは多田東探求隊をメイン行事として活発にPRし、できるだけ多くの皆様に参加いただきながら盛大に実施していきたいと思います。

<多田東小学校区地域活動促進委員会 橋本 政治>

(47)福祉コミュニティづくりと担い手再発見事業

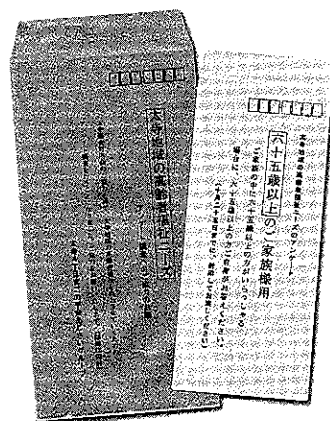
●<太寺4丁目まごの手会あじさいグループ>

●明石市太寺 代表：中來田 芳子

目 的	太寺地域でも高齢化が進み、住民による支え合いのしくみづくりをはじめとする福祉コミュニティの形成が求められている。 まずは詳細なニーズを把握し、潜在しているボランティアの担い手を発掘することが急務と考え、高齢者福祉に対するニーズ調査とボランティアについての意識調査を行う。 それと並行して異世代交流の促進、食事サービスを通して伝統的な食文化の継承及び地域住民が地域への関心を高める実践活動を試行する。	
内 容	・高齢者福祉に対する地域住民のニーズ調査 ・ボランティアについての意識調査 ・福祉コミュニティについてのワークショップ	
地 域	明石市太寺地区 大蔵中学校区	
事業の効果	高齢者福祉に対する住民のニーズを具体的に把握できたことにより、地域組織の役割や課題を明確にできた。 太寺地域にある5つの町内会が連携した調査により、地域によるニーズの違いや各地区でのボランティアの存在を把握することができたほか、地域のコミュニティづくりが図られた。 「4丁目まごの手会」が地域で活動していることを住民に広く知ってもらい、その活動にも関心を示してもらえた。	
事業経過	9月1日 事業計画の最終決定 アンケート内容骨子検討 9月24日 アンケート内容の検討 概要決定 10月25～31日 アンケート回収 11月4日 明石の地場食材／昼網の見学 ふれあい食堂の見学 16～17日 概要報告書の全戸配布 ニーズ調査結果の報告会 11月28日 ワークショップ 旬の食材と高齢者の暮らし 30日 ワークショップ 困ったときはお互いさま 12月12日 反省と今後の計画検討	
連携団体	太寺4丁目町内会	
成果物	・太寺地域の高齢者福祉ニーズ調査概要報告書 ・調査報告会資料 今回の調査で初めて、地域の高齢者や家族が望む福祉ニーズを具体的に量的に確認することができた。また潜在的なボランティアの担い手が、地域にたくさんいることも分った。	

今後の展望

調査結果とワークショップの成果をまとめて対応を検討していくとともに、具体的な事業を担っていくボランティアグループをNPO化して、地縁組織と連携していく方が必要と考えている。



問合せ先

入江 一恵 明石市太寺 078-912-0478

コメント

初めての経験で戸惑うことも多かったが、10年近く地域でボランティア活動をしながら踏み込めなかった太寺5町全域での福祉ニーズ調査を実施できたことは幸いであった。地縁組織へ波紋を広げながらも、その都度、知恵を出し合って進める中で深いつながりと自信を得ることができた。何よりも地域での交流の枠が広がり、高齢者からの電話や質問が寄せられるなど予想以上にグループへの期待は大きい。これに応える仕組みづくりを、目下検討し始めている。

＜太寺4丁目まごの手会あじさいグループ 入江 一恵＞

(48) 伝承文化ガイド標識づくり事業

●＜東浦町老人クラブ連合会＞

●津名郡東浦町 代表：平岡 博

目的	前年度の「まちの再発見運動」では、多くの住民にまちの名所旧跡を理解してもらうため7ヶ所に案内板を設置し大変好評であった。7ヶ所の案内板では数も少なく整備が十分でないため、今年度も引き続き1ヶ所でも多くの案内板を設置することで、埋もれた名所旧跡を分りやすく紹介し、特色の少ないこの町のコミュニケーションづくりに役立てたい。 案内板をガイド標識に活用することで、今まで知られていなかった道がハイキングコースになったり、子どもたちのウォーキングコースとして活用されることをめざす。	
内容	・名所旧跡ガイド標識（案内板）の設置	
地域	津名郡東浦町 東浦中学校区	
事業の効果	町の中に案内板が増設整備されることで、地域の歴史を身近なものとして理解が深まり、地域への愛着が育まれている。 「歩こうかい」が静かなブームで、休日には案内板をめざして家族で楽しく歩く人が増えており、住民の健康維持増進にもつながっている。	
事業経過	10月17日 事業の相談会 20日 各種団体への委員会参画依頼 28日 委員の選出 11月5日 事業説明会 10日 設置場所・案内板内容の検討 1月29日 案内板の設置 30日 反省会	
連携団体	なし	
成果物	・名所旧跡標識（案内板） 4ヶ所 ①知賀地神社 ②鐘馗さん ③第70潜水艦殉難の碑 ④金刀比羅宮（神社）	

今後の展望

案内板を目標として「歩こうかい」を開催し、健康増進や歴史の学習、異世代交流に役立てていきたい。

今回は風邪の流行で小学生対象の「歩こうかい」は見送りになったが、来年度の事業計画に入れて欲しいという要望もあり、ぜひ実現したい。

この事業は、まちの特色のひとつとして歴史に明るいまちづくりに役立つとともに、観光資源の開発にもつながっていくと思われる。



金刀比羅宮(神社)

御祭神 金刀比羅大神外2柱の神

所在地 中の丁

由来 昭和4年、当時盛であった打瀬舟の乗組員が発起となり、讃岐の金刀比羅神社からご分身を奉迎して建立、漁業の安全操業と地場産業の発展を見守っている。

平成15年12月吉日
東浦町老人クラブ連合会




問合せ先

今谷 すが子 津名郡東浦町 0799-74-4030

コ×××ト

この頃まちを歩いていると「老人クラブで作った案内板を目標に歩いているよ」と時々声をかけてもらう。嬉しくなって思わず「ありがとう」と応えている。

住み慣れたわがまちが、住んでいて良かった、といつまでも思えるようなまちづくりのお手伝いがチョッピリできたかなと思っている。

今まで何10年もの間、蓄えてきた知恵を生かしてできることはまだまだあると思う。今後も続けていきたいので新しいアイデアを目下、思案中である。

<東浦町老人クラブ連合会 今谷 すが子>

事例報告会概要

地域活動に取り組まれている団体等に対して、「まちの再発見運動」の取り組みを広く紹介するため事例報告会を開催するとともに、併せて平成16年度の募集内容の説明会を開催した。

1 日 時

平成16年3月21日（日） 13：30～16：30

2 場 所

神戸クリスタルホール（神戸クリスタルタワー3階）
神戸市中央区東川崎町1-1-3

3 参 加 者

平成15年度まちの再発見運動実施団体及び地域活動団体等 約300名

4 開催内容

13：30 開会

13：40 事例報告

事前審査を通過した10団体から取り組み結果を発表（発表7分、審査委員からの質疑3分で、各団体10分）した。

15：55 審査結果の発表と顕彰

16：20 平成16年度募集内容の説明と個別相談

16：30 閉会



会場は後方に掲示された各団体の実施報告と、皆さんの真剣なまなざし、そして熱気



「うえがはらっこクラブ」のプレゼンテーションソフトを使ったスマートな報告

5 審査結果

審査委員による審査の結果、大賞1団体、優秀賞2団体には表彰状と記念品を、奨励賞7団体には記念品を贈呈し、その取り組みを顕彰した。

(1) まちの再発見運動大賞 日西原神楽保存会（神戸市北区）

「日西原地域生活と文化再発見」事業

(2) まちの再発見運動優秀賞

①御蔵通5・6・7丁目自治会（神戸市長田区） 「みんなで作ろう！百人百色かるた」事業

②上田西公園の環境を考える連絡会（西宮市）

「よみがえれ上田西公園『くじらのいた町再発見』」事業

(3) まちの再発見運動奨励賞

①大石南町まちづくり協議会（神戸市灘区）

「大石の歴史掘り起こし隊」事業

②神和台ネット（神戸市垂水区）

「神和台わくわくネットワーク」事業

③東垂水地区まちづくり推進会（神戸市垂水区）

「東垂水散歩道絵地図」事業

④中央三和出屋敷商業地区まちづくり協議会（尼崎市）

「尼崎名物の再発見運動『メイドインアマガサキ・コンペ』」事業

⑤神崎社会福祉協会（尼崎市）

「神崎川メイクアップ」事業

⑥うえがはらっこクラブ（西宮市）

「はばたけ！うえがはらっこ2003」事業

⑦浜脇連合婦人会（西宮市）

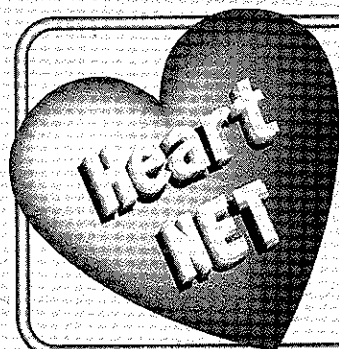
「クリエイイト in ふれあいネットワークづくり」事業



事業に取り組んだ48団体の実施報告の展示。
机の上の成果物はすぐになくなりました。



奨励賞を受けられた皆さん。
感激の涙がポロリ



生活復興県民ネットの情報誌

Vol.90

2004.4.25発行

ハートネット

発行/生活復興県民ネット

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1丁目1-3 神戸クリスタルタワー10階

TEL (078) 360-5888 FAX (078) 360-5887

URL <http://kenmin.net-hyogo.chuo.kobe.jp> E-mail nethyogo@magical.egg.or.jp

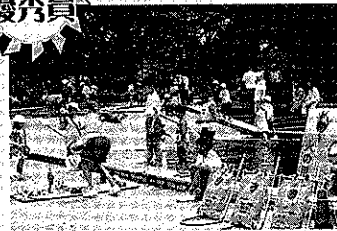


**まちの再発見運動を実施したみなさんから、
すばらしい取り組み報告がありました。**

優秀賞



優秀賞



まちのにぎわいづくりをねらいとした平成15年度「まちの再発見運動」助成団体(48団体)の事例報告会を、3月21日にクリスタルホール(神戸市中央区、神戸クリスタルタワー3階)で開催しました。今後の新しい地域活動のあり方を示すなど、優れた取り組みを行った団体が**大賞(1団体)**、**優秀賞(2団体)**、**奨励賞(7団体)**を受賞しました。



ひさいはら
日西原神楽保存会

「日西原地域生活と文化再発見」——神戸市北区

日西原地域は世帯数80戸あまりの農村地域で少子高齢化が進み、地域の活性化はもとより伝統文化の継承も困難になっていました。そこで地域の伝統行事(日西原神楽など)や美しい風景、地域に残る「こころ」を再発見しようと地域情報冊子の作成に取り組みました。冊子の作成では、地域ぐるみで取材を行い、その過程の中で「写真展」や「スライドショー」を開催したり「住民のつどい」で紹介する機会を設けました。

なかでも「住民のつどい」は、これまで年に一度の運動会終了後の慰労会であったものが、高齢者と子どもが共通の話題で話し合う場と変わっていききました。老若男女が一堂に集まり、冊子作成に向けて楽しみながら次々

新しいアイデアを出し合う集会になり、回数を重ねることで住民同士のつながりが一層深まっていきました。

また、住民の景観保全意識も高まり、棚田保全や竹林整備活動には隣接するニュータウンの多くの住民が積極的に参加するなど、人づくりにつながる事業となりました。





御蔵通5・6・7丁目自治会

「みんなで作ろう！百人百色かるた」

神戸市長田区

震災でまちの7割が焼失する甚大な被害を受けた御蔵通5・6・7丁目。この地域で、震災前から暮らす住民と新しく暮らし始めた住民が、震災の体験や新しい地域づくりへの夢や希望を「御蔵カルタ」としてまとめた。

地域住民20名で結成された「カルタ部会」は、地域住民にカルタを作成しようと広く呼びかけ、小学校1年生から88歳まで133名が参加する地域全体を巻き込んだ大きなプロジェクトとなりました。

まずカルタの読み句を募集しその後、読み句にあわせ

た絵札を募集しました。震災でこの地を離れた元住民からも応募があるなど、改めて地域への思いがより鮮明になったほか、まちづくりへの協働意識や愛着が一層深まることになりました。



上田西公園の環境を考える連絡会

「よみがえれ上田西公園『くじらのいた町再発見』」

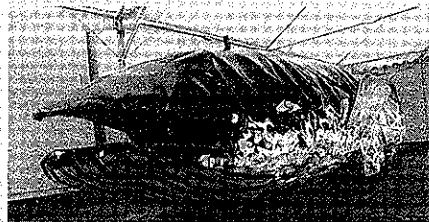
西宮市

「上田西公園」は震災後、仮設住宅の建設用地として活用され、その後はホームレスが住みつくなどして住民の集う場でなくなったことから、この公園の機能を回復しようと住民同士が協力しこの事業に取り組みました。

昭和初期には地域内にあった阪神パークで鯨が飼育されていたことから、「くじらのいた町」をテーマとして当時の写真を集めた「写真パネル展」を開催したり、子どもたちの手作りによる「くじらみこし」を使った「ふるさと祭」を同公園で実施しました。

これらの活動を継続したことで再び地域住民の公園へ

の関心が高まり、ホームレスの自主退去へとつながりました。また、昔を振り返ることで高齢者と子どもたちの交流と相互理解の機会になるなど「上田西公園」を中心に、校区を越えた地域間コミュニティが形成されました。



このほかにも奨励賞として、次の7団体が選ばれました。

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| ①大石南町まちづくり協議会（神戸市灘区） | ②神和台ネット（神戸市垂水区） |
| ③東垂水地区まちづくり推進会（神戸市垂水区） | ④中央三和出屋敷商業地区まちづくり協議会（尼崎市） |
| ⑤神崎社会福祉協会（尼崎市） | ⑥うえがはらっこクラブ（西宮市） |
| ⑦浜脇連合婦人会（西宮市） | |

小西康生審査委員長（神戸大学教授）からの講評

昨年同様、甲乙つけがたい活動内容で審査会が紛糾(笑)しました。『まちの再発見運動』への取り組みは、地域の課題を明確にしその課題に対してははっきりした目的意識を持ち、今ある地域の資源をいかに活用して課題を解決していくかという取り組みであり、しかもそのプロセスが重要であります。加えてプロセス自体が楽しい取り組みであることがさらに重要です。

これから取り組まれる場合は、結果だけではなく事業の途中のプロセスやこれからどうつないでいくかなどを盛り込めば、その事業が地域の資源を使った人材活用や人づくり、地域の活性化につながる核になるのではないのでしょうか。

—平成16年度「まちの再発見運動」を募集します。—

募集期間 5月10日(月)～5月28日(金)

詳しくは
県民ネット
事務局まで。

(平成16年3月 発行)

住 所 〒650-0044
神戸市中央区東川崎町1丁目1-3
(神戸クリスタルタワー10F)

FAX 078-360-5887